

法人 年報

第 16 号



令和 2 年度
(2020年度)

医療法人 博仁会
社会福祉法人 博友会
学校法人 志村学園

目 次

巻頭言	1
法人経営理念	
医療法人 博仁会	2
社会福祉法人 博友会	3
法人の沿革	4
志村大宮病院概要	6

第一部

1. 博仁会組織図	9
2. 博友会組織図	10
3. 志村学園組織図	11
4. 各委員会構成表	
博仁会	12
博友会	13
5. 年間行事	
博仁会	14
博友会	20
6. 博仁会事業実績	26
7. 博友会事業実績	35
8. 部門別実績報告	
〔博仁会〕	
看護局	41
一般病棟科	42
緩和ケア病棟科（エーデルワイス病棟）	43
外来科	44
回復期リハビリ病棟科（スイス館）	45
医療療養病棟科（チロル館）	46
志村地域医療連携センター	47
病院リハビリテーション科	48
機能訓練センター フリュージェル	49
画像検査科	50
志村大宮病院認知症疾患医療センター	51
老健入所科	52
おおみやホームヘルパーステーション	53
おおみや訪問看護ステーション	54
フロイデひたちなか訪問看護ステーション	54
ケアプランセンター	55
常陸大宮市南部地域包括支援センター	56
ひたちなか市北部地域包括支援センター	57

コミュニティケアサービス	57
在宅介護支援センターおおみや	60
栄養科	60
薬剤科	61
診療サービス課	62
管理部	64
経理部	66
人事課	67
法人サポート部	68
〔学校法人志村学園〕	
茨城北西看護専門学校	70
〔博友会〕	
博友会実績報告	72
事務サービスグループ	73
栄養サービスグループ	73
御前山フロイデガルテン	75
御前山デイサービスセンター	75
ごぜんやまホームヘルパーステーション	76
ごぜんやま訪問入浴サービスセンター	77
ごぜんやま総合ケアプランセンター	77
フロイデグループホーム桂	78
フロイデ総合在宅サポートセンター美和	79
フロイデ総合在宅サポートセンター城里	80
フロイデ工房しろさと	80
大宮フロイデドルフ	81
フロイデ総合在宅サポートセンター友部	82
フロイデアシストハウス大宮	83
フロイデ工房なか	84
ロッティなか	84
9. 各委員会活動報告	
〔博仁会〕	
接遇向上委員会	85
サービス改善委員会	87
医療介護安全推進委員会	88
感染対策委員会	91
褥瘡対策委員会	93
看護・介護部教育委員会	94
〔博友会〕	
サービス向上委員会	95

感染予防委員会	96
教育委員会	97
地域広報委員会	98
食事管理委員会	99
業務改善委員会	100
リスクマネジメント委員会	101
防災管理委員会	102
車両安全管理委員会	103

第二部

1. 学術活動

(1) 理事長執筆取材講演実績	107
(2) 学会発表	111

2. 各種行事

第20回全法人目標・成果発表大会	112
茨城県央・県北脳卒中地域連携パス研究会	113
謎解き&ストレス発散イベント	114
すみれ会	114
歩く会	114
総会・講習会	114

巻 頭 言

令和2年度年報発刊に当たって

医療法人博仁会
社会福祉法人博友会
学校法人志村学園
理事長 鈴木 邦彦

令和2年度（2020年度）は、当グループも新型コロナウイルス感染症対応に追われた1年でした。

その中で、令和2年4月には、フロイデ水戸メディカルプラザにおいて、定期巡回・随時対応型訪問介護看護「フロイデ水戸定期巡回サービス」を、同年5月からは、フロイデグループひたちなかにおいて、共用型認知症対応型通所介護「コキアデイサービス」を、それぞれ開始いたしました。

また、令和2年4月には、茨城北西看護専門学校に介護福祉学科（2年制、定員40名）を開設いたしました。

いずれもご利用者様および受験生のご紹介をよろしくお願い申し上げます。

さらに、令和3年度（2021年度）7月にはフロイデ水戸メディカルプラザの小規模多機能型居宅介護を看護小規模多機能型居宅介護に転換し、「フロイデ看護小規模多機能ホーム水戸堀町」として再オープンいたしました。これにより、医療ニーズの高い重介護の方にも、お看取りまで対応できるようになりました。同年10月からは、フロイデひたちなかヘルパーステーションもオープンしております。

いずれもご利用者様のご紹介をよろしくお願い申し上げます。

ところで、私は令和2年6月より茨城県医師会会長に就任させていただいております。

現在、新型コロナウイルス感染症第5波はようやく落ち着きましたが、多くの専門家は第6波は不可避免と予測しており、国の方針に沿って県と対策を協議中です。都道府県の中には、第5波においても全員入院させたところもありましたが、本県のような中等度の流行に対しては、全員を入院させることは困難でした。一方、本県は在宅医療の資源が乏しく、入院以外の感染者をすべて在宅で診ることも難しいことがわかりました。そこで第5波では、入院は中等症以上を中心とし、軽症者も在宅はあくまでも入院や宿泊療養までのつなぎと位置付け、入院できない方は宿泊療養施設を充実させて利用していただくことにしました。その結果、本県では自宅療養や宿泊療養中に亡くなられた方は一人もいませんでした。

新型コロナウイルス感染症がやがて終息すれば、本来の地域医療構想の実現や地域包括ケアシステムの構築の協議を、新型コロナのような新興・再興感染症にも対応できる形で再開しなければなりません。その際には新型コロナの重症患者にも対応できる、十分なICUと手厚い看護配置を有する高度急性期と重症急性期の入院医療に特化した高機能な急性期大病院の計画的整備という集約化と、地域包括ケアを支援する地域密着型中小病院の地域毎の配置という分散化を同時に達成する必要があります。

当院はもちろん後者を目指して、これからも自らの機能の充実・強化に取り組んで参ります。

医療法人 博仁会

【経営理念】

私たちは、お客様が住みなれた地域で、いつまでも安心して暮らしていただくために、必要な保健・医療・福祉の総合的なサービスの提供に努めます。

【経営目標】

私たちは、県央・県北西部のリハビリセンターと高齢者・障害者総合ケアシステムの確立を実現します。

【綱 領】

1. 顧客様に対する気配りを念頭におく。
1. 顧客様に対して笑顔で接し、接遇向上を常に心掛ける。
1. 品質は全職員の融和と協力によって機能が発揮される。
1. 保健と福祉は医療・介護の一環である。
1. 地域に対する配慮を大事にする。

【品質方針】

当法人は、お客様のニーズに応え、「笑顔・感謝・工夫」をモットーに、いつでもサービスの改善を心がけることにより、ご利用者様ならびにご家族様に安心を与え、信頼される保健・医療・福祉サービスを提供いたします。

【地域リハビリテーション定義】

地域リハビリテーションとは、障害のある子供や成人・高齢者とその家族が、住み慣れたところで、一生安全に、その人らしくいきいきとした生活ができるよう、保健・医療・福祉・介護及び地域住民を含め生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場から協力し合って行う活動のすべてを言う。

社会福祉法人 博友会

【経営理念】

私たちは、お客様が住み慣れた地域で、いつまでも安心して暮らしていただくために必要な保健・医療・福祉の総合的なサービスの提供に努めます。

【法人目標】

1. 社会福祉法人として地域の社会資源としての役割を認識し、多世代型プラットフォームとしての役割を果たす。
2. 事業継続できる法人運営のための収益確保と事業継続計画の策定。
3. 自立支援・重度化防止、認知症ケアの充実、終末期ケアへの対応を図る。
4. ひとり一人の生産性向上を図り、両立支援と働き方改革を推進する。
5. 職員ひとり一人が自身の未来図を描くことができるよう応援する。

【品質方針】

当法人は、お客様のニーズに応え、「笑顔・感謝・工夫」をモットーに、ご利用者様並びにご家族様に安心を与え、信頼される保健・医療・福祉サービスを提供するとともに、品質マネジメントシステムの継続的な改善に努め、常にサービスの質の向上を目指します。

【地域リハビリテーション定義】

地域リハビリテーション定義とは、障害のある子供や成人・高齢者とその家族が、住み慣れたところで、一生安全に、その人らしくいきいきとした生活ができるよう、保健・医療・福祉・介護及び地域住民を含め生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場から協力し合って行う活動のすべてを言う。

法人の沿革

昭和26年	志村大宮病院設立		フロイデ在宅サポートセンター大宮北開設
昭和28年	鈴木 芳男 理事長・院長兼任		
平成 8年	鈴木 邦彦 院長就任	平成18年	フロイデ総合在宅サポートセンター緒川開設
平成10年	鈴木 芳男 会長就任 鈴木 邦彦 理事長・院長兼任		常陸大宮市南部地域包括支援センター開設
	※		プライバシーマーク認証取得
平成 7年	おおみや訪問看護ステーション開設	平成19年	フロイデ総合在宅サポートセンター山方開設
平成 8年	老人保健施設大宮フロイデハイム開設 大宮デイケアセンター開設 大宮リハビリテーションセンター開設 在宅介護支援センターおおみや開設		フロイデ総合在宅サポートセンター水戸けやき台開設
平成10年	志村デイケアセンター開設（現在の志村デイサービスセンター） おおみやホームヘルパーステーション開設	平成20年	フロイデ総合在宅サポートセンター城里開設 医療法人 博仁会 志村大宮病院附属志村クリニックごぜんやま開設
平成11年	おおみや総合ケアプランセンター開設	平成21年	フロイデ工房しろさと（障害者就労支援施設）開設 茨城県指定「小児リハ・ステーション」開設
平成12年	療養型病棟「チロル館」開設 社会福祉法人 博友会 設立	平成22年	学校法人志村学園 茨城北西看護専門学校開校 フロイデ総合在宅サポートセンター水戸河和田開設 みとけやき台総合ケアプランセンター開設
平成13年	介護老人福祉施設「御前山フロイデガルテン」開設	平成23年	地域密着型介護老人福祉施設「大宮フロイデドルフ」開設 院内保育所「フロイデキンダーガルテン」開設
平成14年	茨城県指定「地域リハ・ステーション」開設 茨城県指定「おおみや訪問リハ・ステーション」開設	平成24年	フロイデ総合在宅サポートセンターひたちなか開設 ひたちなか総合ケアプランセンター開設
平成15年	病院機能評価「複合A（一般・長期療養）」認定取得 フロイデグループホーム桂開設 茨城県北西総合リハビリテーションセンター開設 ・回復期リハビリ病棟「スイス館」 ・総合リハビリテーション施設「ヨーデルリハビリテーションセンター」	平成25年	コミュニティカフェ「バンホフ」開設 フロイデ総合在宅サポートセンター友部開設 やまがた総合ケアプランセンター開設 病院機能評価Ver.6.0認定取得 志村フロイデ地域包括ケアセンター開設
平成16年	ISO9001：2000認証取得	平成26年	フロイデ総合在宅サポートセンター水
平成17年	地域リハビリテーション広域支援センター開設 亜急性期病床開設 フロイデ在宅サポートセンター大宮中央開設 フロイデ総合在宅サポートセンター美和開設		

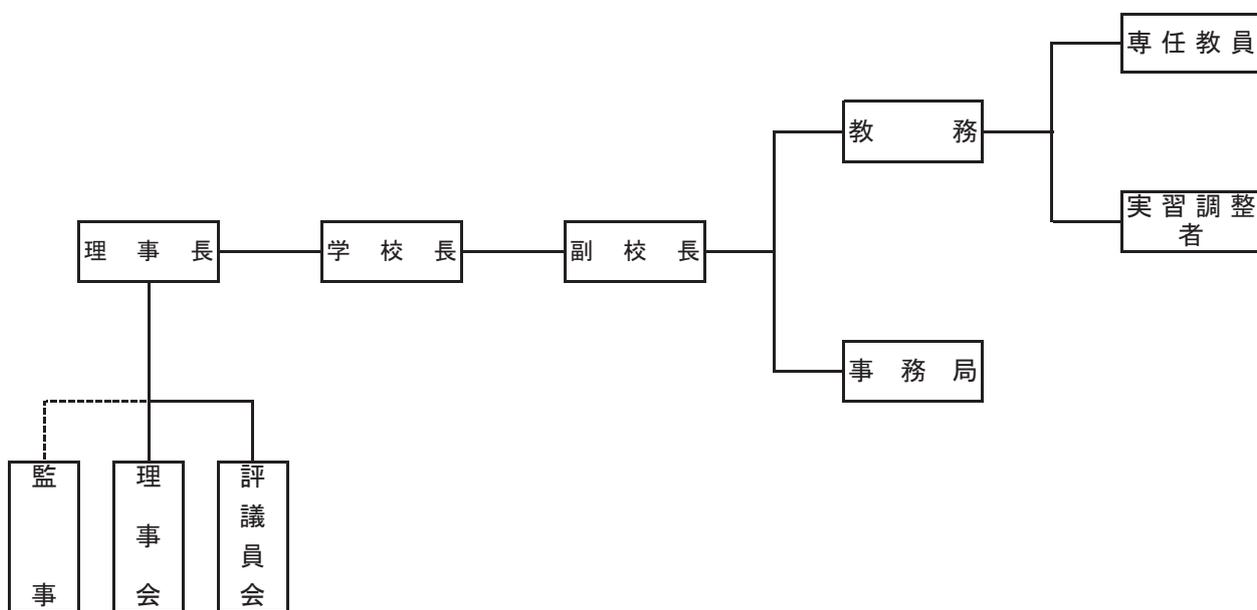
	戸げやき台小規模デイサービスつどいの家開設	令和2年	フロイデグループホームひたちなか フロイデ水戸メディカルプラザ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護
平成27年	志村大宮病院新本館「ドイツ館」竣工 ・緩和ケア「エーデルワイス病棟」開設 フロイデ総合在宅サポートセンター大宮開設 フロイデアシストハウス大宮開設 ひたちなか市北部地域包括支援センター開設 くるみんマーク（子育てサポート認定企業）認定		
平成28年	院内売店 KIOSK PLATZ 開店 志村検査・健診センター 開設		
平成29年	認知症対応型通所介護志村デイサービスセンター（さくらデイサービス）開設 茨城県指定 認知症疾患医療センター開設 在宅介護支援センターおおみや 開設 機能訓練センターフリーゲル 開設 フロイデ総合在宅サポートセンター友部 開設 フロイデアシストハウス大宮 開設 フロイデひたちなか訪問看護ステーション 開設 フロイデ工房なか 開設 ロッチェなか 開設 療養型病棟「チロル館」が医療療養病棟「チロル館」へ変更		
平成30年	病院機能評価 一般病院 1 3rdG:Ver.1.1 認定取得 副機能 リハビリテーション病院 3rdG:Ver.1.1 副機能 緩和ケア病院 3rdG:Ver.1.1 付加機能 リハビリテーション機能 (Ver.3.0)		
令和元年 (平成31年)	フロイデグループホームひたちなか いばらきテクノエイドセンター みんなの休憩所 フロイデ水戸メディカルプラザ		

志村大宮病院概要

理事長・院長	鈴木 邦彦	医療設備	全身ヘリカルマルチスライスCT、MRI、PSGシステム、超音波診断装置（腹部・心臓・泌尿器科・婦人科）、内視鏡装置（上部・下部消化管・十二指腸・気管支・喉頭・膀胱）、デジタルX線テレビ装置、その他リハビリテーション装置
所在地	茨城県常陸大宮市上町313番地 〒319-2261 Tel 0295-53-1111 Fax 0295-52-2705	病床数	許可病床数 178床 一般病棟 48床 地域包括ケア病床 12床 緩和ケア病床 20床 回復期リハビリテーション病棟 50床 医療療養病棟 48床
診療科目等	内科・消化器内科・呼吸器内科・循環器内科・神経内科・心療内科・整形外科・皮膚科・耳鼻咽喉科・泌尿器科・婦人科・小児科・眼科・リハビリテーション科・放射線科・歯科口腔外科・精神科・糖尿病外来・人間ドック・企業健診	看護体制	一般病棟 看護 10:1 緩和ケア病棟 看護 7:1 回復期リハビリテーション病棟 看護 13:1 医療療養病棟 看護 20:1 介護 20:1
常勤医師	20名		
非常勤医師	47名		

第一部

3. 学校法人 志村学園 組織図



4. 各委員会構成表（博仁会）

委員会	委員長	構成員			計	開催日	役割
医局会	鈴木 邦彦	大仲 功一	西村 公	飯塚 尚志	23名	第4月曜	院内での医師、コメディカルのコミュニケーションを取る場所。(情報交換)
		佐藤 謙治	西村 雅美	佐藤 匡美			
		鈴木 寿理	大里 晃弘	堀川 論			
		酒匂 恵子	中村 信一	高宮 一枝			
		新堀 耕基	月村 澄明	熊谷 淳夫			
		北見 好宏	山本 浩之	猿田 秀子			
		関山 忠孝	小山 大輔				
		村瀬 靖	折笠 博之				
医療介護安全推進委員会	鈴木 邦彦	大仲 功一	熊谷 淳夫	杉田 園美	20名	第4火曜	医療介護事故の分析及び再発防止などの検討。委員会によって立案された防止対策及び改善策の実施状況の調査及び見直し。医療介護安全管理のための啓発、教育、広報。
		加藤紀和子	小野 健悦	木戸田 真			
		高宮 一枝	蓮田 和也	寺門 貴			
		河野 高宏	加藤 令子	並木 道子			
		浅見 公一	鈴木三智子	宮川 直彦			
		小倉十三子	井上 美紀				
		川崎 真弓	河野あずさ				
院内感染対策委員会	鈴木 邦彦	大仲 功一	寺門 貴	並木 道子	29名	第4火曜	院内感染に対して、院内感染の予防と感染症発生時に適切かつ迅速な対応を行う。
		新堀 耕基	川崎 仁史	菊池 優子			
		高宮 一枝	河野 高宏	河野 貴仁			
		小倉十三子	熊谷 淳夫	鈴木三智子			
		小林 雅美	徳増 博	宮川 直彦			
		加藤 令子	帯施 雅信	杉田 園美			
		井上 美紀	斉藤 常司	根本 良子			
		加藤紀和子	西村 和也	木戸田 真			
接遇向上委員会	鈴木 邦彦	川崎 真弓	猿田 秀子		78名	第3月曜	職員がプロ意識を持ちご利用者に「心からの満足していただけるサービス提供」を行うため、接遇マナー向上・教育活動とご利用者のニーズを収集し、更には接遇向上のための企画立案活動を行う。
		浅見 公一	小野 健悦				
		酒匂 恵子	藤枝 弘太	岩間 武寿			
		折笠 博之	川崎 仁史	蓮田 郁絵			
		猿田 秀子	鈴木 明廣	津田 葉摘			
		小倉十三子	桑名 雅義	菅谷 美帆			
		秋山はる江	永山 智之	勝山真菜美			
		広木 薫	関 昭子	長山 敬			
		木戸田 真	小豆畑 望	山崎まり子			
		國井 崇洋	堀江 花果	齋部由有子			
		清水 良則	大和田涼太	岡山 大地			
		寺門 貴	嘉納 智子	鈴木 望美			
		黒澤 貴明	浅野 圭亮	石井さゆり			
		江幡 砂織	関 友典	大内 和子			
		河井はるみ	五位潤さやか	笹沼 風歌			
		久下沼元晶	飯干 圭紀	高野 賢二			
		高橋 幸大	小野瀬千明	立原 一茂			
		鹿嶋 宏美	鈴木 翠	木村 洋美			
		岡山 正人	近藤 佳世	小口 英司			
		高岡 宏子	小林 洸	横山 俊輔			
		杉田 園美	菊池 崇	寺島加奈子			
		吉成 恵子	關 正人	薄井 竜太			
		瀬戸谷幸枝	佐藤 恭将	富山 貴希			
		村上 遙	伊藤 拓也	木村 涼加			
		渡邊 美佳	会澤 裕子	松本幸一郎			
		菱沼 くみ	仲田 竜一	安藤 瞳			
		五十嵐 信	野上 宏恵	若林 康平			
		相沢 幸恵	宮川 直彦				
看護・介護教育委員会	加藤 令子	高宮 一枝	梶山 一枝	加藤 紀和子	9名	第3水曜	職員に対して法人内外における教育の機会を設け、資質の向上ならびに研究の推進をはかる。
		小倉十三子	小林 雅美	鈴木 三智子			
		川崎 真弓	井上 美紀				
安全衛生委員会	鈴木 邦彦	丸岡秀一郎	栗田 美香	齋部 貞治	25名	第2火曜	労働災害の防止、責任体制の明確化、職員の安全と健康を確保、快適な作業環境の形成促進。
		平根むつみ	立原 一茂	室井 英雄			
		枝松 春菜	斎藤 常司	高島 弘行			
		瓜生 光昭	河野 貴仁	皆川あゆみ			
		江幡 和子	藤田 章宏	小口 佳奈			
		安藤 瞳	坪 宗彦	鈴木 真弓			
		小園 靖範	梅澤 健	鈴木 佳貴			
		茅根 祐二	今川 光	森嶋 仁			
医療ガス安全委員会	鈴木 邦彦	高宮 一枝	脱水戸高圧ガスセンター		7名	1回/年	保守点検実施責任者に点検を行わせる。新築、増築、改修工事、及び修理等実施の際の安全確保。院内各部門への、医療ガスに関する知識の普及、啓発。
		小林 雅美					
		小倉十三子					
		梶山 一枝					
NST	鈴木 邦彦	西村 雅美	森 伊佐武	濱野千恵子	13名	毎週月曜	ご利用者様のよりよい栄養管理を迫及する。
		鈴木 規子	鈴木 佳貴	河野 高宏			
		木村 洋美	大高 真希	藤崎亜希子			
		高安 彩	坂本 美穂	片貝 拓也			
褥瘡対策委員会	西村 雅美	大仲 功一	長山 雅美	中村 麻里	42名	第3火曜	院内における褥瘡発生を予防し、褥瘡に対し発症早期より適切なケア・治療を行えるような体制を整える。
		山本 敏臣	嘉納 智子	小泉 昌司			
		飯村 誠一	田中 翔	大垣 栄子			
		小林 初美	小田倉啓吾	中山ひろ美			
		寺島加奈子	安達 文香	濱田 晴美			
		加藤可奈子	菊島 尚子	富田 良江			
		三井 麻代	小磯 幸子	補見由美子			
		木村 涼加	江幡 砂織	総引智登聖			
		中郡 享子	清水 花織	益子由紀恵			
		鈴木しず江	大木亜莉奈	四倉 幸恵			
		中村 久枝	鯉淵 忠敬	鴨志田純子			
		安藤亜希子	加藤 瑛典	中井川和子			
		清水 楨子	勝山真菜美	大内としゑ			
		五町 春香	柏 ひかり				

各委員会構成表（博友会）

委員会	主管	委員長	副委員長	構 成 員	合計	開催日	
運営委員会	鈴木 邦彦	鶴藤 正孝	秋山はる江	江幡 和子	宮田 匠	20名	第3金曜日
				藤田 章宏	佐藤 信也		
				岩間 武寿	黒澤 貴明		
				鈴木 真弓	皆川あゆみ		
				清水 良則	室井 英雄		
				大賀 譲	清水 良則		
				森 達也	仲田 竜一		
				宮路満智子	井坂 直人		
感染・褥瘡予防委員会	宮路満智子	澤幡 弘美	武川 礼子	荒井 実香	菱沼 くみ	23名	第1火曜日
				船橋香緒里	高島みち子		
				三村ひろみ	和田 道枝		
				菊地千恵子	畑中 洋子		
				中井川和子	飯塚 妙子		
				大内としゑ	小瀧 悦子		
				石井 人世	坪 ちい子		
				鈴木 勝行	小室 和子		
				小蘭 麻美	小澤恵理香		
				井坂 拓磨	澤田 歩		
				地域交流委員会	森 達也		
三宅 成美	室井 英雄						
大島美由紀	大久保洋子						
石川 健太	皆川 裕彰						
高野 賢二	平塚 和枝						
関谷 悠	山田 俊一						
食事管理委員会	鈴木 真弓	大島美由紀	河野奈緒子	小林貴美子	安藤 麻美	19名	第3水曜日 (奇数月)
				小松 幸子	安藤 彩夏		
				木村 末子	棧敷 育代		
				田中 敬子	坪 美津子		
				小澤 裕子	横山 史子		
				長谷川節子	坪 美智子		
				斎藤 倫子	菊池 恵美		
				松本久美子	関谷 悠		
教育委員会	室井 英雄	小蘭 靖範	五十嵐 信	石崎 仁子	大賀 美咲	15名	随時
				森田 一枝	金子由紀江		
				中野智江子	櫻井 則明		
				小堀 春菜	小島 礼子		
				小蘭 麻美	小堀 翼		
				高林ひろみ	佐藤 美香		
防災管理委員会	佐藤 信也	小瀧 和弥	永山 智之	篠田 由香	深谷 健太	13名	年4回 5月,8月, 11月,2月
				金子 剛	佐藤 伸		
				會澤 祐平	山田 良		
				井坂 拓磨	長岡 優太		
				鈴木 偲生	大久保洋子		
				石田 大祐	桑名 雅義		
サービス向上委員会	清水 良則	黒澤 貴明	高野 賢二	大内 和子	五十嵐 信	15名	第2火曜日
				高村 美保	會澤 裕子		
				若林 康平	河合 彩月		
				小豆畑 望	伊藤 拓也		
				関 友典	鹿嶋 宏美		
				山田 雅也	相田 春美		
リスクマネジメント委員会	藤田 章宏	中 恭平	菱沼 くみ	船橋香緒里	久保田雄一	19名	第3月曜日 (奇数月)
				廣木可奈子	小野 克摩		
				海野 智世	大谷 悦子		
				長岡 優太	平山 龍一		
				関澤 浩司	古田土百代		
				大森さおり	尾島須美子		
				鈴木瑠理子	高橋 知寿		
				矢口 梓	石本 裕子		
業務改善委員会	黒澤 貴明	嶋原 優太	金子 剛	樋口 朱斗	冨田 照子	17名	随時
				堀江 智寛	小池 正子		
				石川 愛	笹崎 仁美		
				石田 哲嗣	笠井 真弓		
				山田由紀子	高沢 歩美		
				小林 明美	吉川 裕子		
				岡崎 久美	海野 賢一		
車両安全委員会	宮田 匠	永山 智之	和知 宏明	檜山 百音	藤田 章宏	11名	第3月曜日
				佐藤 信也	雨谷 浩明		
				廣木可奈子	勝村 知也		
				笹崎 圭太	橋本 浩之		

5. 年間行事（博仁会）

〔 4 月 〕

年月日（曜日）		行 事
令和2年 4月3日	金	サービス改善ミーティング
		医療介護安全管理ミーティング・ 感染対策委員会
		各部門連絡ミーティング
4月6日	月	地域清掃活動
		全体朝礼
4月11日	土	地域包括ケアミーティング
		戦略ミーティング
4月13日	月	食事改善推進プロジェクト
		医局会
		PSTミーティング
		薬剤・DPCミーティング
4月14日	火	クリティカルパス推進委員会
		コア6ミーティング
		接遇向上委員会
4月16日	木	茨城北西総合リハビリテーション センター運営ミーティング
		褥瘡対策委員会
		運営ミーティング
		事務ミーティング
		法人サポート部ミーティング・ ショップ運営ミーティング
		看護学校ミーティング
介護福祉学科ミーティング		
4月17日	金	フロイデ水戸メディカルプラザ 運営ミーティング
4月22日	水	感染対策小委員会
4月27日	月	呼吸器センターミーティング
		認知症連携ミーティング
		経営会議

〔 5 月 〕

年月日（曜日）		行 事
令和2年 5月7日	木	地域包括ケアミーティング
		経営戦略会議
		医療介護安全管理ミーティング・ 感染対策委員会（4月分）
		各部門連絡ミーティング（4月分）
5月11日	月	サービス改善ミーティング
5月11日	月	食事改善推進プロジェクト
5月12日	火	クリティカルパス推進委員会
		コア6ミーティング
		接遇向上委員会
5月21日	木	褥瘡対策委員会
5月25日	月	地域清掃活動
		全体朝礼
		医局会
		PSTミーティング
		薬剤・DPCミーティング
5月27日	水	経営会議
		フロイデ水戸メディカルプラザ 運営ミーティング
		感染対策小委員会
5月28日	木	リハビリテーションセンター事業 ミーティング
		タウンマネジメントミーティング
		事務ミーティング
		志村学園ミーティング

〔 6 月 〕

年月日（曜日）	行	事
令和2年 6月1日	月	呼吸器センターミーティング(5月分)
		認知症連携ミーティング
6月8日	月	地域清掃活動
		全体朝礼
		食事改善推進プロジェクト
		医療介護安全管理ミーティング・ 感染対策委員会（5月分）
		各部門連絡ミーティング（5月分）
		サービス改善ミーティング
6月9日	火	クリティカルパス推進委員会
		コア6ミーティング
		接遇向上委員会
6月18日	木	経営戦略会議
		地域包括ケアミーティング
		褥瘡対策委員会
6月19日	金	事務ミーティング
		志村学園ミーティング
		タウンマネジメントミーティング
6月23日	火	リハビリテーションセンター事業 ミーティング
		呼吸器センターミーティング
		認知症連携ミーティング
		フロイデ水戸メディカルプラザ 運営ミーティング
6月24日	水	感染対策小委員会
6月25日	木	経営会議
6月29日	月	医局会
		PSTミーティング
		薬剤・DPCミーティング

〔 7 月 〕

年月日（曜日）	行	事
令和2年 7月6日	月	地域清掃活動
		全体朝礼
		医療介護安全管理ミーティング・ 感染対策委員会（6月分）
		各部門連絡ミーティング（6月分） サービス改善ミーティング
7月13日	月	食事改善推進プロジェクト
7月14日	火	経営戦略会議
		地域包括ケアミーティング
		クリティカルパス推進委員会
		コア6ミーティング 接遇向上委員会
7月16日	木	褥瘡対策委員会
7月20日	月	医局会
		PSTミーティング 薬剤・DPCミーティング
7月21日	火	志村学園ミーティング
		事務ミーティング タウンマネジメントミーティング
7月22日	水	感染対策小委員会
7月30日	木	フロイデ水戸メディカルプラザ 運営ミーティング

〔 8 月 〕

年月日（曜日）	行 事
令和2年 8月3日	地域清掃活動
	全体朝礼
	呼吸器センターミーティング（7月分）
	認知症連携ミーティング（7月分）
	経営会議（7月分）
8月4日	医療介護安全管理ミーティング・ 感染対策委員会（7月分）
	各部門連絡ミーティング（7月分）
	サービス改善ミーティング
8月11日	クリティカルパス推進委員会
	コア6ミーティング
	接遇向上委員会
8月17日	食事改善推進プロジェクト
	経営戦略会議
	地域包括ケアミーティング
8月20日	事務ミーティング
	タウンマネジメントミーティング
	リハビリテーションセンター事業 ミーティング
	褥瘡対策委員会
8月24日	医局会
	PSTミーティング
	薬剤・DPCミーティング
8月25日	フロイデ水戸メディカルプラザ 運営ミーティング
8月26日	感染対策小委員会
8月31日	呼吸器センターミーティング
	認知症連携ミーティング
	志村学園ミーティング
	経営会議

〔 9 月 〕

年月日（曜日）	行 事
令和2年 9月1日	火 経営会議（8月分）
9月7日	月 地域清掃活動
	全体朝礼
9月8日	火 呼吸器センターミーティング（8月分）
	認知症連携ミーティング（8月分）
	志村学園ミーティング（8月分）
	クリティカルパス推進委員会
	コア6ミーティング
9月9日	水 接遇向上委員会
	医療介護安全管理ミーティング・ 感染対策委員会（8月分）
	各部門連絡ミーティング（8月分）
9月14日	月 食事改善推進プロジェクト
	水 サービス改善ミーティング（8・9 月分）
9月16日	水 フロイデ水戸メディカルプラザ 運営ミーティング
9月17日	木 褥瘡対策委員会
9月18日	金 経営戦略会議
	地域包括ケアミーティング
9月23日	水 事務ミーティング
	タウンマネジメントミーティング
	感染対策小委員会
9月24日	木 リハビリテーションセンター事業 ミーティング
9月28日	月 医局会
	PSTミーティング
	薬剤・DPCミーティング
	志村学園ミーティング
	経営会議

〔 10 月 〕

年月日（曜日）	行 事
令和2年 10月5日	地域清掃活動
	全体朝礼
	医療介護安全管理ミーティング・ 感染対策委員会（9月分）
	各部門連絡ミーティング（9月分）
	サービス改善ミーティング
10月6日	火 認知症連携ミーティング（9月分）
10月12日	月 食事改善推進プロジェクト
	呼吸器センターミーティング
10月13日	火 フロイデ水戸メディカルプラザ 運営ミーティング
	クリティカルパス推進委員会
	コア6ミーティング
10月15日	木 接遇向上委員会
	褥瘡対策委員会
10月16日	金 経営戦略会議
	地域包括ケアミーティング（9・10 月分）
	タウンマネジメントミーティング
10月19日	月 医局会
	PSTミーティング
	薬剤・DPCミーティング
10月22日	木 リハビリテーションセンター事業 ミーティング
	事務ミーティング
10月26日	月 消化器ミーティング
	認知症連携ミーティング
	志村学園ミーティング（9・10月分）
	経営会議

〔 11 月 〕

年月日（曜日）	行 事
令和2年 11月2日	月 地域清掃活動
	全体朝礼
	呼吸器センターミーティング（10 月分）
	消化器ミーティング（10月分）
	認知症連携ミーティング（10月分）
11月5日	木 経営会議（10月分）
11月9日	月 食事改善推進プロジェクト
	医療介護安全管理ミーティング・ 感染対策委員会（10月分）
11月10日	火 各部門連絡ミーティング（10月分）
	クリティカルパス推進委員会
	コア6ミーティング
11月11日	水 接遇向上委員会
	志村学園ミーティング（9・10月分）
11月12日	木 サービス改善ミーティング
	フロイデ水戸メディカルプラザ 運営ミーティング
11月16日	月 医局会
	PSTミーティング
	薬剤・DPCミーティング
11月17日	火 経営戦略会議
	地域包括ケアミーティング タウンマネジメントミーティング
11月19日	木 リハビリテーションセンター事業 ミーティング
	褥瘡対策委員会
11月20日	金 事務ミーティング
11月25日	水 感染対策小委員会
11月30日	月 呼吸器センターミーティング
	消化器ミーティング
	認知症連携ミーティング
	志村学園ミーティング
	経営会議

〔 12 月 〕

年月日（曜日）	行	事
令和2年 12月1日	火	経営会議
12月7日	月	地域清掃活動
		全体朝礼
		医療介護安全管理ミーティング・ 感染対策委員会（11月分）
		各部門連絡ミーティング（11月分）
12月8日	火	クリティカルパス推進委員会
		コア6ミーティング
		接遇向上委員会
12月11日	金	サービス改善ミーティング
		タウンマネジメントミーティング
12月14日	月	食事改善推進プロジェクト
		医局会
		PSTミーティング
		薬剤・DPCミーティング
12月17日	木	褥瘡対策委員会
12月21日	月	呼吸器センターミーティング
		消化器ミーティング
		認知症連携ミーティング
		志村学園ミーティング
		事務ミーティング
		リハビリテーション事業ミーティング
12月23日	水	フロイデ水戸メディカルプラザ 運営ミーティング
		感染対策小委員会
12月24日	木	地域包括ケアミーティング
		経営戦略会議
		経営会議

〔 1 月 〕

年月日（曜日）	行	事
令和3年 1月4日	月	地域清掃活動
		全体朝礼
1月5日	火	医療介護安全管理ミーティング・ 感染対策委員会（12月分）
		各部門連絡ミーティング（12月分）
1月12日	火	クリティカルパス推進委員会
		コア6ミーティング
		接遇向上委員会
1月15日	金	サービス改善ミーティング
		タウンマネジメントミーティング
		地域包括ケアミーティング
1月18日	月	食事改善推進プロジェクト
		医局会
		PSTミーティング
		薬剤・DPCミーティング
1月20日	水	フロイデ水戸メディカルプラザ 運営ミーティング
1月21日	木	褥瘡対策委員会
1月25日	月	呼吸器センターミーティング
		消化器ミーティング
		認知症連携ミーティング
1月27日	水	感染対策小委員会
1月28日	木	リハビリテーション事業ミーティング
		事務ミーティング
		経営戦略会議
		経営会議
		志村学園ミーティング

〔 2 月 〕

年月日（曜日）	行	事
令和3年 2月1日	月	地域清掃活動
		全体朝礼
2月8日	月	食事改善推進プロジェクト
		医療介護安全管理ミーティング・ 感染対策委員会（1月分）
		各部門連絡ミーティング（1月分）
2月9日	火	クリティカルパス推進委員会
		コア6ミーティング
		接遇向上委員会
2月15日	月	サービス改善ミーティング
		地域包括ケアミーティング
		医局会
		PSTミーティング
		薬剤・DPCミーティング
2月17日	水	フロイデ水戸メディカルプラザ 運営ミーティング
2月18日	木	褥瘡対策委員会
2月20日	土	消化器ミーティング
		認知症連携ミーティング
		志村学園ミーティング
2月24日	水	感染対策小委員会
2月25日	木	タウンマネジメントミーティング
		リハビリテーション事業ミーティ ング
2月26日	金	経営戦略会議
		経営会議

〔 3 月 〕

年月日（曜日）	行	事
令和3年 3月1日	月	地域清掃活動
		全体朝礼
		呼吸器センターミーティング（2月分）
		事務ミーティング（2月分）
3月8日	月	医療介護安全管理ミーティング・ 感染対策委員会（2月分）
		各部門連絡ミーティング（2月分）
		食事改善推進プロジェクト
3月9日	火	クリティカルパス推進委員会
		コア6ミーティング
		接遇向上委員会
3月12日	金	地域包括ケアミーティング
3月15日	月	医局会
		PSTミーティング
		薬剤・DPCミーティング
		志村学園ミーティング
3月17日	水	フロイデ水戸メディカルプラザ 運営ミーティング
3月18日	木	褥瘡対策委員会
3月19日	金	事務ミーティング
		タウンマネジメントミーティング
3月24日	水	感染対策小委員会
3月25日	木	リハビリテーション事業ミーティ ング
3月26日	金	経営戦略会議
		経営会議
3月29日	月	呼吸器センターミーティング
		消化器ミーティング
		認知症連携ミーティング
		サービス改善ミーティング

年間行事（博友会）

〔 4 月 〕

年月日（曜日）		行 事
令和2年 4月1日	水	令和2年度新規採用職員入社式
4月3日	金	医療安全・各部門ミーティング
4月4日	土	美和デイミーティング
4月6日	月	博友会運営ミーティング
4月7日	火	地域清掃作業
		博友会全体朝礼
		看護職員ミーティング
		感染褥瘡予防委員会
4月8日	水	事務ミーティング
		栄養サービスグループミーティング
		サポートセンター城里全体ミーティング
4月10日	金	地域清掃作業
		サポートセンター友部全体ミーティング
4月14日	火	上期理事長面接
		サービス向上委員会
4月15日	水	上期理事長面接
		グループホーム美和カンファレンス・ミーティング
		食事委員会
4月16日	木	運営会議
		事務会議
		広報委員会
		法人サポート部ミーティング
4月20日	月	リスクマネジメント委員会
		車両安全管理委員会
		事務サービスグループミーティング
4月21日	火	ドルフ運営推進会議
		ベトナム教育ミーティング
4月22日	水	事務ミーティング
		グループホーム桂ミーティング
		ケアプランミーティング
		訪問入浴ミーティング
4月24日	金	令和元年新卒者1年フォローアップ
4月27日	月	経営会議
4月28日	火	城里運営推進会議
		ガルテンリーダーミーティング
		ドルフリーダーミーティング

〔 5 月 〕

年月日（曜日）		行 事
令和2年 5月4日	月	美和デイミーティング
5月7日	木	経営戦略会議
		医療安全・各部門ミーティング
5月8日	金	地域清掃作業
		栄養サービスグループミーティング
		サポートセンター友部全体ミーティング
5月9日	土	グループホーム桂ミーティング
5月12日	火	地域清掃作業
		博友会全体朝礼
		看護職員ミーティング
		感染褥瘡予防委員会
5月13日	水	サービス向上委員会
		事務ミーティング
		サポートセンター城里全体ミーティング
5月15日	金	サポートセンター城里勉強会
		博友会運営ミーティング
5月17日	日	会計監査(小野瀬公認会計士事務所)
5月18日	月	リスクマネジメント委員会
		車両安全管理委員会
5月20日	水	食事委員会
		ケアプランミーティング
		ごぜんやま訪問入浴センターミーティング
5月21日	木	ベトナム生活支援ミーティング
5月22日	金	事務会議
		タウンマネジメントミーティング
5月23日	土	御前山デイミーティング
		御前山デイ職員勉強会
5月25日	月	博仁会地域清掃作業
5月26日	火	ガルテンリーダーミーティング
		ドルフリーダーミーティング
5月27日	水	事務ミーティング
		経営会議
		事務サービスグループミーティング
		事務サービスグループ勉強会

〔 6 月 〕

年月日（曜日）		行 事
令和2年 6月1日	月	地域清掃作業
6月2日	火	地域清掃作業
		博友会全体朝礼
		看護職員ミーティング
		感染褥瘡予防委員会
6月6日	土	美和デイミーティング
6月8日	月	グループホーム桂ミーティング
		医療安全・各部門ミーティング
		栄養サービスグループミーティング
6月9日	火	地域清掃作業
		避難訓練
		サービス向上委員会
		サポートセンター友部全体ミーティング
		サポートセンター友部勉強会
6月10日	水	事務ミーティング
		経営戦略会議
		サポートセンター城里全体ミーティング
		サポートセンター城里勉強会
		ガルテン電気点検
6月15日	月	リスクマネジメント委員会
		車両安全管理委員会
6月17日	水	入所検討委員会
		食事委員会
6月19日	金	事務会議
		タウンマネジメントミーティング
		博友会運営ミーティング
		志村フロイデグループ安全衛生委員会
6月20日	土	御前山デイミーティング
6月23日	火	ガルテンリーダーミーティング
		ドルフリーダーミーティング
6月24日	水	事務ミーティング
		事務サービスグループミーティング
		事務サービスグループ勉強会
		ケアプランミーティング
		訪問入浴ミーティング
6月25日	木	経営会議

〔 7 月 〕

年月日（曜日）		行 事
令和2年 7月4日	土	グループホーム桂ミーティング
		美和デイミーティング
7月6日	月	医療安全・各部門ミーティング
7月7日	火	地域清掃作業
		博友会全体朝礼
		看護職員ミーティング
		栄養サービスグループミーティング
7月8日	水	事務ミーティング
		本部事務局会議
		サポートセンター城里全体ミーティング
		サポートセンター城里勉強会
7月9日	木	ベトナム生活支援ミーティング
		サポートセンター友部全体ミーティング
		サポートセンター友部勉強会
7月14日	火	経営戦略会議
		サービス向上委員会
7月15日	水	グループホーム美和カンファレンス・ミーティング
		食事委員会
7月17日	金	博友会運営ミーティング
		チームSWLミーティング
		志村フロイデグループ安全衛生委員会
7月18日	土	御前山デイミーティング
7月20日	月	リスクマネジメント委員会
		車両安全管理委員会
		入所連携ミーティング
7月21日	火	事務会議
		タウンマネジメントミーティング
		ガルテンリーダーミーティング
7月22日	水	事務ミーティング
		本部事務局会議
		事務サービスグループミーティング
		事務サービスグループ勉強会
7月27日	月	賞与支給
7月28日	火	経営会議
		ドルフリーダーミーティング
7月29日	水	ケアプランミーティング
		ごぜんやま訪問入浴センターミーティング
7月30日	木	ベトナム教育ミーティング

〔 8 月 〕

年月日（曜日）		行 事
令和2年 8月1日	土	栄養サービスグループミーティング サポートセンター美和デイミー ティング
8月3日	月	経営会議 ※7月分
8月4日	火	地域清掃作業
		博友会全体朝礼
		看護職員ミーティング
		医療安全・各部門ミーティング
		感染褥瘡予防委員会
8月11日	火	サポートセンター友部地域清掃 サービス向上委員会
		サポートセンター友部全体ミー ティング
		サポートセンター友部勉強会
8月12日	水	事務ミーティング
		本部事務局会議
		サポートセンター城里全体ミー ティング
8月17日	月	サポートセンター城里勉強会
		経営戦略会議
8月18日	火	リスクマネジメント委員会
		車両安全管理委員会
8月19日	水	ドルフ運営推進会議
		グループホーム美和カンファレン ス・ミーティング
		入所検討委員会
8月20日	木	食事委員会
		事務会議
8月21日	金	タウンマネジメントミーティング
		安全衛生委員会
8月22日	土	博友会運営ミーティング
8月23日	日	城里オレンジカフェ
8月25日	火	オレンジカフェ
		御前山デイミーティング
		城里運営推進会議
		ガルテンリーダーミーティング
8月26日	水	事務サービスグループミーティング
		事務サービスグループ勉強会
		グループホーム桂ミーティング
		事務ミーティング
		本部事務局会議
8月27日	木	ガルテン避難訓練（日中）
		ケアプランミーティング
		ごぜんやま訪問入浴センターミー ティング
8月28日	金	防災管理委員会
8月31日	月	グループホーム桂外部評価
		入所連携ミーティング 経営会議

〔 9 月 〕

年月日（曜日）		行 事
令和2年 9月1日	火	地域清掃作業
		博友会全体朝礼
		看護職員ミーティング
		感染褥瘡予防委員会
9月2日	水	経営会議（8月分）
9月3日	木	会計監査（小野瀬公認会計士事務所）
9月5日	土	消防用設備保守点検（アシスト友部）
		消防用設備保守点検（サポートセンター友部）
9月8日	火	消防用設備保守点検（ガルテン）
		地域清掃
		消防用設備保守点検（ドルフ）
		消防用設備保守点検（グループホーム桂）
		消防用設備保守点検（サポートセンター美和）
		消防用設備保守点検（アシスト大宮）
		医療安全・各部門ミーティング
		2期生技能実習評価試験対策
		ベトナム教育ミーティング
		サポートセンター美和デイミーティング
9月9日	水	サポートセンター友部全体ミーティング
		サポートセンター友部勉強会
		事務ミーティング
		本部事務局会議
9月10日	木	消防用設備保守点検（サポートセンター城里）
		サポートセンター城里全体ミーティング
		サポートセンター城里勉強会
9月15日	火	栄養サービスグループミーティング
9月16日	水	ベトナム生活支援ミーティング
		サービス向上委員会
9月18日	金	グループホーム美和カンファレン ス・ミーティング
		食事委員会
		グループホーム桂ミーティング
		経営戦略会議
9月21日	月	志村フロイデグループ安全衛生委員会
		博友会運営ミーティング
		チームSWLミーティング
9月22日	火	リスクマネジメント委員会
9月23日	水	車両安全管理委員会
		ガルテンリーダーミーティング
		事務ミーティング
		本部事務局会議
		事務会議
		タウンマネジメントミーティング
		事務サービスグループミーティング
事務サービスグループ勉強会		
9月27日	日	ケアプランミーティング
		訪問入浴ミーティング
9月28日	月	御前山デイミーティング
		御前山デイ勉強会
9月29日	火	経営会議
9月29日	火	友部デイ実地指導
		ドルフリーダーミーティング
9月29日	火	入所連携ミーティング（DHG）

〔 10 月 〕

年月日（曜日）		行 事
令和2年 10月3日	土	サポートセンター美和デイミーティング
10月5日	月	医療安全・各部門ミーティング
10月6日	火	地域清掃作業
		博友会全体朝礼
		看護職員ミーティング
		感染褥瘡予防委員会
		2期生評価試験対策研修
		ベトナム教育ミーティング
10月7日	水	地域清掃作業
		サポートセンター友部全体ミーティング
		サポートセンター城里全体ミーティング
		サポートセンター友部勉強会
		サポートセンター城里勉強会
10月8日	木	第7回茨城北西まちづくり研究会
10月9日	金	栄養サービスグループミーティング
10月13日	火	サービス向上委員会
10月14日	水	事務ミーティング
		本部事務局会議
10月16日	金	経営戦略会議
		タウンマネジメントミーティング
		博友会運営ミーティング
		チームSWLミーティング
10月17日	土	城里オレンジカフェ
10月19日	月	グループホーム桂ミーティング
10月20日	火	理事長面接(予定)
		リスクマネジメント委員会
		車両安全管理委員会
		ガルテンリーダーミーティング
10月21日	水	理事長面接(予定)
		グループホーム美和カンファレンス・ミーティング
		食事委員会
10月22日	木	事務会議
10月24日	土	志村フロイデグループ安全衛生委員会
10月24日	土	環境美化コンクール
		御前山デイミーティング
10月25日	日	御前山デイ職員勉強会
		経営会議
10月26日	月	入所連携ミーティング
		城里運営推進会議
10月27日	火	ドルフ運営推進会議
		ドルフリーダーミーティング
		事務ミーティング
10月28日	水	本部事務局会議
		事務サービスグループミーティング
		事務サービスグループ勉強会
		ケアプランミーティング
		ごぜんやま訪問入浴センターミーティング
10月31日	土	グループホーム桂消防訓練

〔 11 月 〕

年月日（曜日）		行 事
令和2年 11月5日	木	経営会議
11月7日	土	サポートセンター美和デイミーティング
11月9日	月	地域清掃
		医療安全・各部門ミーティング
		サポートセンター友部全体ミーティング
		サポートセンター友部勉強会
		地域清掃作業
11月10日	火	博友会全体朝礼
		看護職員ミーティング
		栄養サービスグループミーティング
		感染褥瘡予防委員会
		サービス向上委員会
		事務ミーティング
11月11日	水	本部事務局会議
		ベトナム教育ミーティング
		サポートセンター城里全体ミーティング
		サポートセンター城里勉強会
11月16日	月	グループホーム桂ミーティング
		車両安全管理委員会
11月17日	火	経営戦略会議
		タウンマネジメントミーティング
11月18日	水	食事委員会
		グループホーム美和カンファレンス・ミーティング
11月20日	金	事務会議
		博友会運営ミーティング
11月22日	日	ガルテンSWLミーティング
		御前山デイミーティング
11月22日	日	御前山デイ職員勉強会
		ドルフリーダーミーティング
11月24日	火	事務ミーティング
		本部事務局会議
		事務サービスグループミーティング
		事務サービスグループ勉強会
11月26日	木	リスクマネジメント委員会
		ガルテンリーダーミーティング
		志村フロイデグループ安全衛生委員会
11月27日	金	働き方改革コンサル
		ケアプランミーティング
		ごぜんやま訪問入浴センターミーティング
11月29日	日	常陸大宮市日本語スピーチコンテスト
11月30日	月	経営会議
		入所連携ミーティング

〔 12 月 〕

年月日（曜日）		行 事
令和2年 12月1日	火	地域清掃作業
		博友会全体朝礼
		看護職員ミーティング
		経営会議
		感染褥瘡予防委員会
12月5日	土	サポートセンター美和デイミーティング
12月7日	月	地域清掃
		医療安全・各部門ミーティング
		サポートセンター友部全体ミーティング
		サポートセンター友部勉強会
12月8日	火	ベトナム教育ミーティング
		サービス向上委員会
12月9日	水	事務ミーティング
		本部事務局会議
		サポートセンター城里全体ミーティング
		サポートセンター城里勉強会
12月10日	木	栄養サービスグループミーティング
12月11日	金	タウンマネジメントミーティング
12月12日	土	御前山デイミーティング
		御前山デイ職員勉強会
12月14日	月	グループホーム桂ミーティング
12月15日	火	ドルフ運営推進会議
12月16日	水	グループホーム美和カンファレンス・ミーティング
		食事委員会
		入所検討委員会
12月17日	木	介護部ミーティング
12月18日	金	博友会運営ミーティング
12月20日	日	謎解き&ストレス発散イベント
12月21日	月	車両安全管理委員会
		事務会議
12月22日	火	城里運営推進会議
		リスクマネジメント委員会
		ユニットリーダーミーティング
		ドルフリーダーミーティング
12月23日	水	事務ミーティング
		本部事務局会議
		事務サービスグループミーティング
		事務サービスグループ勉強会
12月24日	木	経営戦略会議
		経営会議
		志村フロイデグループ安全衛生委員会
12月28日	月	入所連携ミーティング

〔 1 月 〕

年月日（曜日）		行 事
令和3年 1月5日	火	地域清掃作業
		博友会全体朝礼
		看護職員ミーティング
		感染褥瘡委員会
		医療安全・各部門ミーティング
1月8日	金	地域清掃
		サポートセンター友部全体ミーティング
		サポートセンター友部勉強会
1月9日	土	栄養サービスグループミーティング
		サポートセンター美和デイミーティング
1月12日	火	ベトナム教育ミーティング
		サービス向上委員会
1月13日	水	事務ミーティング
		本部事務局会議
		サポートセンター城里全体ミーティング
		サポートセンター城里勉強会
1月15日	金	タウンマネジメントミーティング
		働き方改革管理者向け研修会
		食事委員会
1月16日	土	御前山デイミーティング
		御前山デイ勉強会
1月18日	月	車両安全管理委員会
1月20日	水	グループホーム美和カンファレンス・ミーティング
1月22日	金	博友会運営ミーティング
		チームSWLミーティング
1月25日	月	桂ミーティング
		働き方コンサル
		入所連携ミーティング
1月26日	火	事務サービスグループミーティング
		事務サービスグループ勉強会
		リスクマネジメント委員会
		ガルテンリーダーミーティング
1月27日	水	ドルフリーダーミーティング
		事務ミーティング
		本部事務局会議
		ケアプランミーティング
1月28日	木	訪問入浴ミーティング
		ベトナム技能実習生辞令交付式
		事務会議
		経営戦略会議
		経営会議
		志村フロイデグループ安全衛生委員会

〔 2 月 〕

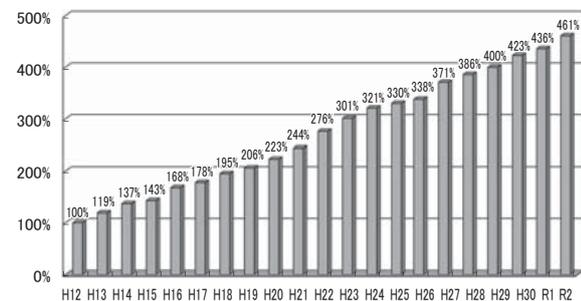
年月日（曜日）		行 事
令和3年 2月2日	火	地域清掃作業
		博友会全体朝礼
		ISOサーベイランス・特別審査
		看護職員ミーティング
		栄養サービスグループミーティング
2月3日	水	ISOサーベイランス・特別審査
2月4日	木	ISOサーベイランス・特別審査
2月6日	土	環境美化コンクール
		サポートセンター美和デイミーティング
2月8日	月	地域清掃
		医療安全・各部門ミーティング
		サポートセンター友部全体ミーティング
		サポートセンター友部勉強会
2月9日	火	サービス向上委員会
2月10日	水	事務ミーティング
		本部事務局会議
		サポートセンター城里全体ミーティング
		サポートセンター城里勉強会
2月15日	月	車両安全管理委員会
		ベトナム教育ミーティング
2月16日	火	城里運営推進会議
		リスクマネジメント委員会
		感染褥瘡委員会
		ガルテンユニットリーダーミーティング
2月17日	水	グループホーム美和カンファレンス・ミーティング
		食事委員会
2月19日	金	プライバシーマーク更新審査
		タウンマネジメントミーティング
2月20日	土	御前山デイミーティング
		御前山デイ勉強会
2月22日	月	事務サービスグループミーティング
		事務サービスグループ勉強会
		博友会運営ミーティング
		入所連携ミーティング
2月24日	水	事務ミーティング
		本部事務局会議
		働き方改革コンサル
		ドルフリーダーミーティング
		ケアプランミーティング
2月25日	木	ごぜんやま訪問入浴センターミーティング
		桂ミーティング
		経営会議
		事務会議
2月26日	金	経営戦略会議
		志村フロイデグループ安全衛生委員会
		中途入職者向け法人研修
		全職員接遇研修会

〔 3 月 〕

年月日（曜日）		行 事
令和3年 3月1日	月	消防用設備保守点検(アシスト友部)
		消防用設備保守点検(サポートセンター友部)
		栄養サービスグループミーティング
		事務会議
3月2日	火	地域清掃作業
		博友会全体朝礼
		会計監査(小野瀬公認会計士事務所)
		医務ミーティング
3月4日	木	感染・褥瘡予防委員会
		消防用設備保守点検(グループホーム桂)
3月5日	金	消防用設備保守点検(サポートセンター美和)
3月6日	土	消防用設備保守点検(サポートセンター城里)
		消防用設備保守点検・防火設備検査(ガルテン)
3月8日	月	サポートセンター美和デイミーティング
3月8日	月	地域清掃
		医療安全・各部門ミーティング
		サポートセンター友部全体ミーティング
		サポートセンター友部勉強会
3月9日	火	サービス向上委員会
3月10日	水	事務ミーティング
		本部事務局会議
		消防用設備保守点検(ドルフ)
		消防用設備保守点検(アシスト大宮)
		サポートセンター城里全体ミーティング
3月13日	土	サポートセンター城里勉強会
		御前山デイミーティング
3月15日	月	御前山デイ職員勉強会
3月16日 ～30日		車両安全管理委員会
3月17日	水	ベトナム教育ミーティング
3月17日	水	2021年度新規採用職員研修会
3月17日	水	グループホーム美和カンファレンス・ミーティング
3月18日	木	食事委員会
3月19日	金	志村フロイデグループ安全衛生委員会
3月19日	金	事務会議
3月21日	日	タウンマネジメントミーティング
3月22日	月	第2回地域包括ケア学会
3月23日	火	博友会運営ミーティング
		業務改善委員会
3月24日	水	ドルフリーダーミーティング
		事務ミーティング
		桂ミーティング
		本部事務局会議
		ガルテン避難訓練(夜間)
		ケアプランミーティング
3月25日	木	ごぜんやま訪問入浴センターミーティング
		リスクマネジメント委員会
		事務サービスグループミーティング
		事務サービスグループ勉強会
3月26日	金	経営戦略会議
		経営会議
		ガルテンリーダーミーティング

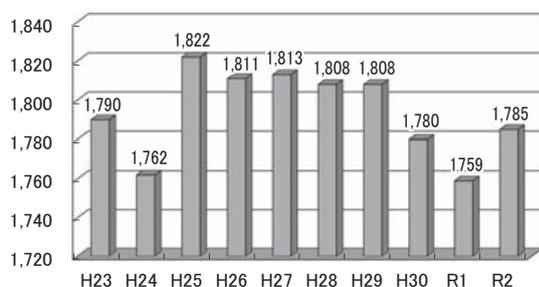
6. 博仁会 事業実績

◎全体実績推移



◎一般病棟科の実績

患者数推移



当日収入患者数 目標：59名／月
実績：58.6名／月

平均在院日数 目標：19.0日以下
実績：16.8日

重症度、医療・看護必要度
目標：21.1%以上
実績：28.6%／月

メディカルショートステイの受け入れ
目標：年間18件
実績：6件

摂食機能療法算定 目標：52件／月
実績：33.6件／月

認知症ケア加算 目標：200件／月
実績：314件／月

退院前・後訪問指導料 目標：3件
実績：0件

地域包括ケア病床在宅復帰率70%以上の確保
目標：70%
実績：83%

排尿自立支援加算 目標：12件／年
実績：11件／年

入退院支援加算1 目標：10件／月
実績：15.3件／月

救急・在宅等支援病床

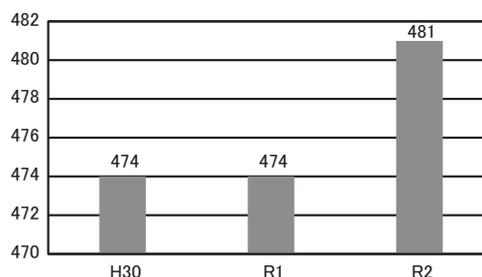
初期加算 目標：35件
実績：59.8件

残業時間の削減

目標：60.5時間（10%削減）
実績：年間2127.3時間の削減（27.8%削減）

◎緩和ケア病棟科の実績

患者数推移



・緩和ケア対象患者の確保
病床利用率

目標：17床／月
実績：16.0床／月
達成率：93.7%

入院患者数の増加

目標：120名
実績：116名
達成率：96.7%

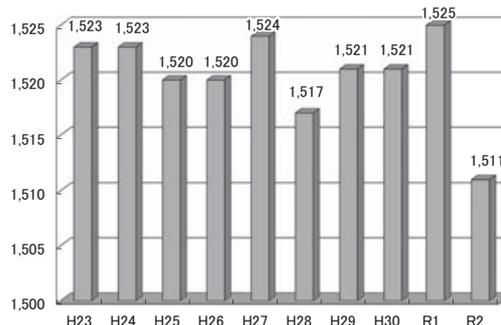
緩和ケア入院基本料1

在宅復帰 目標：16%／年
実績：15%／年

待機期間 目標：10日／年
実績：7.9日／年

◎回復期リハビリ病棟科の実績

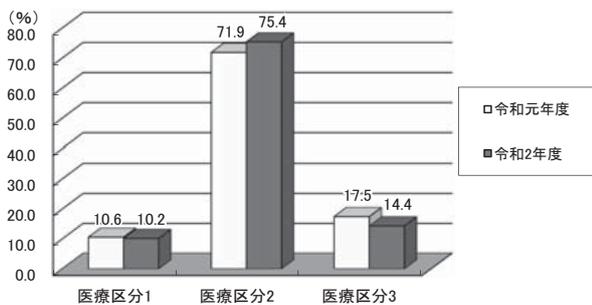
患者数推移



- 回復期リハビリテーション病棟入院料1の算定重症患者比率
 - 目標：30%以上
 - 実績：37.3%
- 重症患者回復比率
 - 目標：30%以上
 - 実績：59.5%
- 在宅復帰率
 - 目標：80%以上
 - 実績：90.9%
- 病床利用率
 - 目標：100.0%
 - 実績：99.3%
- 摂食機能療法
 - 目標：93回/月
 - 実績：112回
- 認知症ケア加算1算定
 - 目標：150件/月
 - 実績：173.5件/月
- 排尿自立加算
 - 目標：1件/月
 - 実績：2.1件/月

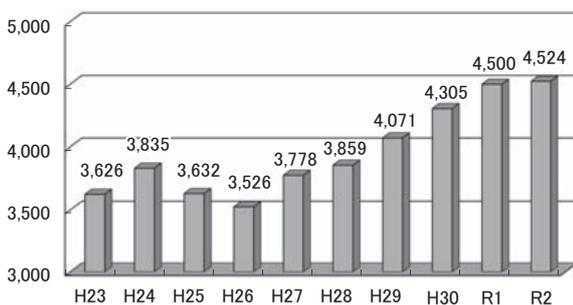
◎療養病棟科の実績

- 病床利用率
 - 目標：100.0%
 - 実績：97.6%
- 医療区分2・3割合
 - 目標：85%以上
 - 実績：105.7%
- 認知症ケア加算
 - 目標：2,100件
 - 実績：2,328件
- 栄養サポートチーム加算
 - 目標：60件
 - 実績：50件
- 褥瘡対策
 - 目標：900件
 - 実績：514件



◎外来科の実績

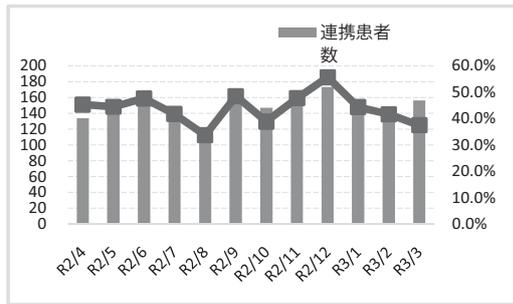
患者数推移



- 外来月平均実人数
 - 目標：3,400名/月以上
 - 実績：3,336名/月
 - 達成率：98.1%
- 健康診断センター件数の増加
 - 目標件数：4,050件
 - 実績：3,964件
 - 達成率：97.8%
- 訪問診療件数の増加
 - 目標：150件/月
 - 実績：114.5件/月
 - 達成率：76.3%
- 認知症疾患医療センターからの紹介外来患者数増加
 - 目標：年間192件
 - 実績：年間188件
- 呼吸器内科（呼吸器センター）来患者数増加
 - 目標：100名/月
 - 実績：97.8名/月
 - 達成率：97.8%
- 救急車の受け入れ件数
 - 目標：年間120件
 - 実績：年間117件
 - 達成率：97.5%
- 地域包括診療料1
 - 目標：年間24件
 - 実績：年間13件
- 院内処方箋数
 - 目標：30%以上維持
 - 実績：27.9%
- 安全な医療サービスの提供
インシデント・アクシデント
レベル3以上の報告
 - 目標：0件
 - 実績：0件
- 接遇の向上
 - 苦情件数：3件以内
 - 実績：4件
- 働き方改革（超過勤務時間）
 - 目標：10時間以内/月
 - 実績：11時間/月
- 新型コロナウイルス 発熱・検査外来実施

◎志村地域医療連携センター

- 紹介件数
 - 目標：1,920件
 - 実績：1,769件
 - 達成率：91.8%



一般病棟 1日当たりの在院患者数の安定

目標：58名
実績：57名
達成率：98.2%

緩和ケア病棟紹介患者の増加

目標：120件
実績：117件
達成率：98%

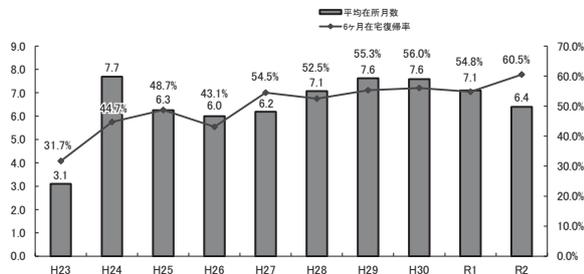
入退院支援加算の増加

目標：年間192件
実績：315件
達成率：187%

発熱検査外来 対応 10月～ 381件

◎老健入所科の実績

平均在所月数と在宅復帰率推移



• 平均在所人数の安定確保

目標：80名以上
実績：78.3名
達成率：97.9%

• 超強化型老健の維持

在宅復帰率・在宅療養等指標

目標：85点以上
実績：84点
達成率：98.8%

• 品質目標

リハビリの充実

認知症個別リハビリ月平均116.7件

季節に応じたイベント 7回開催

在宅復帰支援 看護・介護が平均36%同行

資格取得 介護福祉士 1名 合格

精神保健福祉士 1名 合格

外国人技能実習生の受け入れ

◎認知症疾患医療センター実績

• 総相談件数 目標：552件
実績：842件
達成率：152.5%

• 相談から当院外来受診につながった件数
目標：192件
実績：190件
達成率：99%

• 医療機関からの紹介件数
目標：60件
実績：59件
達成率：98.3%

• 認知症専門診断管理料 1算定数
目標：36件
実績：28件
達成率：77.8%

• 医療・専門機関との連携数
目標：192件
実績：176件
達成率：91.7%

• 認知症当事者つどいの開催

• 専門機関との情報交換 (常陸大宮警察署・自動車教習所)

◎画像検査センター

一般撮影件数 目標：9,970件
実績：10,483件
達成率：104.7%

• CT撮影 目標：2,070件
実績：1,909件
達成率：92.2%

• MRI撮影 目標：1,020件
実績：833件
達成率：81.7%

• MDL (胃部バリウム)
目標：560件
実績：515件
達成率：92%

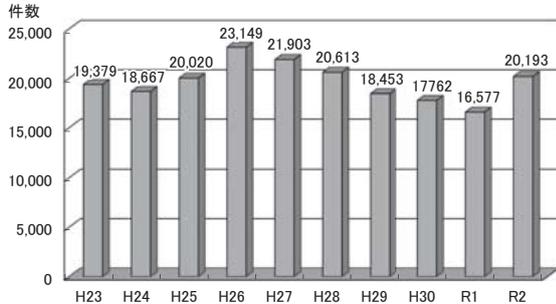
• 夜間・休日オンコール 6件
対応率 100% Call～到着 50分

• 勤務体制の管理 残業削減
削減率28.3% (前年度比)

- CT・MRI共同利用への取り組み
施設訪問16件 検査依頼10件
- 医師負担軽減の取り組み「読影の補助」
問い合わせ 90件 進言26件

利用件数実績 目 標：3,145件
 実 績：3,221件
 達成率：102.4%

◎おおみやホームヘルパーステーションの実績
年間訪問件数推移



訪問件数 目 標：19,250件
 実 績：20,193件
 達成率：104.9%

◎ケアプランセンターの実績

おおみや総合ケアプランセンターの実績
ケアプラン作成件数

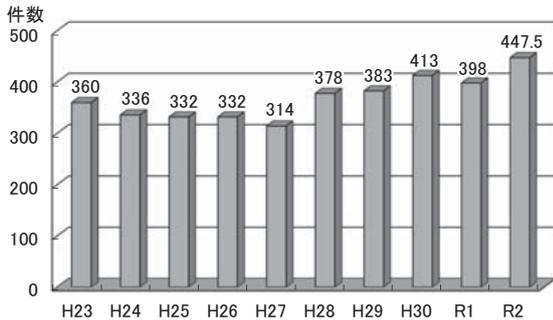
目 標：3,285件
実 績：3,081件
達成率：93.8%

やまがた総合ケアプランセンターの実績
ケアプラン作成件数

目 標：1,428件
実 績：1,431件
達成率：100.2%

◎訪問看護ステーションの実績

おおみや訪問看護ステーションの実績



利用件数実績 目 標：5,141件
 実 績：5,370件
 達成率：104.6%

フロイデみと総合ケアプランセンターの実績
ケアプラン作成件数

目 標：2,505件
実 績：2,406件
達成率：107.3%

ひたちなか総合ケアプランセンターの実績
ケアプラン作成件数

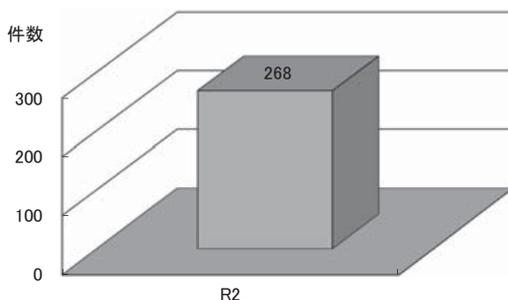
目 標：1,908件
実 績：1,844件
達成率：96.6%

◎地域包括支援センターの実績

常陸大宮市南部包括支援センターの実績
介護予防プラン作成件数

目 標：1,080件
実 績：1,269件
達成率：117.5%

フロイデひたちなか訪問看護ステーションの実績
月平均訪問件数推移



ひたちなか市北部包括支援センターの実績
介護予防プランの作成件数

目 標：1,908件
実 績：1,844件
達成率：96.6%

◎在宅介護支援センターおおみやの実績

介護予防把握事業、高齢者見守り安否確認事業

目 標：985件
実 績：995件
達成率：101%

◎コミュニティケアサービス部の実績

大宮デイケアセンターの実績

利用者数 目標：23,864人
実績：23,385人
達成率：98%

志村デイサービスセンターの実績

利用者数 目標：3,443人
実績：3,137人
達成率：91.1%

フロイデ総合在宅サポートセンター緒川の実績

利用者数 目標：9,464人
実績：9,578人
達成率：101.2%

フロイデ総合在宅サポートセンター山方の実績

通所利用者数 目標：10,279人
実績：9,724人
達成率：94.6%

小多機利用者数 目標：6,935人
実績：6,522人
達成率：94%

フロイデ総合在宅サポートセンター水戸けやき台の実績

通所利用者数 目標：10,383人
実績：9,955人
達成率：95.9%

小規模利用者数 目標：10,220人
実績：9,809人
達成率：96%

フロイデ総合在宅サポートセンター水戸けやき台つどいの家の実績

利用者数 目標：2,817人
実績：2,283人
達成率：81.0%

フロイデ総合在宅サポートセンター水戸河和田の実績

通所利用者数 目標：10,383人
実績：9,385人
達成率：90.4%

小規模利用者数 目標：10,585人
実績：10,264人
達成率：97%

フロイデ水戸メディカルプラザの実績

通所利用者数 目標：14,857人
実績：10,190人
達成率：68.6%

小多機利用者数 目標：10,585人
実績：10,255人
達成率：96.9%

住宅型有料利用者数 目標：7,300人
実績：7,166人
達成率：98.2%

訪問介護利用者数 目標：4,379人
実績：4,181人
達成率：95.5%

訪問看護利用者数 目標：4,441人
実績：5,369人
達成率：120.9%

診療所利用者数 目標：2,725人
実績：2,286人
達成率：83.9%

カフェ来店客数 目標：10,255人
実績：13,899人
達成率：135.5%

フィットネス登録者数 目標：22,790人
実績：7,678人
達成率：33.7%

定期巡回利用者 目標：5,685人
実績：3,844人
達成率：67.6%

フロイデ総合在宅サポートセンターひたちなかの実績

通所利用者数 目標：21,719人
実績：20,773人
達成率：95.6%

認知症デイ 目標：3,443人
実績：3,375人
達成率：98%

小規模利用者数 目標：10,585人
実績：10,543人
達成率：99.6%

グループホーム 目標：6,570人
実績：6,538人
達成率：99.5%

共用型認知症デイ 目標：1,354人
実績：1,195人
達成率：88.3%

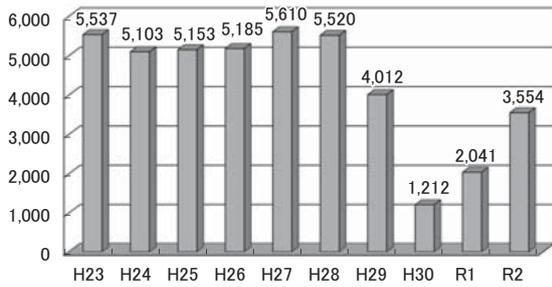
フロイデ総合在宅サポートセンター大宮の実績

通所利用者数 目標：10,700人
 実績：10,863人
 達成率：101.5%

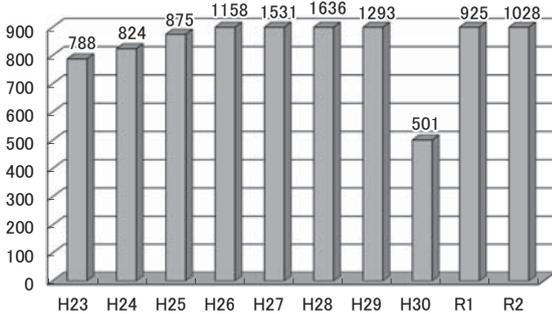
小規模利用者数 目標：10,585人
 実績：10,126人
 達成率：95.7%

◎薬剤科の実績

薬剤管理指導料推移



訪問薬剤指導回数推移



薬剤管理指導 目標：1,800回
 実績：3,554回
 達成率：197.4%

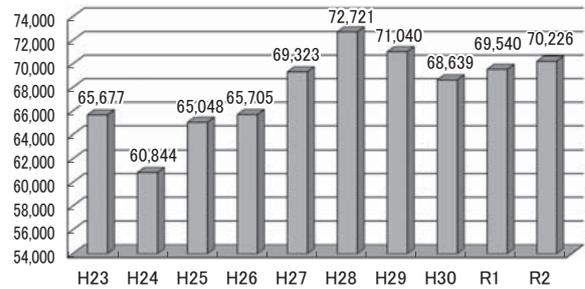
訪問薬剤管理指導（個別） 目標：年間420回
 実績：年間343回
 達成率：81.7%

訪問薬剤管理指導（集団） 目標：年間600回
 実績：年間685回
 達成率：114.2%

がん化学療法システム導入

◎栄養科の実績

配食件数実績推移



配食件数 目標：105,980食
 実績：108,107食
 達成率：102%

居宅系入所者・在宅への居療養管理指導 目標：930件
 実績：750件
 達成率：80.6%

栄養指導（個人） 目標：840件
 実績：588件
 達成率：70%

食事改善推進プロジェクト
 新メニューの開発・改善 27品目
 バイキング 月1回の実施

食材費の見直し、コスト削減
 食事支援の充実
 （選択メニュー、エーデルワイス誕生会、えんげキッチン、経口摂取への移行への取り組みなど）

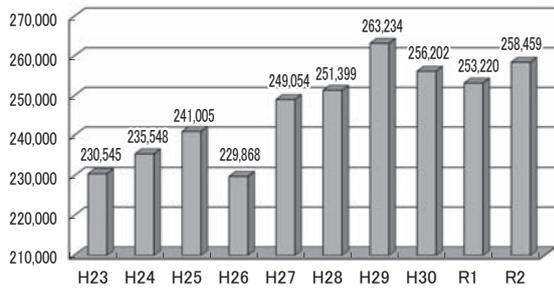
チーム医療の推進（各病棟、施設ミーティング参加）

嗜好調査アンケートの実施 1回/月

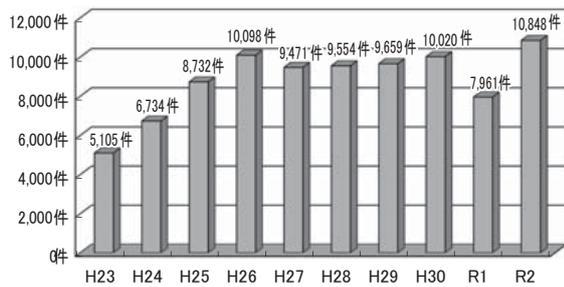
新規事業 おおみや認定栄養ケア・ステーション（レシピ作成、動画撮影、介護予防教室、栄養相談等）

◎リハビリテーション事業部の実績

リハビリ訓練単位推移「年間訓練単位」



訪問リハビリ単位推移



病院におけるリハの提供

目標単位数：259,513単位
実績：258,459単位
達成率：99.6%

訪問リハビリ提供数

目標件数：6,463件
実績：6,192件
達成率：95.8%

病院リハ

リハ計画の立案

介護保険リハ非利用 実績：720件
介護保険リハ利用 実績：700件

訪問リハ（2事業所）

訪問リハ計画診療実施者数 実績：1,201件
老健入所

短期集中リハ実施加算 実績：6,966件
認知症短期集中リハ実施加算

実績：1,071件

個別リハ実施加算 実績：1,753件

専門知識・技能の習得

理学療法士協会 新人教育プログラム修了 5名
認定理学療法士取得 1名

作業療法士協会 基礎研修プログラム修了 2名

言語聴覚士協会 基礎研修プログラム修了 1名

茨城県社会リハ専門職協会 社会リハ専門職
初級修了 2名

研究論文投稿 1本

臨床実習指導者育成 PT 2～4名、OT 2～4名

学術活動（全国レベル 5演題）

回復期リハ病棟協会研究大会熊本 1名

第54回日本作業療法学会 1名

第62回全日本病院学会岡山 1名

第39回関東甲信越ブロック理学療法士学会 1名

第25回日本作業療法教育学会 1名

学術活動（茨城県レベル 8演題）

茨城県理学療法士会医療圏新人症例発表会

茨城県理学療法士学会

茨城県作業療法学会

茨城県総合リハビリテーションケア学会

専門の研修会・学会への参加

日本理学療法学会 4名

日本作業療法学会 2名

日本高次脳機能障害学会 1名

日本心理臨床学会 1名

職能要件書に沿った教育プログラムの実施

新人教育プログラム 59テーマ

新人症例検討会 2回

職種・年数別教育の実施 各職種2テーマずつ

呼吸リハに関する知識・技術の向上を図る

勉強会の実施 年2回

リーダー・係長の管理能力向上を図る

勉強会の実施 年1回

◎人事課の実績

・「働き方改革」実現に向けて

有給休暇の5日取得（9月末日取得済）

・コンサルによる研修開催12月一般職、1月管理職

・就業規則、賃金規定、人事考課制度見直し

・SFGメンタルヘルス相談室：面談79件

・勤怠、給与支払日変更：7月実施

・新型コロナウイルス感染症慰労金：12月支給

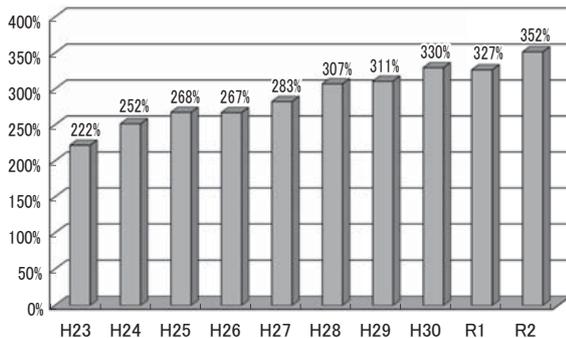
・正社員登用：7名

◎診療サービス課の実績

- DPCの収益維持
DPC期間内の早期退院調整（入院期間Ⅰ・Ⅱ）
目標：55%以上
実績：54.8%
- 外来患者数の増加
健診センター活性化・特殊健診・オプション検査の拡充による健診患者増
令和元年度 4,077件
令和2年度 4,039件
日本総合健診医学会 認定 精度管理調査の実施（年4回）
- 無料送迎バス利用者増と、維持・確保
目標：年間17,580名
実績：9,794名
達成率：55.7%
- 新型コロナウイルス感染症対応
発熱・検査外来の運用
G-MIS：医療機関情報、HER-SYS：感染者報告
ワクチンの運用
V-sys：ワクチン在庫管理、接種実績、問診票出力

◎営業の実績

いばらき総合介護サービス収入推移



いばらき総合介護サービス売上高

目標：247,590千円
実績：249,010千円
達成率：100.5%

いばらき総合介護サービス収益

目標：12,118千円
実績：11,475千円
達成率：93.2%

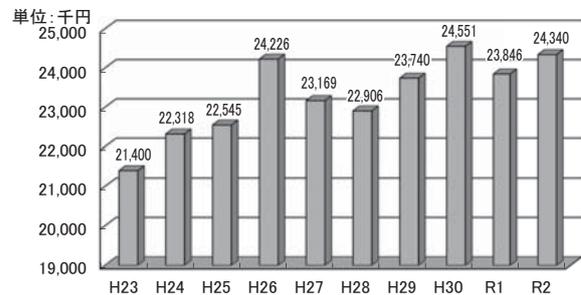
介護事業部売上高

183,524千円

カフェ事業部売上高	98.3%
18,578千円	
アパート事業部売上高	99.9%
7,510千円	
100.9%	
売店事業部売上高	39,398千円
113.2%	
住宅改修件数	実績：70件
	達成率：72.9%
レンタル利用者数	実績：7,252人
	達成率：101.9%
レンタル新規利用者数	実績：150人
	達成率：89.3%
各事業のプロモーション活動の徹底	
ブランド化委員会の開催	
志村フロイデグループ緊急地域支援体制の整備	

◎管理部の実績

年間コスト削減実績



- コスト低減の強化
目標：25,000千円
実績：24,340千円
達成率：97.4%

- ①新電力契約更新による電気料金の削減年間15%削減
 - ②コピー複合機の入れ替えとカウンター料金の削減
 - ③エコドライブによる燃料消費量・事故件数削減達成率90%
- 情報システム整備と情報発信
 - ①ホームページコンテンツの充実
 - ②プライバシーマークの認証取得
 - ③次期電子カルテの導入検討
 - ④広報誌「お元気ですか」発行、初任者研

修・実務者研修開設

・施設整備推進

- ①チロル館空調設備の交換
 - ②外来化学療法室の改修
 - ③送迎車両入れ替え、水戸駅看板リニューアル
 - ④発熱外来プレハブ設置・PCR検査機器購入・外来サーマルカメラ導入
 - ⑤感染対策用品備蓄
- ・院内保育所「フロイデキンダーガルテン」
増収対策 子ども・子育て支援補助金（病児保育）
乳児等保育加算・休日保育加算

◎経理部の実績

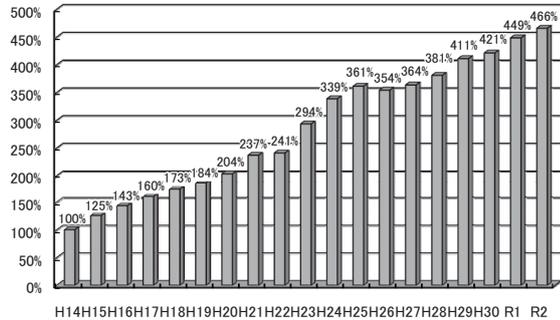
- ・管理会計を法人全体に浸透させ、利益率向上により経営の安定化を図っていく。
- ・借入金等の負債勘定残高を減少させていく。
- ・預金残高を注視し、資金繰り状況を確認していく。

◎法人サポート部

- ・新規事業開設の支援
ひたちなか市地域密着型サービスの開設及び公募申請
定期巡回随時対応型訪問介護・看護（選定）
看護小規模多機能型居宅介護（選定）
ひたちなか共用型認知症対応型通所介護（新規開設）
- ・日本地域包括ケア学会 第2回大会
令和3年3月21日WEB開催 参加者1,050名
- ・日本在宅療養支援病院連絡協議会設立支援
四病院団体協議会委員会への参加・各種調整定款（案）作成、法人化に向けての準備等
- ・病院を中心としたまちづくりの推進
茨城北西まちづくり研究会 開催1回 徳島県神山町・三好市視察
医療・介護の専門職とつくる高機能ヘルスロード社会実験参画
- ・病院団体の運営支援
茨城県医療法人協会勉強会 4回 総会・理事会の開催 等
- ・病床調整会議の定期的な開催による病床稼働率の向上

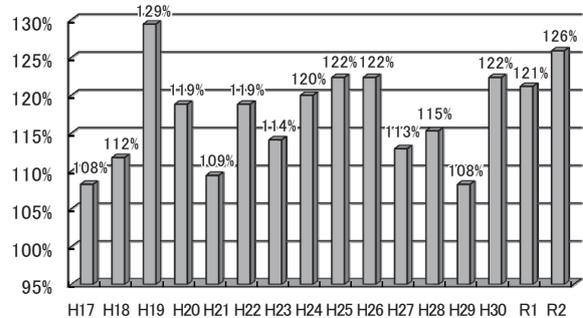
7. 博友会 事業実績

◎全体実績



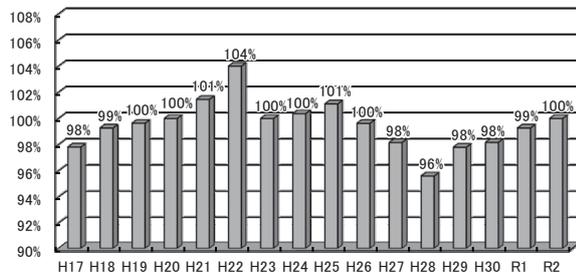
◎御前山デイサービスセンターの実績

御前山デイサービスセンターの収入推移



◎御前山フロイデガルテンの実績

御前山フロイデガルテンの収入推移



サービス提供件数 目標：10,657件
実績：10,803件
達成率：101.4%

年間新規者数 目標：47名
実績：35名
達成率：74.5%

個別機能訓練加算Ⅰ 目標：6,394件
実績：5,772件
達成率：90.3%

個別機能訓練加算Ⅱ 目標：9,057件
実績：8,639件
達成率：95.4%

地域包括ケア推進の取組

担当者会議開催
5回/年

フロイデサポーター獲得
5名/年(新規)

顧客満足度の向上

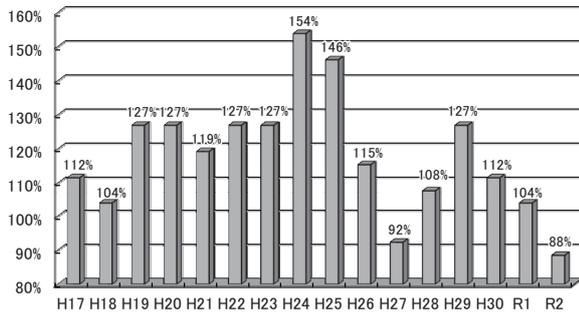
アンケート調査実施

利用率(60床) 目標：21,900件
実績：21,228件/年
達成率：96.9%

家族面談 医師を交えた家族面談 17回/年
終末期ケアの充実 看取り介護 2名/年
(医療的ニーズの把握と終末期ケアの希望・意向の把握を実施)

外国人技能実習生の受入 1名/年

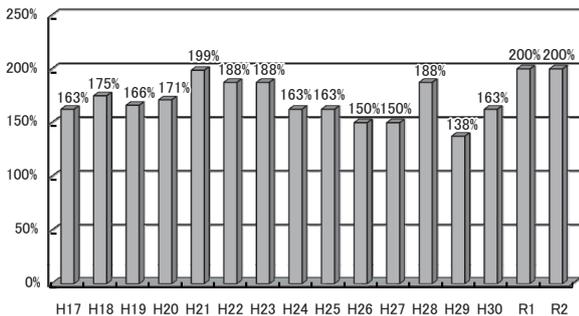
◎ごぜんやまホームヘルパーステーションの実績
ごぜんやまホームヘルパーステーションの収入推移



サービス提供件数 目標：6,500件
実績：6,890件
達成率：106.0%

顧客満足度の向上 アンケート調査実施

◎ごぜんやま訪問入浴サービスセンターの実績
ごぜんやま訪問入浴サービスセンターの収入推移

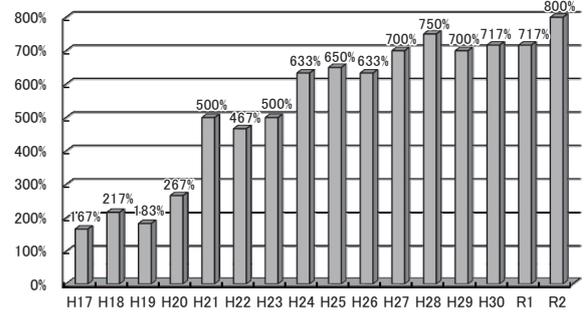


サービス提供件数 目標：1,170件
実績：1,145件
達成率：97.9%

新規利用者獲得 目標：36件
実績：24件
達成率：66.7%

顧客満足度の向上 アンケート調査実施

◎ごぜんやま総合ケアプランセンターの実績
ごぜんやま総合ケアプランセンターの収入推移



ケアプラン作成件数 目標：3,170件
実績：3,269件
達成率：103.1%

入院時情報連絡加算 目標：72件
実績：52件
達成率：72.2%

退院・退所加算 目標：36件
実績：6件
達成率：16.7%

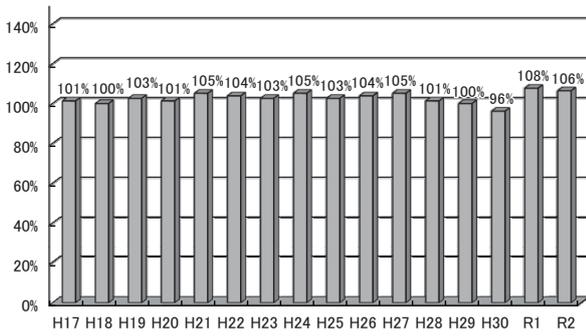
特定事業所加算 目標：2,810件
実績：2,960件
達成率：105.3%

顧客満足度の向上 アンケート調査実施

関係機関との連携 常陸大宮市・城里町・那須烏山市にてオンライン会議参加

地域との連携の推進 常陸大宮市地区会オンライン会議参加

◎フロイデグループホーム桂の実績



フロイデグループホーム桂の収入推移

利用率（18床） 目標：6,570件
実績：6,130件
達成率：93.3%

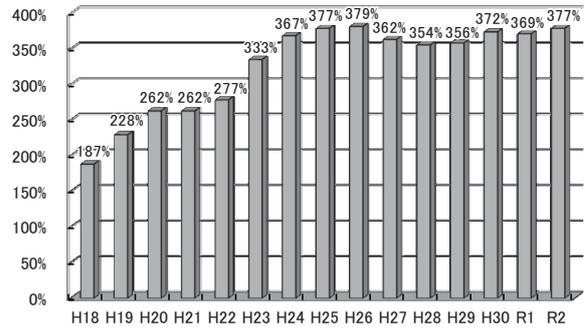
顧客満足度の向上 アンケート調査実施

地域密着を考えた施設運営
敬老会
9 / 19実施（事業所内）

家族面談 18名意向確認
（医療的ニーズの把握と終末期ケアの希望・意向の把握を実施）

◎フロイデ総合在宅サポートセンター美和の実績

フロイデ総合在宅サポートセンター美和の収入



推移

サービス提供件数

認知症対応型共同生活介護

目標：3,285件
実績：3,215件
達成率：97.9%

通所介護

目標：10,383件
実績：10,239件
達成率：98.6%

個別機能訓練加算Ⅰ

目標：6,930件
実績：5,803件
達成率：83.7%

個別機能訓練加算Ⅱ

目標：8,150件
実績：7,616件
達成率：93.4%

地域密着を考えた施設運営

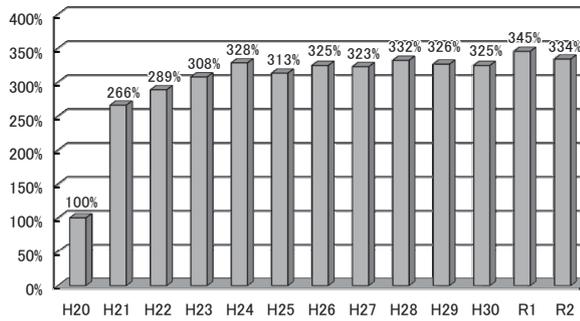
（地域イベント等参加・事業所PR）

地域住民参加型消防訓練
の実施
鷺子ボランティア協働大
掃除
12 / 17参加

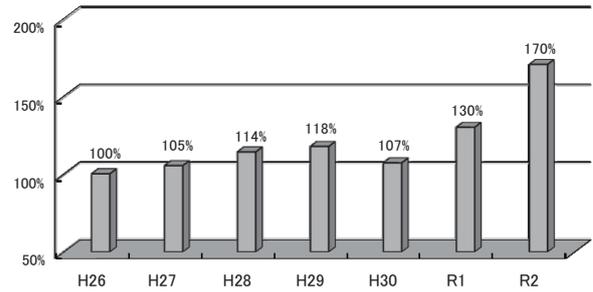
顧客満足度調査

接遇アンケート実施

◎フロイデ総合在宅サポートセンター城里の実績
フロイデ総合在宅サポートセンター城里の収入



◎障害者支援（フロイデ工房・フロイデ工房なか・ロッチェなか）の実績



障害者支援収入推移

推移

サービス提供件数

通所介護
目 標：10,383件
実 績：9,663件
達成率：93.1%

個別機能訓練加算Ⅰ
目 標：5,909件
実 績：5,209件
達成率：88.2%

個別機能訓練加算Ⅱ
目 標：8,442件
実 績：7,189件
達成率：85.2%

小規模
目 標：10,585件
実 績：9,886件
達成率：85.2%

配食
目 標：3,780件
実 績：4,073件
達成率：107.8%

地域密着推進活動
城里町ケアマネネット
ワーク連絡会参加
地域向け認知症サポ
ート講座
4回/年

顧客満足度の向上
アンケート調査実施

サービス提供件数

就労支援（城里）
目 標：4,580件
実 績：4,928件
達成率：107.6%

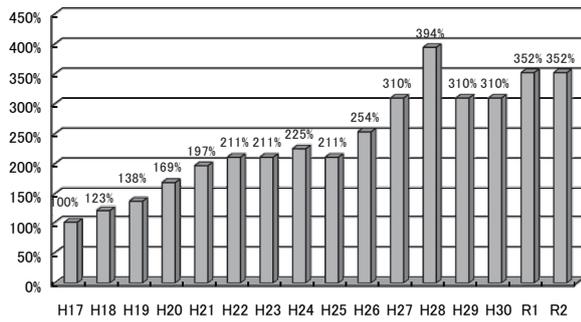
就労支援（那珂）
目 標：2,455件
実 績：2,599件
達成率：105.9%

児童発達支援
目 標：1,273件
実 績：1,578件
達成率：124.0%

顧客満足度調査
接遇アンケート実施

就労支援実績
面接会参加 8 名

◎栄養サービスグループの実績



栄養サービスグループの収入推移

配食提供 目標：32,850食／年
実績：33,718食／年
達成率：102.6%

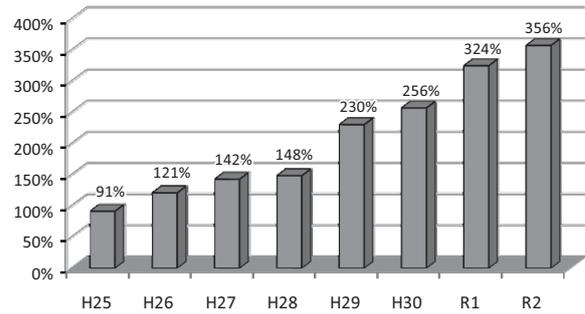
食事改善プロジェクト

嗜好調査の実施
配食サービスアンケート

顧客満足度の向上 アンケート調査実施

◎フロイデ総合在宅サポートセンター友部

フロイデ総合在宅サポートセンター友部の収入推移



サービス提供件数

通所介護 目標：10,383件
実績：10,611件
達成率：102.2%

看護小規模 目標：10,585件
実績：10,048件
達成率：94.9%

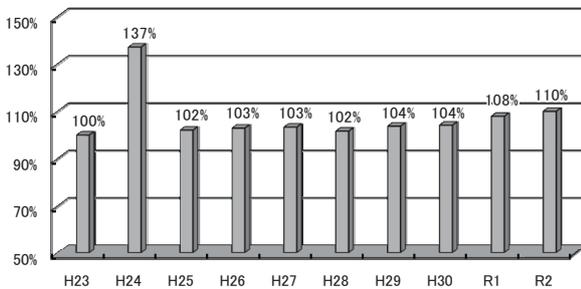
訪問看護 目標：5,321件
実績：5,650件
達成率：106.2%

高齢住宅 目標：7,300件
実績：7,204件
達成率：98.7%

顧客満足度の向上 アンケート調査実施

医療・介護連携 地域ケア会議オンライン参加
地域連携パスオンライン

◎大宮フロイデドルフの実績



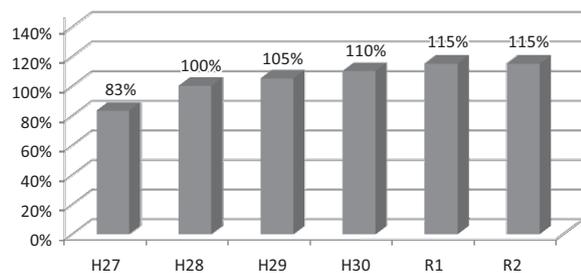
大宮フロイデドルフの収入推移

利用率（49床） 目標：17,885件
実績：17,584件
達成率：98.3%

家族面談 電話対応
終末期ケアの充実 看取り介護
13名／年

(医療的ニーズの把握と終末期ケアの希望・意向の把握を実施)

◎アシストハウス大宮の実績



サービス提供件数 目 標：8,052件
 実 績：8,124件
 達成率：100.9%

顧客満足度の向上 アンケート調査実施

◎事務サービスグループの実績

未収金の確実な回収

3月末回収率 目 標：0% 0名
 実 績：2.03% 6名

スタッフ問題意識向上

目 標：業務改善年間60
 件以上

手引書等の作成
 年間40件以上

実 績：業務改善年間37
 件報告

手引書等の作成
 年間26件報告

職員満足の向上 目 標：担当業務部門内
 勉強会9件以上

実 績：担当業務部門内
 勉強会9件実施

働きやすい職場環境作り

離職率7.04%

技能実習生受入

完了

ISO・Pマーク統合内部監査の実施

8. 博仁会 部門別実績報告

看護局

局長 高宮 一枝

新型コロナウイルスという未知の感染症に、仕事・学校、人々の生活全てが一変してしまった一年でした。治療、予防方法の見つからない状況から、唯一の予防とされる石ケン、アルコール消毒やマスク等の衛生材料の不足には強い不安を感じ、また、地域住民を守る手立ての乏しい現状に、医療者としてのジレンマを感じた一年でもありました。そのような中にあるからこそ、前向きに奮起し目標達成に取り組みました。

令和2年テーマ

- ・質の高い看護の提供
～効率的な時間活用・質の高い業務遂行・地域活動への参画～
- ・安定した収入患者の確保
～可視化を図るためのデータ抽出・評価・対策策定～
- ・サポートチームシステムの構築と推進
～リンクナースを中心としたサポートチーム活動の推進～

活動目標と実績

1. 財務の視点 ー安定した経営と看護管理ー
 - ・病床管理の充実（法人内情報共と連携）
 - ・病床利用率の維持向上・法人間連携の充実：SFG連携ミーティングの充実
 - ・入退院支援機能の強化(退院調整看護師・MSWの連携)
 - ・ベッドコントロールの充実
2. 顧客の視点 ー質の高いケアが受けられるー
 - ・安心・安全な生活環境の提供：院内感染ラウンドの充実
 - ・医療安全室による5S活動の推進
 - ・摂食・嚥下チーム
VE：34名/年（一般病棟、回復期リハ病棟）

摂食嚥下支援加算：29件/年（一般病棟、回復期リハ病棟）

・排尿ケアチーム

チームラウンドの実施：44件/年（一般病棟、回復期リハ病棟、療養病棟）

TENAマイスター取得：中止(新型コロナウイルス感染対策のため)

・認知症ケアチーム

チームラウンドの実施：1284回/年（一般病棟、回復期リハ病棟、療養病棟）

・緩和ケアサポートチーム

緩和ケア診療加算の取得：医師の研修受講(新型コロナウイルスのため研修延期)

3.業務プロセスの視点 ー質の高い業務の遂行ー

・摂食・嚥下チーム

摂食機能療法算定件数：348件/年(一般病棟・回復期リハ病棟)

：436件/年（PT・OT・ST） 合計784件

・認知症ケアチーム

認知症ケア加算1：8178件/年(一般・回復期リハ病棟・療養病棟)

せん妄ケア加算1：578件/年(認知症認定看護師・リンクナース)

・排泄ケアチーム

排尿自立加算：36件/年(一般・回復期リハ病棟・療養病棟)

・メディカルショートステイの受け入れ：5件/年（一般病棟）

・仕事と子育て介護両立支援センタ開設：アンケート集計

・働き方改革：5S活動、インシデント0の推進(医療安全共同)

・新型コロナ対策の推進：施設ラウンド9件/年

・教育用DVD作成(感染委員会)

・病床調整会議：29回/年（入退院状況のデータ化・可視化・支援）

4.学習と成長の視点 ―看護の質の向上―

- ・摂食嚥下、排尿自立、認知症ケアチーム勉強会：2回/年
- ・認定・特定看護師の育成支援
摂食・嚥下認定看護師研修修了者1名、看護師特定行為研修修了1名
- ・地域看護師の育成：訪問看護への出向
- ・新卒5ヵ年研修の見直し
- ・看護局：グループ全体の看護教育の推進(看護教育の共有・DVD研修)

「地域を支える病院として患者様・ご家族様・地域の全ての方々に質の高い思いやりのある看護・介護を提供し、健康なまちづくりに貢献する」のが、私たちの看護部の理念です。新型コロナウイルスの収束が見えない中ですが、地域包括ケアシステムのチームの一員として、患者様・ご利用者様、地域住民の皆さんと共に助け合い、安心して健康なまちづくりに貢献していきたいと考えます。

一般病棟科

科長 小林 雅美

一般病棟は法人内での医療機能の要となるべく高度超急性期病院、介護施設や在宅支援サービス等と常に連携を図り、令和2年度は以下の目標を設定し、地域包括ケアの一環として治し支える治療と良質なケアの提供に努めています。

【令和2年度部門目標】

- ①医療安全・感染対策・褥瘡予防等への職員意識を向上させ、安全で安心なケアサービスを提供する。
- ②施設・在宅サービスとの連携、入退院の調整、支援に努め、地域包括ケアシステムの中での病院の役割を果たす。
- ③研修等での知識の習得、振り返りにより、ケアの質の向上を図る。

【取り組みと実績】

ケアの質向上においては医療安全や感染対策、褥瘡対策等の各委員会や栄養、認知症、排尿自立等の各サポートチームの活動と、それらに関する職員教育の取り組みを継続しました。忙しい業務の中、誰もがそれぞれの委員としての役割を果たしています。認知症ケア加算1を取得しており、増加傾向にある認知症患者様に対してより良いケアができるよう対応しております。私達は入院されると同時に退院に向けてのプラン作成やアドバンスケアプランニングについての説明をさせていただいており、地域包括ケアシステムの中でシームレスなケアを提供することに努めました。一般病棟は地域包括病床が8床でしたが令和2年7月より12床へと増床しています。地域で求められる在宅医療を支える体制作りには励んでいます。入院時には施設や在宅スタッフから情報を取得し、在宅に戻るにおいてはケアマネージャーをはじめ訪問看護や訪問介護、デイサービス等の在宅サービスのスタッフと連携を図り、状態に合わせて退院後のサービスを検討しています。医療に依存することが多い患者様に対しては、退院後、必要に応じて病棟看護師が訪問し、指導や問題点の対応をしております。コロナ禍においてもできる限り対応しました。どのような状況でも地域の患者様のために病棟職員はケアの提供を惜しみません。それらの結果、令和2年度は月平均で平均在院日数16.8日、重症度医療看護必要度28.6%、収入患者数月平均58.6人(60床満床)でした。

また、令和2年度はコロナウイルス感染対策に明け暮れた年でもありました。病棟での感染対策はもちろん、入院患者様の入院時の対応や家族様の対応、職員の健康管理など多岐にわたり細やかな対応を関係他部署との連携を常にはかり、全職員が統一した対応がとれ、院内感染の予防に努めました。今後も継続して取り組んでまいります。

今後も、地域住民の方々が安心して暮らしていただくための地域包括ケアシステムの構築に貢献できるよう、安心して安全なケアを提供してまいります。

緩和ケア病棟科(エーデルワイス病棟)

科長 加藤 令子

【令和2年度部門目標】

1. ACPを充実させQOL向上に繋げる支援をします。(在宅復帰15%以上・待機期間14日以内)
2. 緩和の知識を深め安全・安楽な援助を提供します。
3. 患者さま・ご家族さまに寄り添い温もりのある援助を提供します。

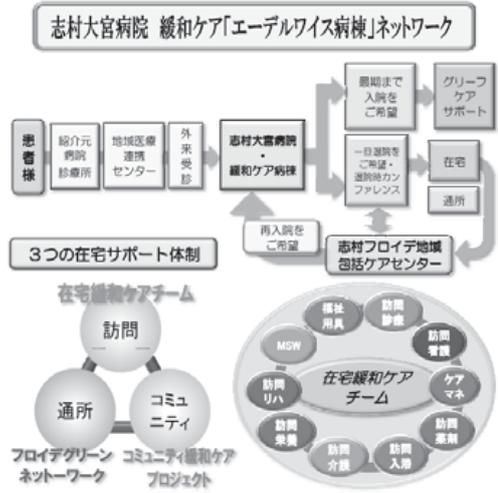
【実績報告】

1. ACPを充実させQOL向上に繋げる支援をします。

在宅復帰率(緩和ケア入院料1:15%以上)	17%
在宅退院	16人
施設退院	1人
待機期間(緩和ケア入院料1:14日以内)	9.6日

緩和ケア病棟に入院される患者様の98%が急性期病院からのご紹介です。うち97%の方が「がんに対する積極的治療は困難」「自宅退院は難しい」と宣告され、お看取り目的で転院されています。一方、日本財団による「人生最期の迎え方」調査では58.8%の方が「自宅で最期を迎えたい」と回答されました。この結果から、核家族の増加や仲間力の低下等、生活背景が変化している令和においても、日本人特有の「畳の上で・・・」という思いを変わらずに持ち続けている方が多い事が明らかになりました。更に、コロナ禍による厳しい面会制限がある中、緩和ケア病棟に転院された患者様・ご家族様の中にも「自宅で過ごしたい」という思いを諦めている方が潜在するのではないかと考えました。そこで、緩和ケア病棟スタッフが施行する意思決定支援に「最期の過ごし方」を追加し、スタッフ教育としてコミュニケーションや心理過程を充実させました。結果、「急変時の不安」「介護の問

題」「ご家族様の生活」等により、在宅移行に踏み切れない方が16名いました。そこで、法人内の在宅部門とチームを組み、16名全員在宅移行することができました。チームメンバーは全員、緩和ケア対象の方の1日1日が貴重である事を深く理解しています。故に、速やかにサービスを組み込み、最短1日で自宅退院も可能となりました。退院後は、緩和ケア病棟スタッフが同行訪問し、患者様・ご家族様の状態観察やお気持ちを伺いながら、希望時は速やかに入院できるように調整をさせて頂いています。今後も、自宅がちょっと離れた病室、電話がナースコールという感覚をお持ち頂けるように説明させて頂き、自宅でも安心して過ごせるように、チームで連携を図ります。そして、患者様・ご家族様の思いを大切に、最期の時間をその人らしく過ごせるお手伝いをさせて頂きます。



2. 緩和の知識を深め安全・安楽な援助を提供します。

緩和ケア病棟は全人的苦痛に対する支援を展開し、ご家族様を含めたケアを提供する部門です。特に看護師はケアの実践者であり、尚且つ、患者様・ご家族様の一番近くにいる医療従事者として代弁者となり思いを伝える役割りを担う事もあります。したがって、緩和ケア病棟における安全・安楽は技術・知識のみならず、社会的・精神的・スピリチュアル的等、あらゆる事に精通しなければなりま

せん。本年度は、スタッフ全員が筑波大学附属病院オンライン研修「がん医療従事者アドバンスコース」全9回を受講し、最新のがん治療・看護・連携等、幅広い知識に触れることが出来ました。しかし、患者様・ご家族様の思いは測りしれず、時には、知識より、人間的な温もりを必要とする方もいます。今後も知識のみならず人として成長し、人間対人間の看護ができる教育をめざします。

3. 患者さま・ご家族さまに寄り添い温もりのある援助を提供します。

面会制限に伴い追加	
日記ファイル	日々の生活・院内ディ・各種イベント・クックレク等の写真を使用しながら、患者様と看護師が日記をつけ、ご家族様来院時に見て頂く。
ご家族様メッセージカード	ご家族様から患者様へメッセージを書いて頂く。
ビデオレター	ご希望がある方に対し撮影。
窓越し電話面会	患者様は病室の窓際、ご家族様は外で顔を姿をみながら電話で話す。
ナースカー外出	ナースカーを使用し自宅等に外出。
結婚式	結婚式場の方と連携を図り充分な感染対策をした上で実施。

嚴重な感染予防対策の中、緩和ケア病棟では規定に則り面会制限解除されるケースがあります。しかし、面会禁止の方も多く、患者様とご家族様の架け橋になる事が課題となりました。上記内容を実施し、患者様とご家族様の距離を縮める努力をしています。その他、ご要望があれば実現できるように工夫をしながら実施しています。

緩和ケア病棟対象の患者様・ご家族様は、治療を断念せざる得ない状況を認め、決意するまでに壮絶な葛藤を体験しています。中には、精神的、スピリチュアル的側面の痛みを抱いている方も数多くいます。入院前家族面談では、ご家族様の思いを吐き出せるよう環境を提供し、患者様と共に送る闘病生活の辛さや複雑な思いを涙と共に話し頂いています。患者様・ご家族様が心穏やかに過ごすために看護の力は重要となります。今後、患者様・ご家族様の心理過程を理解し寄り添う支援が出来る看護師育成に励みます。

外来科

科長 小倉 十三子

部門方針

1. 院内連携を深め、地域の医院、クリニック、施設との連携を図り訪問診療件数を増やす
2. 呼吸器内科、センターの広報に努める
3. 感染対策予防・医療安全に努める

以上の項目を目標に立案し取り組みました。さらに、昨年の積み残し課題としまして、

- ・整形外科、泌尿器科（訪問診療開始）、呼吸器内科の患者数を増やす
- ・外来科オンライン診療をおこなう
- ・訪問診療件数を増やす
- ・外来看護記録の充実

【課題取り組み】

整形外来・泌尿器・呼吸器内科の患者数は、地域の先生方へ挨拶訪問の機会に当院のご案内や専門外来の診察予定日の説明をさせて頂きご紹介に繋がりました。特に地域にない呼吸器外来の患者様が96.4%と増患しました。訪問診療においては、訪問診療対象居住地のマップを作成し、配布パンフレットを見やすいように見直し、あわせて手順書作成もおこないました。訪問診療看護業務のみえる化を図り職員と共有しました。

オンライン診療は多職種ミーティングを重ね、訪問診療を活用し試験的にオンライン診療シミュレーションを実施しました。声の聞こえ方、顔の見え方、患部の画像の見え方等を検証しました。医師と在宅部門の協力が必須であり、訪問診療におけるオンライン診療が可能になれば件数の増加にも繋がると考えます。

外来看護の記録は、個々の看護師が入院時記録や処置、注射または、訪問診療の記録と看護師も外来記録は必要であるという意識に変化しました。さらに、記録の評価ができるよう検討を重ねてまいります。

【実績】

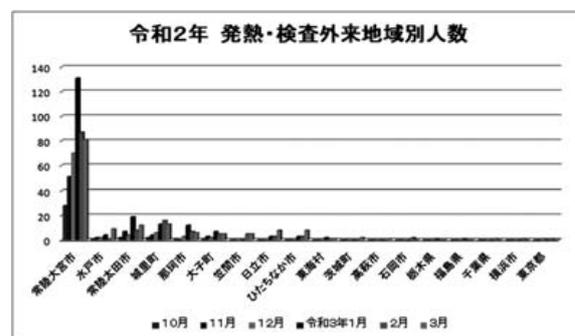
1. 訪問診療件数は、地域の医院、クリニックの先生方と情報交換をおこない、信頼関係を築き中小病院としての役割を担い努めました。挨拶訪問件数60件、外来訪問診療は76.3%でした。
2. 地域の医院・クリニックの先生方には呼吸器センターの開設にあたり、3名の呼吸器内科医師が中心に外来診療、病棟回診、検査を行う他、外来がん化学療法開始の情報をお伝えしました。がん化学療法は、地域では治療できず遠方の病院に紹介となってしまう家族や患者の負担軽減がはかれると考えられます。また、看護師教育として、外来科の2名の看護師を大学病院での研修・視察に参加させました。院内研修は医師が講師となり病棟と合同での勉強会を2回おこないました。医師と研修を受けた看護師が中心となり、「問診票、化学療法マニュアル、外来で化学療法を受けられる患者様への注意事項、流れの説明冊子、抗がん剤治療の外来当日の流れ、化学療法準備マニュアル」を作成しました。その結果、1月から対象者が1名治療を開始しております。
3. 感染対策予防

新型コロナウイルス感染が本格的に猛威を振るいはじめ、地域の住民と職員を守るために旧国道側駐車場に専用プレハブを設置。10月から発熱・検査外来を開始しました。開始にともない、感染予防対策強化研修への参加、個人防護具の着脱の手順や診療サービス課と協力し発熱・検査外来の流れをマニュアル化し職員の動線を検討しました。さらに、COVID-19抗原検査とPCR検査をおこなう為に、委託業者より職員への説明を繰り返し実施し、検査を開始しました。6か月の検査人数は、683名でした。

今後も、新型コロナウイルス感染が収束しない限り、発熱・検査外来は、継続となります。3月から医療従事者の新型コロナワクチ

ン接種を受け入れており、多忙のなか看護部、外来科職員、診療サービス課とのチームワークで頑張れた1年と感謝しております。

また、外来看護師の役割として在宅医療支援に向けて、在宅部門との連携や知識技術を提供できるように努めてまいります。



回復期リハビリ病棟科（スイス館）

科長 井上 美紀

【令和2年度 回復期リハビリテーション病棟部門目標】

1. 良質で効果的かつ実績あるリハビリ看護・介護ケアの提供 ～選ばれる回復期リハビリ病棟として～
2. リハビリ事業部との協働による患者様一人ひとりのADLの拡大 ～「できるADL」と「しているADL」の格差の縮小～
3. 他職種連携の強化と業務の見直しによる働き方改革の実現

【活動実績】

1. 良質で効果的かつ実績あるリハビリ看護・介護ケアの提供

「回復期リハビリテーション入院料1」算定要件の年間平均実績は、重症患者比率30%以上のところ、38%、重症患者回復比率30%以上のところ42%、在宅復帰率70%以上のところ当病棟

は80%を目標としましたが、90%の実績を残すことができました。

当病棟は他職種連携のもと患者様が住み慣れた地域での生活に戻るための支援をしております。しかし、発症前からの独居生活、同居御家族が仕事をしており介護に携わることが困難な場合が増加しております。そのような状況であっても実績を残すことができたのは、当グループの幅広いきめ細やかなサービスと他職種しっかりした連携の賜物です。また、病床利用率も100%~97%と毎月高い値を保っております。当病棟はご紹介無くしては成り立ちません。選んでいただいた患者様、ご家族様そして急性期病院の先生方に感謝いたします。

2. リハビリ事業部との協働による患者様一人ひとりのADLの拡大

リハビリでセラピストと行っている「できるADL」を安全に「しているADL」にするためには日常生活での繰り返し練習が不可欠です。今年度もSSP (Swiss Self-determined Program)等を通じ、患者様の希望に寄り添い病棟スタッフと共に練習を行いました。コロナ禍で面会の制限があり、孤立しがちな患者様に心身の改善に効果的であったと思います。また高いリハビリ実績指数の維持にもつながりました。

3. 他職種連携の強化と業務の見直しによる働き方改革の実現

今年度も業務の見直しを継続して行い、ムリ・ムラ・ムダのない業務整理による時間外労働の削減に取り組みました。診療報酬改定に伴い、それまで行っていた日常生活機能評価判定を廃止し、重症患者比率計算をFIM評価に統一しました。また、早番出勤時間の変更、残り番業務から遅番への変更など業務の質を担保したうえで大胆な勤務体制の見直しを行いました。結果、病棟総時間外労働は月平均460時間から320時間に減少しました。

質の高いサービスを提供し続けるにはスタッフの教育は必須です。今年度は手順にもなる細やかな業務チェックリストを見直し、すべての

スタッフの習熟度の把握に努めました。横並びの業務分担を到達レベルに応じた分担に変更しました。それにより「自分のすべきこと」の見える化につながりました。また、リハビリ事業部と共同でFIMチームを起ち上げ、勉強会や毎月の確認テストを実施しています。

近隣区域の回復期リハビリ病棟は増加しています。安定した実績と患者様ご家族様に寄り添い満足していただける看護・介護の実践、質の向上を求めて進化し続ける探究心により今後も選ばれる病棟であり続けるよう研鑽を積んでまいります。

医療療養病棟科 (チロル館)

科長 加藤 紀和子

令和2年度 部門目標は

1. 患者層の変化に柔軟に対応した、安全で質の高い看護の提供をする
 2. 多職種と連携し、生活の視点に沿った退院支援と医療療養病棟としての役割を果たす
 3. 専門職として、一人ひとりが学習課題と役割を担うための、看護・介護技術を習得する
- でした。

医療療養病棟では、入院基本料1を維持するため、医療区分Ⅱ、Ⅲの割合85%の目標に対し月平均89.9%と達成維持することができました。重症度が高い患者様を多く受け入れることを年間目標に掲げ、大きな事故や感染等おこさず安全な医療ケアの提供ができました。医療依存度が高い区分は、中心静脈栄養管理、気管切開・酸素療法などの呼吸管理、褥瘡ケア、難病 (ALS、パーキンソン等) の受け入れを行いました。令和2年度全体の患者層としては、2月に11名と終末期のお看取りが多く、一般病棟からの転棟予定者の体調安定が間に合わず、転入困難となり空床がありました。一昨年度より中心静脈栄養管理のカテーテルの感

染管理を強化したことにより、カテーテル感染や管理に伴う病棟間の転棟減少、カテーテル管理の治療方針や皮下注射へ移行するケースが増えてきていると分析しています。また、食事摂取者が10名前後で推移しています。主治医とともに栄養管理に着目し、一部ではあるが療養病棟に転入してから食事量が安定し、体調が整い褥瘡の改善につながることができ介護老人保健施設へ退院されました。区分1のケースに対しては引き続き在宅系への退院支援も検討しています。リハビリカンファレンスでは、議論したことを業務、看護計画に反映できるように少しずつ変化しております。

昨年度に引き続き、コロナウイルス感染にて面会制限が余儀なくされました。重症度が高く長期療養が続くなかで、感染対策を強化し、特に終末期の患者様・ご家族様への面会対応を早めにフリー面会として対応しました。ご家族様からは「もう会えないかと思った」「(家族の)声は聞こえたんですね、(声に反応し)話しかけたらうなずきました」とわずかな時間ですが、本人はもとよりご家族様の満足度にもつなげられることができた貴重な時間と考えます。毎月の誕生会、年4回の職員による「季節を感じていただくイベント」の開催においては、コロナ禍にありながらも職員ひとりひとりが工夫して時間をつくり実施することができました。活動意義はもちろん、行ったことによる患者様の反応や言動は、職員ひとりひとりの意識につながります。いつもは表情に乏しい患者様ですが、働きかけによりよい表情がうかがえ、患者様への効果もあがりました。

今年度は、介護のシフトの見直しと実践、介護リーダーの活動サポート、病棟では病院部門で初めて1月に介護技能実習生2名の受け入れを行いました。技能実習指導員(教育)、生活指導員を中心に病棟全体で環境設定をしながらサポートしております。職員教育は、看護師、介護福祉士、技能実習生とともにそれぞれ看護協会主催、茨城県介護福祉士会主催、N2講座等の研修会、講習会、オンライン研修等に参加し各自がスキルをあげ、専門職としての意識を高めることができました。

医療療養としての役割を再認識し、新たな業務や共通認識できる業務の整理に少しずつ取り組んでおります。急性期からの治療継続、リハビリ、長期療養と幅広いニーズの方が入院される中、常に患者様の立場を考え意思決定支援を行い、来年度も感染対策をとりながら、医療療養としての機能と在宅復帰率向上を努力目標に役割を担っていきたいと考えます。

志村地域医療連携センター

センター長 川崎 真弓

令和2年度の地域医療連携センターの活動目標

- ① 一般病棟 在院患者数の安定及び、各病棟患者数の確保
- ② 紹介急性期病院との連携の強化
紹介患者様の状態把握と当院アピールのために、セラピスト、看護師、MSWの病院訪問
- ③ 連携センターの体制強化 退院調整看護師1名配置

以上の3項目を目標に活動いたしました。

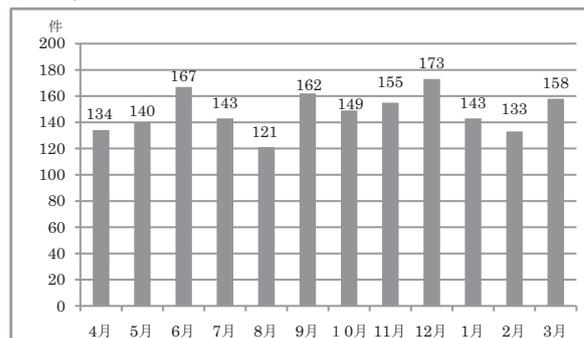
志村地域医療連携センタースタッフ

- ・センター長(看護師) 1名
- ・MSW 4名
- ・退院調整看護師 1名
- ・事務兼介護支援専門員 1名

専門知識を活かしながら活動しております。

令和2年度 紹介患者数推移

総数1,778件 月平均 148.2件



一般病棟、回復期リハビリ病棟、医療療養病棟へ

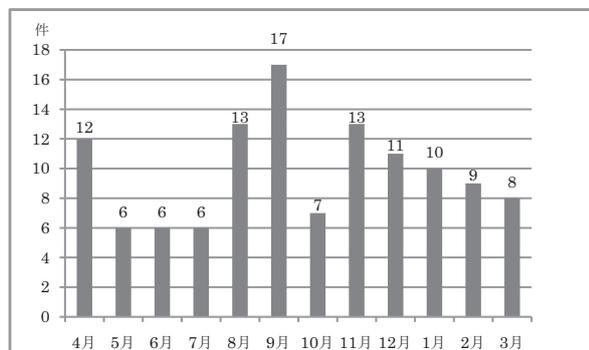
紹介をいただいております。

病院リハビリテーション科

科長 川崎 仁史

緩和ケア病棟紹介患者推移

総数 118件 月平均 9.8件



病棟在院患者確保については、退院日に紹介患者様の予約入院を入れる調整を行っています。患者様が独居であったり、親族と疎遠であったり、子供さんたちの仕事が忙しかったり、転院日・退院日の調整がなかなか難しくなっています。また、金銭面での不安があり、相談にくる方も多くなっています。退院後の生活再編への早期介入が必要であり、行政との情報共有も重要と考えております。

急性期病院との連携において、病院訪問が新型コロナウイルス感染予防のため制限されました。また、毎年開催しておりました「地域医療連携意見交換会・懇親会」も開催することができませんでした。

コロナ禍における業務として、2020年10月から「発熱・検査外来相談受付」が開始され、2021年3月までに332件の相談をうけました。

今後も病院・クリニック・在宅・施設等との連携を強化していきたいと考えております。

1. 令和2年度部門方針

- ①柔軟な働き方により収支の平準化を図る
- ②在宅リハビリテーションのシェア拡大
- ③教育体制を充実させ、人材育成に努める

2. 事業内容

1) リハビリテーションの提供について

疾患別リハビリテーションの提供実績は、出来高算定とはならない地域包括ケア病床および緩和ケア病棟での提供を含めると年間258,459単位であった。出来高算定可能であった個別リハビリテーションにおける疾患別の内訳は表1の通りであった。出来高算定可能であった個別リハビリテーションにおけるPT/OT/ST別の内訳は表2の通りであった。

理学療法においては、ロボットスーツHALを用いた医師主導治療への協力を継続し、高い貢献度で終了することができた。作業療法においては、自動車運転再開支援の取組に加え、上肢用ロボット型運動訓練装置(ReoGo-J)を導入し、上肢機能改善を更に推し進めることができる体制を確立することができた。言語聴覚療法においては、摂食嚥下障害改善への取組を継続し、歯科医師との協力体制の構築、嚥下内視鏡検査実施体制の強化を図った。また、これまでは実施していな

【表1】 疾患別の個別リハ提供単位数（出来高算定分）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
脳血管疾患等リハ	12,155	12,209	12,826	13,237	12,862	11,786	13,034	12,883	14,535	14,366	12,708	14,035	156,636
廃用症候群リハ	2,060	2,461	1,876	2,007	2,094	3,015	3,254	2,376	1,750	1,580	1,796	1,952	26,221
運動器リハ	4,118	4,753	4,761	4,287	4,314	3,578	3,508	3,905	3,954	3,767	3,340	3,747	48,032
呼吸器リハ	1,700	1,665	916	1,174	1,498	1,225	711	815	745	1,040	866	683	13,038
がんリハ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	20,033	21,088	20,379	20,705	20,768	19,604	20,507	19,979	20,984	20,753	18,710	20,417	243,927

【表2】 PT/OT/ST別の提供単位数（出来高算定分）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
P T	12,784	13,141	12,510	12,682	12,667	11,795	12,511	12,116	12,572	12,500	11,237	12,394	148,909
O T	6,217	6,866	6,896	6,929	6,950	6,750	6,847	6,672	7,030	6,705	6,066	6,483	80,411
S T	1,018	1,081	973	1,094	1,151	1,059	1,149	1,191	1,382	1,548	1,407	1,540	14,593
計	20,019	21,088	20,379	20,705	20,768	19,604	20,507	19,979	20,984	20,753	18,710	20,417	243,913

かった“PT・OTによる摂食機能療法”の体制を確立した。

2) 業務内容について

全病棟に共通する事項として、診療報酬改定の内容に対応すべく、リハビリテーションの処方日当日から疾患別リハビリテーション料を算定することができる体制（処方日当日にリハビリテーション実施計画書の説明を終える体制）を構築した。また、地域医療連携センターによる“紹介元急性期病院への訪問”に療法士が同行する体制を構築し、リハビリテーションを目的とする紹介入院患者様の獲得に努めた。

回復期リハビリテーション病棟においては、ADLの中でも特に在宅復帰への影響が強いと考えられる“トイレ動作能力”に着目し、改善に難渋している患者様を抽出してベテラン療法士が直接関与し、改善を模索する体制を構築・実践した。これにより、リハビリテーション実績指数は年間平均で48となった。

言語聴覚療法部門においては、職員不足が顕著になっていることを踏まえ、PT・OTを含めた全職員の繋がりを活用した採用活動を新たに導入した。しかし、残念ながら新卒者の獲得には至らなかった。

3) 人材育成について

①認定資格等取得者

日本理学療法士協会新人教育プログラム 修了	4名
認定理学療法士取得	1名
日本作業療法士協会基礎研修プログラム 修了	1名
臨床実習指導者資格取得	5名
(PT:3名, OT:2名)	

②学術活動（コロナ禍のため多数の学会が中止となった）

第54回日本作業療法学会	1 演題発表
第8回日本慢性期リハビリテーション学会	1 演題発表

茨城県理学療法士会常陸太田・ひたちなか医療圏新人症例発表会	3 演題発表
茨城県理学療法士学会	3 演題発表

3. 次年度に向けて

令和3年度は診療報酬改定のない年であり、部門の地盤固めが実施しやすい年であると言える。病院リハビリテーション科では、妊娠・出産に伴って産育休を取得する職員が増加傾向にあり、現場の実働人員数が減少していくことが予測される。この状況に対応するためには、採用活動の強化に加え、業務の効率化が重要となってくる。特に、言語聴覚士については2年間、新卒者の採用ができておらず、職員不足が顕著になっているため、採用活動の強化が急務である。また、当院は“がん患者リハビリテーション料”の施設基準を有しているが、2014年以来、要件を満たすために必要となる“がんのリハビリテーション研修会”へ職員を派遣していない状況である。がんのリハビリテーションに関する最新の知見を得るとともに、必要が生じた場合に円滑にサービスを提供することができる体制を整えておくために、研修修了者の増加を図っておく必要がある。

コロナ禍が続くと考えられるため、サービス提供体制の担保や職員教育方法の工夫について、継続して取り組んでいく必要がある。

機能訓練センター フリューゲル

管理者 寺門 貴

1. 令和2年度部門方針

- ①安定的な事業継続を可能にするために黒字を維持する
- ②社会リハビリテーションの普及啓発とニーズの発掘
- ③サービスの質向上のために自己研鑽に努める

2. 事業内容

令和2年度（2020年度）の収益について、

年間収入は2千5百万円台と前年に比べ伸びてきた。利用者増に伴い人件費、経費も向上したことから黒字化は叶わなかった。しかし、年間を通して広報・営業を強化したことにより、上期の月平均利用回数は236件で目標を達成していたが、年間をとおして維持することが難しかった。

年間の新規契約は8件で満期修了者は7名であった。また、一般就労へ1名移行した。1日あたりの平均利用者数13名以上という目標を明確に掲げたことにより、翌月あるいは翌々月に何名の契約が必要か計画的な契約を意識することで、より広報・営業活動の強化につながったと考えられる。年間延べ利用者数は2,597名、月平均216.4名であった。利用者層は脳内出血、脳梗塞の利用者が多い傾向にある。紹介元は在宅生活から紹介されることが多く、社会参加を目指して利用を開始する方が多い。その次に多い紹介元は回復期リハビリ病棟になる。一昨年に比べ回復期リハビリ病棟から移行する方が増えたことから少しずつ認知度が向上したと考えられる。利用者の年齢層は50歳代が一番多く、その次に40歳代、30歳代と続く。活動量が増えてきたことからリスクマネジメントをより強化する必要性がでてきた。利用者が安全に訓練に集中できる環境も重要であり、今年度のインシデント・アクシデント件数は、レベル0：5件、レベル1：1件、レベル2：9件、レベル3a：4件であった。インシデントから重大事故を防止するためにレベル0を意識的に報告するようにした。

業務プロセスの観点から、紹介数を増やすことが重要な取り組みになることから、フリーゲル広報誌Vol.1を10月に発行した。相談支援事業所や居宅介護支援事業所を中心に自立訓練（機能訓練）の実際について広く広報を行った。単に機能訓練を行うだけでなく健康管理（健康教育）や職業前訓練など、利用者が自律した生活が送れるようイメージ

を持っていただきながら、多様な支援方法を模索した。また、当事者への支援にとどまらず、家族支援の視点の難しさも痛感した一年であった。利用者の社会背景や家族関係等を考慮しながらエンパワメントする重要性や難しさを感じることができた。

利用者の年齢層も若くなり、復職や社会参加を目指して多種多様な支援が必要になる中で人材育成は重要になる。そのため、事業所内での勉強会も幅広い視点を持てる内容を7回開催することができた。サービスの標準化を図るための品質マネジメントやPマーク、そして専門的な技能向上のために高次脳機能障害者への支援方法や意思疎通など行った。また、働き方改革により効率の良い業務を心がけ、職員一人当たりの時間外勤務は月平均4.5時間であった。

障害者総合支援法に位置づけられている自立訓練（機能訓練）は、まだまだ認知度は低く、有効なサービスであるということを県民および関係者に知っていただくことが、何よりも重要な課題であると感じる。継続的に広報・営業活動を行っていきたい。

画像検査科

浅見 公一

<令和2年度部門方針>

- ①画像検査センターと臨床検査の統一管理による連携強化
- ②医師、看護師負担軽減への取り組み
- ③効率的な人員配置による残務削減の維持

令和2年度は上記3つの取り組みを部門方針とした。まず①について、法人組織図の編成に伴い放射線検査を担当する「画像検査センター」と生理検査を担当する「臨床検査」が「画像検査科」として病院の検査部門として定義された。取り組

みとして生理検査の実績の明確化、目標値の設定を行い、質の向上と連携強化として毎月の科内勉強会の実施、業務課題や連絡事項を共有する科内カンファレンスの場を設けた。科内勉強会では放射線技師、臨床検査技師がそれぞれ担当の月を設定し、お互いの業務内容の理解と知識共有を行った。カンファレンスでは各委員会の取り組み報告や、実際の業務での疑問点や効率的な運用について話し合われ、連携の強化に繋がる相互理解が深まった。

②医師、看護師負担軽減への取り組みとして画像検査センターでは「読影の補助」を掲げ、「医師から放射線技師への画像所見の問い合わせの対応」と、「放射線技師から医師への緊急所見等の進言」を取り組みとした。この背景には令和1年度4月に「医療事故調査・支援センター、日本医療安全調査機構」より「医療事故の再発防止に向けた提言8号：救急医療における画像診断に係る死亡事故例の分析」において、「画像所見の見落としを減少させる意味で、診療放射線技師が気付いた所見を読影する医師に知らせ～担当医師が判断に迷う場合は、職種間のヒエラルキーを超えて診療放射線技師とも意見交換できる環境、雰囲気を作成することが重要」と示されたことによる。実績は、問い合わせ90件、進言26件。このデータをもとに、より医師の信頼を獲得し実績が向上するよう、検査の知識向上と読影能力の向上に努めたい。

臨床検査では看護師負担軽減の取り組みとして「健康診断・人間ドックの採血」を実施した。実績は1,898件。こちらもこの実績をもとにより効率的な運用に繋げるため、採血技術の向上と他検査との連携に努めたい。

③残業削減は法人として各部門10%の削減目標が掲げられ取り組んだ。当科の取り組み内容としては効率的な人材配置として、外来診療受付終了時間が18時である月曜、水曜、金曜の定時以降の業務を、電子カルテにて外来状況を確認し、その都度、技師の必要人数を決定した。削減率の実績は、画像検査センター：28.4%、臨床検査：23.4%であった。

令和2年度はCOVID-19による検査実績への影響が隠しえない。一度目の緊急事態宣言が敢行された4月5月には健康診断の検査は不要不急とされ、MDL（胃バリウム検査）の目標達成率は10%に。6月から実績は回復し、最終的には達成率92%となった。その他の検査も4月、5月は目標達成できた検査項目はなく、令和2年度の実績に影響を与えた。その後は社会的に感染拡大防止策が広く取り込まれ、PCR検査が普及したことにより、健康診断等の検査に対し受け入れの停止の要請はないが、目まぐるしい状況変化の中で、地域での当院の役割に変化が生じようとも検査部門として対応できるよう装置の感染防止対策はもとより、動線の確保や時間的分離等の運用方法の検討を関係部署と綿密に取り組んでいきたい。

志村大宮病院 認知症疾患医療センター

大和 雄太

当部門は、平成29年度に当院が県より認知症疾患医療センターの指定を受けるのにあわせ開設された部門です。認知症疾患医療センターの機能として求められる『専門医療相談』『鑑別診断』『周辺症状及び身体合併症への緊急対応』『研修会の開催・情報発信』を業務の4つの柱としつつ、地域との関係性の強さという当法人の特色を反映した、地域に開かれた認知症疾患医療センターを目指して活動を行ってきました。

令和2年度は、部門方針として①『認知症疾患医療センター業務の拡充』、②『医療圏内の認知症に関する資源の活性化（連携強化）』、③『地域への広報活動の充実』の3つを挙げて取り組んできました。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大から、状況に合わせて当初の計画を変更しながら活動を行いました。

まず①『認知症疾患医療センター業務の拡充』に関する取り組みとして、今年度新たに2つの事業に取り組みました。その1つ目が、認知症当事

者のピアグループ活動である『当事者の集い』です。今年度は年3回の試験開催を致しました。試験開催で得た経験は、今後の認知症当事者支援に活用したいと考えております。

2つめは認知症の方と健常者の間の状態とされる軽度認知障害（略称：MCI）の方を対象に、認知症への進行予防を目的とした『脳活性化教室』の開催です。本年度は3回の試験開催を行い、地域性を加味した会の運営形態や、提供するプログラム内容の計画を進めていきました。本事業は来年度『脳活性化教室 フロイデブレインクラブ』として、当部門とフロイデハイムデイケアの共催で行うことが決まっております。

次に②『医療圏内の認知症に関する資源の活性化（連携強化）』についてです。昨年度より開始した認知症カフェへの職員派遣や、認知症に関連する地域の専門機関との意見交換を引き続き行いました。今年度は大子町と市内の認知症カフェへの職員派遣を行うことが出来ました。会の終了後に職員が会の参加者から認知症相談を受けるといった場面もあり、地域の活動に当部門が参加することの重要性を改めて感じました。

地域の専門職との意見交換については、高齢者の自動車運転に関して情報交換を行うため、自動車教習所や市内の警察署の訪問を計画しておりました。しかし新型コロナウイルス拡大の影響から、電話上で日ごろ診察や相談業務の中で疑問に思っていた事項を質問し、回答いただくという形に変更して行いました。

③『地域への広報活動の充実』に関する取り組みとしては、当部門のSNSアカウントの開設や、当部門の認知症予防カフェへの参加歴がある方に向けた認知症ニュースレターを送付する取り組みを行いました。認知症予防カフェは新型コロナウイルスにより一時中止されていましたが、中止中であっても、地域の方々とつながるための方法を検討した結果、このような取り組みを行うに至りました。

令和3年度の当部門の部門方針は①『認知症診療体制・支援体制の強化』、②『認知症予防事業の強化』、③『新型コロナウイルス蔓延下における

認知症地域支援の維持』の3つを挙げました。積極的に当院外来の診察に当部門の職員が関与し、診察をより質の高いものにすることを目指します。また、引き続き新型コロナウイルスのため活動の制限はありますが、根本的な地域の認知症に関する支援や啓発活動の必要性は変わらないと考えております。そのため、これまで行ってきた活動や新たに運営を開始する『脳活性化教室フロイデブレインクラブ』について、新型コロナウイルス対策を徹底しながら、可能な限り積極的に取り組んでいきたいと考えております。

老健入所科

科長 鈴木 三智子

令和2年度老健入所科は、

- ①長期安定型の超強化型老健としての維持を図る。
- ②多職種で協働し継続した在宅支援を行なう。
- ③自宅訪問や地域に積極的に関われる職員を育成する。

を部門目標として活動してまいりました。

目標達成の為に「認知症リハビリ・集団リハビリの充実」を掲げセラピストとの連携を図ってきました。認知症の個別リハビリは月平均116件と件数を伸ばす事ができました。生活の中でのリハビリをすることで、自宅での生活につながるよう、多職種での連携を強化しています。

「在宅復帰支援」として看護・介護が同行訪問できるよう勤務などを調整して活動してきましたが、全訪問件数の36%にとどまり、50%以上の目標は達成する事が出来ませんでした。令和2年度は新型コロナウイルス感染対策に追われた1年でした。施設でクラスターが起きたと言うニュースを見ては自施設では大丈夫かと不安になり、感染予防策の環境整備に必死となりました。ひたちなか保健所からはいち早く指導に来訪していただき新型コロナウイルスの感染症が発生した時の事を想定したゾーニングを実施する事ができました。

入所しているご利用者やご家族の方には面会制限ということで大変ご不便をおかけしてしまいました。しかし、タブレット面会をいち早く取り入れた事によりご利用者様の様子を伝えることができ、ご家族様にも喜んでいただく事ができました。介護保険の認定調査や事前訪問調査では職員が日頃の様子を伝え短時間で本人に会っていただくなどの対応をさせていただきました。このような様々な対応の結果現在までに感染者は発生しておりません。しかし、毎年ご利用者様が楽しみにしてくださっている納涼祭や毎月行なっている聖愛保育園との交流会・音楽療法も中止になってしまいました。そこで、季節の収穫祭や夏祭り・敬老会・そば作りなど入所内で出来ることを計画・実行しました。職員やご利用者様ともども楽しい時間を過ごす事ができたと感じております。

令和2年度5月に、ベトナムより当施設3人目の実習生が、そして12月にはモンゴルから2名の実習生たちが配属され当施設の外国人技能実習生は5人となりました。昨年配属された2人も日本語も上達し、現在はお利用者様と冗談も言い合えるほどうちとけています。

老健は自宅へ帰るためのリハビリ施設ですが、認知症の方が増えて在宅復帰は困難な事例が多数発生しています。家族の方は主に特養やグループホームへの入所を希望されますが、本人の意見を尊重し希望をすれば状態が安定しているうちに短期間でも在宅生活ができるよう支援しています。

おおみやホームヘルプステーション

皆川 あゆみ

おおみやホームヘルプステーションでは「住みなれた地域で安心して住み続ける支援」をするため、令和2年度の目標に「在宅福祉サービスの充実と、地域密着のサービスの提供」「柔軟な対応と質の高いケアの提供」「ニーズに対応する個別ケアの充実」の3つを掲げ、取り組みをしま

ました。

その結果として、令和2年度は常陸大宮市及び周辺市町村の居宅介護支援事業所・地域包括支援センターから、ご利用者様を多数ご紹介いただき、地域の在宅生活を支える訪問介護事業所として認識をしていただくことができました。常陸大宮市は立地上、高齢者のみの世帯・高齢者の独居世帯が多く、「食事」「掃除」「洗濯」「買い物」など生活に必要な支援を求めている方が多数います。さらに身体が不自由な状態でひとり暮らしを続けている方もおり、その方たちの在宅生活を支えるためには、365日24時間のサービス提供ができる訪問介護事業所が必要となってきています。しかしながら、複数回の訪問介護を必要とするような重介護者が在宅生活を続けているケースは少なく、地域の特徴として施設に比較的に入所しやすいという背景があります。しかし、国の在宅重視、維新の方向性に変更はないことから、様々なニーズに応えられる体制の強化のPRは継続していきたいと考えています。

在宅福祉サービスの充実と地域密着のサービスの提供については、在宅サポートサービス（介護保険外の自費サービス）を行いご利用者様やご家族様に喜んでいただけることが出来ました。また、定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスの充実にも力を入れてきました。しかし、その一方で訪問介護を志望する人は少なく、マンパワー不足から求められるタイムリーなサービスに応じきれない場合があり、職員の確保が現時点での最重要課題と言えます。

柔軟な対応と質の高いケアの提供では依頼にはできるだけ応えていくための連絡体制を整備し、利用依頼には迅速に対応できるよう努力してきました。タブレット導入により、在宅サービス間の連携がさらに強化され、タイムリーな対応が、ご利用者様・ご家族様、ケアマネージャー等に高い評価をいただきました。また、職員が各種研修会や法人勉強会に積極的に参加し業務に対する知識、技能の向上にも努めてきました。職員全体のレベルアップを図ることで高い質のケアを提供するこ

とが出来ました。

ニーズに対応する個別ケアの充実では日常的な支援で得たご利用者様やご家族様のニーズを的確に把握し、適切なケアにつなげるサービスを行ってまいりました。

今年度においては「自立支援を目的とした専門性の高いサービスの提供、柔軟な対応と質の高いケアの提供、ニーズに対応する個別ケアの充実を目標にあげ、ご利用者様が笑顔で喜んでいただけるサービスを行っていききたいと思います。

おおみや訪問看護ステーション

杉田 園美

訪問看護は、何らかの疾病をかかえながらも、住み慣れた地域・自宅で自分らしく暮らしていきたい…という、ご利用者様・ご家族様の想いに少しでも寄り添えるようなサービスを提供しています。

ご利用者様は医療依存度の高い方が増加しています。自宅で生活されているご利用者様・ご家族様に安心して在宅での療養生活を続けて頂ける様、365日・24時間連絡のとれる体制・他職種との協働・連携をとりながらフットワークの良いステーションをモットーに業務に取り組みました。地域包括ケアセンターによるワンストップサービスの強みをいかす事で新規獲得にも繋がっています。

令和2年度の科内目標として、

- ①ご利用者様、ご家族様が自宅で安心して療養生活が出来るよう質の高いサービスの提供。
- ②訪問件数増での収益の確保。
- ③依頼のある医療機関・居宅支援事業所との顔の見える関係づくりで更なる信頼関係の構築。

訪問実績は5,370件で、年間目標の5,141件を達成する事が出来ました。

指示書を頂いている医療機関は30か所以上あり、母体病院はもとより、さまざまな病院、クリニックより紹介を受ける事が出来ました。依頼を断ら

ないという事も訪問件数増に繋がったと考えます。

ご自宅での看取りを希望されるご利用者様、ご家族様への支援の結果、在宅で多数の方の看取りをさせて頂きました。ご家族様の満足度の高いケアを提供出来ていると考えます。又、紹介して頂いた病院へご利用者様の経過を報告し、連携室の方との関係作りとなっています。

当ステーションは、精神疾患を有する利用者が現在10名以上おり、年々増加傾向にあります。精神科訪問看護基本療養費算定要件の研修へ参加し精神科訪問看護の質の高いケアの提供を目指します。

高齢化が進んでいる、北富田地区へコミュニティーナースとして健康相談会の実施、イベントの参加をし訪問看護を知って頂く機会をもちました。

来年度も、積極的に看護学生や看護協会主催の潜在看護師の研修受け入れを行い、訪問看護の魅力を知って頂き、訪問看護スタッフの増加に繋がりたいと考えます。今後更に訪問看護に対する期待は大きい為、スタッフの更なるスキルアップを目指し、質の高いケアの提供が出来るよう努力致します。

フロイデひたちなか訪問看護ステーション

管理者 冨永 信子

フロイデひたちなか訪問看護ステーションの令和2年度の実績は、延べ訪問件数目標3,145件に対し、実績件数3,221件、達成率102.4%、月平均268.4件と目標を達成することができました。疾患別では、脳血管疾患、心疾患、呼吸器疾患、癌末期、認知症など、ケア内容としては、膀胱留置カテーテルの管理、在宅酸素療法、褥瘡処置、血糖管理、日常生活援助など療養生活全般の支援、家族の介護負担の軽減、精神的なフォローなど多種多様な支援を行っています。

訪問看護指示書の依頼機関は、25以上の医療機

関におよび、市内外の総合病院、専門病院、開業医、在宅診療所まで多岐にわたり、特に医療依存度が高い利用者のケアには医療機関との連携強化が重要となっています。今年度は、コロナ禍で直接訪問しての情報共有は困難でしたが、電話やFAX、ひたちなか市においては「電子連絡帳」を活用しての情報共有など行いました。

人員体制は、看護職員4名と少人数で、24時間365日をカバーするのは非常に個人の負担が大きく大変なことで、ターミナルケア、症状の急性増悪、独居や高齢者の2人暮らし、認知症の対応、入退院支援など利用者の在宅生活を守るため、夜間対応も含めスタッフ一同日々努力しています。

また、新型コロナウイルスの影響により入院、施設入所すると面会ができないため、特に癌終末期など在宅での療養や看取りまでを望まれる利用者、家族も増加傾向にあります。更に入院期間の短縮から医療ニーズの高い利用者が増えており、専門性の高いケアが求められています。

超高齢化社会迎え、多種多様な地域の課題やニーズが生まれる中、地域包括ケアを推進していく上で訪問看護の役割は重要であると言えます。在宅療養を支え、看取りまで利用者が住み慣れた地域で安心して暮らしていただくために今後も訪問看護師としての役割をしっかりと果たしていきたいと思えます。

ケアプランセンター

志村フロイデ地域包括ケアセンター長
木戸田 真

令和2年度のケアプランセンターは、①ご利用者の状態に応じたサービスの提供②ICT活用による利用者情報の共有とケアの実践③障害者福祉サービスの拡大の3つを部門方針として取り組んでまいりました。

- ① ご利用者の状態に応じたサービスの提供
法人内サービスの連携を強化し、病院、在宅、

施設、サ高住等、状態に合わせた柔軟なサービスが提供できる体制づくり

- ② ICT活用による利用者情報の共有とケアの実践

タブレット導入による在宅サービス間の連携強化

医療⇔介護の情報連携体制の整備

- ③ 障害者福祉サービスの拡大

ケアプラン作成件数は、おおみや総合ケアプランセンターが月平均目標274件のところ、実績は257件、やまがた総合ケアプランセンターは目標119件のところ、実績は119件、みと総合ケアプランセンターは目標209件のところ実績は201件、ひたちなか総合ケアプランセンターは目標159件のところ、実績は154件、ごぜんやま総合ケアプランセンターは目標264件のところ、実績は272件でした。全事業所合計で97.8%の目標達成率でした。



■特定事業所加算の算定・集中減算回避

おおみや総合ケアプランセンター	加算Ⅰの算定継続、集中減算回避
やまがた総合ケアプランセンター	加算Ⅲの算定継続、集中減算回避
みとけやき台総合ケアプランセンター	加算Ⅱの算定変更、集中減算回避
ひたちなか総合ケアプランセンター	加算Ⅱの算定継続、集中減算回避
ごぜんやま総合ケアプランセンター	加算Ⅱの算定継続、集中減算回避

令和3年度は介護報酬改定の年であり、新型コロナウイルス感染症や大規模災害が発生する中で「感染症や災害への対応力強化」を図るとともに、団塊の世代の全てが75歳以上となる2025年に向けて、2040年も見据えながら、「地域包括ケアシステ

ムの推進」、「自立支援・重度化防止の取組の推進」、「介護人材の確保・介護現場の革新」、「制度の安定性・持続可能性の確保」を図るという方向性に進んでいます。今後の最新情報を収集しながら、地域包括ケアシステムの推進に向けて医療・介護・福祉の要として期待されている職能をしっかりと果たしていきたいと思えます。

常陸大宮市南部地域包括支援センター

管理者 鈴木 俊三

地域包括支援センターは、介護保険法に位置づけられ、全国の市町村が実施する地域支援事業のうち、包括的支援事業を実施する機関です。常陸大宮市では、南北2か所に設置されており、南部の担当圏域は旧大宮町で、当法人が業務委託を受託しています。令和3年6月1日現在、市全体の人口40,273人、高齢化率37.4%で、うち南部は、人口24,957人、高齢化率32.3%となっており、常勤職員6名（保健師1名、社会福祉士2名、主任介護支援専門員1名、プランナー1名、認知症地域支援推進員1名）が従事しています。

業務内容は、市が策定した委託仕様書に基づき、①介護予防ケアマネジメント、②総合相談支援業務、③権利擁護業務、④包括的・継続的ケアマネジメント支援業務、⑤支援ネットワークの構築、⑥地域ケア会議の実施等があり、複合的な課題を抱えた地域の高齢者のワンストップ相談窓口として活動しています。当法人では、医療機関、介護保険施設、在宅サービス事業所、認知症疾患医療センター、在宅介護支援センター等があり、それぞれの機関の特徴を生かした連携がはかりやすく、利用者様にとって大きな利点となっています。

令和2年度の部門目標は、①認知症施策の推進、②包括的・継続的ケアマネジメント業務の推進、③生活支援体制整備事業の充実、④介護予防の普及啓発、⑤全世代・全対象型相談センターの確立、⑥権利擁護の推進、⑦専門性の向上・相談援助業

務への応用等を掲げました。

令和2年度の部門実績は、①認知症施策では、認知症地域支援推進員を中心に、家族の集いカフェ、認知症サポーター養成講座を開催し、新型コロナ感染症流行期も、広報誌を配布するなど活動の継続を図りました。②包括的・継続的ケアマネジメント業務では、地域ケア個別会議3回、事例検討会6回、ケアマネ個別支援61回実施するなど、地域のケアマネ支援とネットワーク構築を図りました。③生活支援体制整備事業では、2層協議体の活動に参加し、地域課題の共有と情報提供を図りました。④介護予防の普及啓発では、元氣アップミニ講座10回、パンフレット配布、イベント参加等を行い、介護予防や権利擁護の普及啓発を図りました。⑤全世代・全対象型相談センターの確立では、難病・障害・生活困窮・孤立など複合的課題を抱えるケースの相談支援を通じて、制度の狭間を超える支援ネットワークの構築、フードバンクなどインフォーマル資源の活用を図りました。⑥権利擁護の推進では、社会福祉士を中心に、虐待対応マニュアルの見直しを行い、令和3年度以降は実際の相談支援に効果的に運用しています。⑦専門性の向上・相談援助業務への応用では、包括職員初任者研修、認知症地域支援推進員研修ほか25回の研修に参加し、情報・技術のアップデートを図りました。また、介護予防ケアマネジメントでは、1269件の給付管理を直営で行い、目標1080件に対し達成率117.5%となりました。

昨今、水害やパンデミックなど、不測の事態を見据えた地域の団結と創意工夫が、より一層求められる時代となり、包括が果たすべき役割はますます多様化しています。専門職としての技量だけでなく、住民のニーズに寄り添う熱意と柔軟な発想力を持ち、住民主体の地域づくりに貢献できる機関を目指したいと思えます。

ひたちなか市北部地域包括支援センター

榎 卓巳

令和2年度は突如現れたCOVID-19感染を抑える為に、国民全体がやむを得ず「社会との繋がりの希薄化」が求められた1年でした。その中で国民が、社会的フレイルから、身体的および精神的フレイルへと陥るリスク増大が懸念されました。私達も総合相談等、通常業務が滞らないよう感染対策を徹底するとともに、いち早くフレイル対策の強化に動き出しました。この活動はその後、市や市内包括を巻き込んだ活動となりました。

具体的には2つの取組みを行っており、1つ目が情報の発信です。令和2年初回の緊急事態宣言直後から計3回、内容面は、正確な情報を住民が得る為の公的機関のHP情報、自粛生活中的健康推進（各種フレイル対策）としました。発信方法は情報弱者とされる方々（高齢者含む）に届くようチラシを作成し、圏域内全自治体、医療機関、スーパー等の協力を頂きました。成果として地域住民から「情報誌を見た」「フレイル対策を実践している」という声を頂いています。また市内包括が私達の取組みを模倣した事で、市全体でフレイル予防を推進する事に寄与出来たのではないかと感じています。

2つ目に地域住民の健康状態調査として、コロナ禍の新しい生活様式（社会参加の制限）が、健康や生活にどのような影響を及ぼすのかを分析すべく、市民アンケートを行いました。こちらは取組開始段階から市や市内包括へ協力を要請し、アンケートを無作為抽出した市内自治会を対象に約5,000部配布。指標はA.主観的健康観、B.ICF各項目の不安感とし、それぞれの因果関係と影響度を、統計ソフトSPSSを用いて算出。その結果、年代や地区により不安感のある項目に差異があり、それをニーズの傾向と捉え、以後の情報発信やアセスメントの1つの視点として活用をしています。

また、主観的健康観をモニタリングする事の有用性も示唆され、民生委員の訪問時ツールおよび包括との連携ツールとして活用できないか、検討を重ねています。

地域支援では、看護師を中心に地域活動を担う代表者に感染対策の伝達と助言を行いました。包括や認知症地域支援推進員で主催する地域活動でも感染対策を徹底し、時にはオンラインでの開催にも挑戦するなどICTも積極的に取り入れ、出来る限り、社会との繋がりが途切れないようにしました。

独自に取り組んでいる、ケアマネや介護サービス担当者との心の距離を縮める活動も3年目を迎え、ケアマネなどから相談を受ける回数も増え、時には冗談を言い合える関係性も芽生えています。委託する際にも二つ返事で断られる事が少なくなっており、この活動が着実に浸透していると感じています。

コロナ禍による新しい生活様式が叫ばれ出した初期に「ピンチはチャンス！」と捉え、市や市内包括と連携しチームとして社会福祉に寄与できた事は大きな財産になったと感じています。この財産をより豊かにできるよう市や市内包括、事業所、住民と連携して地域福祉の増進に邁進して参ります。

コミュニティケアサービス

部長 宮川 直彦

I. 令和2年度 部門目標

1. ケアタウンごとの地域包括ケアシステムの推進～居場所と役割のあるコミュニティづくり～※常陸大宮市においては旧町村ごとに
2. 新規事業の早期立ち上げと新たな挑戦～新たな事業モデルへ～
3. 業務の効率化と人材育成

II. 事業成果



通所系サービス（通所介護・通所リハビリ）では、新型コロナウイルス感染症のため、利用控えやご利用者の中で感染者が発生したことにより大幅に利用者数が減少する事業所もありました。しかし、年間を通して目標比100%を達成することができました。

達成できた要因としましては、緊急支援チームを立ち上げ、感染症で引きこもりになっている利用者さんが困っていることは何か？の問いを行い、そこに力を注いだことです。答えは、生活支援でした。

通所介護に通わなくても買い物はしなければなりません。また、地域によっては従来は息子さんや娘さんが週末等に来て買ってきてくれたり、買い物に連れて行ってくれたりしていたが、高齢者への感染の不安感からその状況が変化し、困っている状況でした。そこで、当グループの有限会社と連携し、通所介護に来れば買い物を定期的にできる仕組みづくりを行いました。また、それでも不安な方へは、配食サービスを宣伝し、孤独や低栄養の防止

など見守りを含めて生活支援の提案させていただきました。その効果等があり、利用者数を確保することができました。

その反面、小規模多機能ホームでは通いサービスへの不安をおっしゃる方もおりましたが、訪問サービスに切り替えることでサービスの継続が可能となり、登録者の安定と、訪問サービスを希望するご利用者が増えました。中重度者ということもあり、新型コロナウイルスによる利用中止者はおらず、安定し運営ができました。また、収入面に関しては、国からの新型コロナウイルス補助金もあり、なんとか維持できました。



訪問看護ステーションに関しましては、少しずつ地域のお役に立てるようになってきております。新型コロナウイルスの影響により、急性期病院からの在宅退院を希望する家族も多く、紹介数が増えました。引き続き重度な方でも地域で暮らしていけるよう、対応を行い人員体制を大きくしながら、24時間365日の安心を提供できるように努めてまいります。

III. 主な活動

1、オンラインを利用した効率的な会議・面会の実施

新型コロナウイルスの広がりから、ICTの活用が急務となり、部署内におきましては、早々に会議システムの導入を行いました。また、面会制限などのために早急にタブレットの購入を行い、面会に使えるように対応を行いました。実施により、移動時間の短縮及び

在宅介護支援センターおみや

小野瀬 美幸

在宅介護支援センターでは、昨年同様常陸大宮市からの委託事業を以下の通り実施しました。

- ① 高齢者福祉総合相談（高齢者福祉事業の代行申請）
⇒相談件数88件
- ② 緊急通報システム事業（設置立ち合い、安否確認の訪問）
⇒緊急通報システム設置世帯数80件
- ③ 介護予防把握事業、高齢者見守り安否確認事業（独居、高齢者世帯の訪問）
⇒高齢者実態把握年間延べ件数995件
- ④ 地域介護予防活動支援事業
⇒サロンの活動支援12回、理学療法士、作業療法士、健康運動実践指導者、管理栄養士の講師派遣、感染対策備品として手指消毒剤、消毒用アルコール綿、体温計の支援、サロン登録者の訪問（インターネット環境の確認、法人で開設したLINEの紹介）
- ⑤ 介護予防普及啓発事業
⇒介護予防普及啓発の資料の配布、コロナウィルスの感染拡大の影響から心配される身体機能の低下を予防する為の資料の配布（転倒予防、認知症予防、高齢者の食事のバランス、タオル体操のメニュー、コロナウィルス感染症の予防のポイント、熱中症予防のリーフレットと冷感タオルの配布）
- ⑥ 生活支援体制整備事業
⇒生活支援体制整備事業（第2層茶話会7回、第1層協議体1回）以上の業務を遂行致しました。

年度初めには、担当エリアの民生委員21名、高齢者クラブ14ヶ所の会長宅を訪問し、ご挨拶をさせて頂き、民生委員の方とは、地域の方の情報交

換、高齢者クラブの会長とは、新型コロナウィルス感染症拡大後の活動状況の確認、公民館のインターネット環境の確認、新しい形の介護予防教室の提案をさせて頂くと共に、法人で開設したLINEの紹介をさせて頂きました。

今年度は長寿福祉課からの委託事業だけではなく、社会福祉課から避難支援プランの作成の依頼があり希望者宅を訪問し、避難支援プランの作成に関わらせて頂きました。

また、生活環境課で新たにモデル事業として取り組む、ごみ出し支援のふれあい収集について訪問、アセスメント、代行申請をさせて頂いています。

今後も地域に寄り添い、地域の方から信頼されるセンターとなるよう、努めて参ります。

栄養科

並木 道子

令和2年度、栄養科では部門方針として、

- (1) 栄養ケアの充実（個人の状態に合わせた栄養ケア計画、食の支援、退院時情報提供と支援）
- (2) 栄養ケア・ステーションの立ち上げ、活動の開始（訪問栄養指導、料理教室、講演等）
- (3) 在宅支援の栄養サポート（配食サービス、サテライト施設への提供方法の再構築）

を掲げ、取り組んで参りました。

入院、入所者様への食の支援としては、栄養サポートチームの介入により、栄養状態の改善方法を考え、栄養ケアを行いました。管理栄養士の病棟配置により、各担当が個人の状態や嗜好に配慮した対応を心掛けました。

献立作成では、毎月2品の新メニューの開発、改善を目標としました。嗜好調査や多職種ミーティングによる意見を取り入れ、年間27品目の新メニューを考案し実践しました。今後はさらに高齢化が進んで行く中で、嚥下機能に不安のある方

でも、無理なくおいしく安心して食べられるソフト食の開発に力を入れていきたいと考えております。

おおみや認定栄養ケア・ステーションは、管理栄養士が地域の皆様に栄養面や食事で困った時に相談できる地域密着型の拠点として立ち上げました。今年度は、感染対策のため人々が集合する機会があまり持たず、活動が制限されましたが、YouTubeによる料理動画の撮影や介護予防教室での講師など少しずつ病院や施設以外での活動をはじめています。個別の栄養相談やレシピの作成等も受け付けており、今後も活動の幅を広げたいと考えています。

在宅支援の栄養サポートとしては、常陸大宮市、常陸太田市の委託事業として配食サービスを行っており、今年度は70,316食（1日平均193食）のお弁当をご自宅へお届けしました。今年度からは、毎月1回の「お楽しみ献立」を院内だけでなく配食サービスのご利用者様にも楽しんでいただけるようメニューに合わせたメッセージカードを作成しお弁当と併にお届けしています。また、「季節のおたより」として時季に合わせた体調管理や食生活のポイントなどを記載したお手紙を配布しました。独居の高齢者の方々にとって、より身近な存在となれると良いと思います。

また、当法人のサテライト施設においても、栄養士、調理スタッフがそれぞれの地域で食の支援に携わっています。各施設間で連携をとり、どこにいても同様のサービスが提供できるよう協力していきたいと思っております。

これからも、地域住民の皆様が安心して生活できるよう食事と栄養面でのサポートを、様々な形で提供していきたいと思っております。

栄養科スタッフ一同協力し、ご利用者様ひとりひとりに寄り添った食の支援に努めて参ります。

薬剤科

河野 高宏

令和2年度、がん外来化学療法を開始するため薬剤科に抗がん剤調製・監査システムとアイソレーターを導入しました。

抗がん剤の調整においては調製者の曝露をいかに防ぐかが重要となります。通常であれば安全キャビネットクラスⅡタイプB2が推奨されますが、調製者の被ばくを完全に防ぐものではありません。近年では調製室内にもエアロゾルが排出されないより安全な密閉式の陰圧アイソレーターが使用されるようになってきました。アイソレーターを使用することで、曝露はほとんどなくなるため、抗がん剤調製の際もガウンやキャップ、ゴーグルを使用する必要はなくなり、ランニングコストは大幅に低減します。防護着の着脱時間もなくなるため、薬剤師数が少ない当院でも十分対応ができるようになります。当院では株式会社日科ミクロンの陰圧アイソレーター、デュアルケモ®を導入しより安全に抗がん剤調製ができる環境を整えました。デュアルケモ導入は茨城県初となります。



陰圧アイソレーター デュアルケモ®

がん化学療法レジメンは改定の頻度が増し、より複雑化してきています。多剤併用レジメンが多く、休薬期間も異なり、投与量は患者の体表面積や腎機能などにより細かい調整が必要となり、システムのサポートなしではアクシデントを起こす可能性が高くなります。当院ではアイソレーターと同時に株式会社トーショーが開発した抗がん剤監査システムRedMan®を導入しました。電子カルテと連動しており、検査値も取り込まれるため、推奨量の割り出しや副作用の発見も可能となっています。オーダーされた投与量が不適切である場合は監査画面上にエラーの表示がされるため容易にチェックすることができます。

アイソレーター内で抗がん剤を調製監査するシステムも導入しました。RedMan®とリンクさせるため同じく株式会社トーショーのAddDis®を採用しました。このシステムはバーコード認証による薬剤の照合機能、必要採取量の重量監査が行え、理論的な重量差と比較することにより秤取量が正確かどうかを確認できるようになっています。調整指示はアイソレーター外に設置されたプロジェクターによりアイソレーター内に映し出され、画面と音声指示に従って調製が行えるようになっています。アイソレーター使用時は両手が使用できないため、操作はフットペダルを用いています。



調製監査システムAddDis®

以上のシステムを用いることによって、紙ベースでの管理ではなくなりコンピューター上で複雑化したレジメン全てに対応ができ業務の効率化が図ることが出来ています。投与量の間違いやデータの入力ミス、調製過誤を防ぎ医療安全への貢献が非常に期待できるものと考えており、今後も増えると予測される抗がん剤外来化学療法にしっかりと対応できればと思います。

診療サービス課

熊谷 淳夫

【令和2年度診療サービス課の目標】

- ①病院情報の公表
- ②健診センター利用者の増加
- ③オンライン診療の導入
- ④退院サマリー作成率の向上
- ⑤外来化学療法の開始準備
- ⑥病院送迎バスの充実

【主な実績】

1)「病院情報」の公表

病院情報公表とは、DPCデータから全国統一の定義と形式に基づき医療機関自ら作成し、市民向けに情報公開を進め、病院の様々な機能や診療状況などを数値化し、時間的変化を評価・分析することにより、医療の質の向上に役立てることを目的としています。

使用するデータは、DPC様式1（カルテからの情報）、様式4（医科保険診療以外のある症例調査票）、Dファイル（包括診療明細情報）のデータを使用し算出しています。

【公表内容】

- ① 年齢階級別退院患者数
- ② 診療科別症例数の多いものから3つ
- ③ 初発の5大癌のUICC病期分類別ならびに再発患者数
- ④ 成人市中肺炎の重症度別患者数等
- ⑤ 脳梗塞のICD10別患者数
- ⑥ 診療科別主要手術の術前、術後日数症例数の多いものから3つ

⑦ その他（D I Cの請求率等）

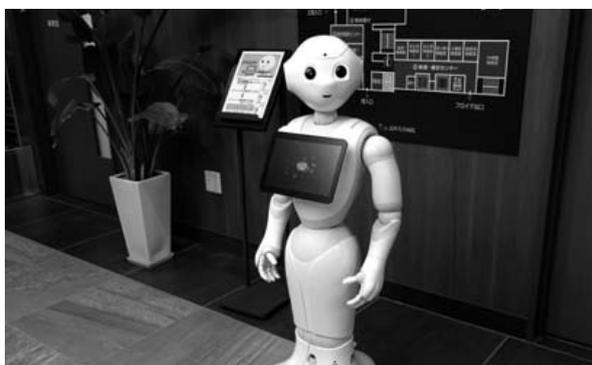
2) 健診センター利用者の増加

志村検査・健診センターの利用者増のため、企業健診受診者の増加のため企業への宣伝強化、半日人間ドック、簡易人間ドック、オプション検査設定など受診者のための新たなサービスの提供、協会けんぽ生活習慣病予防健診指定の更新を行いました。

令和2年度には、健康診断の質の向上のため、一般社団法人日本総合健診医学会と公益社団法人日本人間ドック学会に入会いたしました。



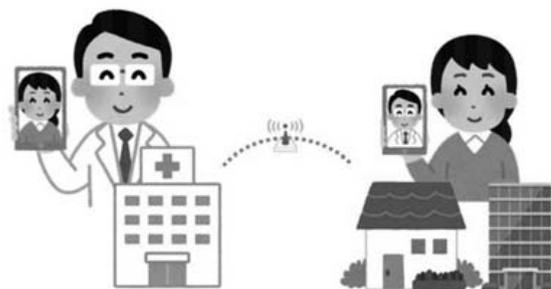
「検査・健診センター」



「世界初の感情認識ロボットペッパー」

3) オンライン診療の導入

当院では、オンライン診療の導入しています。オンライン診療とは、遠隔診療とも呼ばれ、予約から診察、会計まですべてお手持ちのスマートフォンやパソコンなどインターネット回線に接続している機器による診察方法です。



『オンライン診療のメリット』

- ・受付や会計の待ち時間が短縮される。
- ・自宅や外出先で診察が受けられる
- ・院内処方の場合くすりが自宅に届く
- ・院内感染・二次感染のリスクがない

4) 厚生労働省「令和2年度医療の質の評価・公表等推進事業」への参加

本事業は、国民の関心の高い特定の医療分野について、医療の質の評価・公表等を実施し、その結果を踏まえた分析・改善策の検討をおこなうことで、医療の質の向上及び質の情報の公表を推進することを目的としています。当院は全日本病院協会の依頼を受け本調査に協力しています。

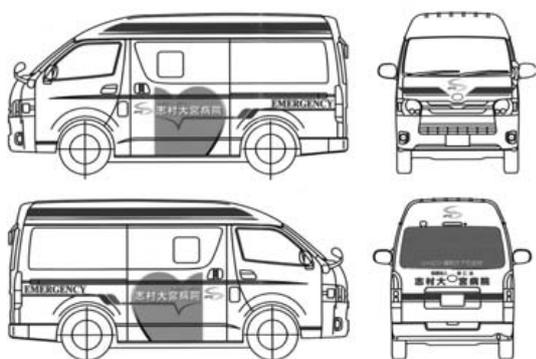
【事業内容】

- ① 特定の医療分野について、評価・公表等を行う具体的な臨床指標を選定する。
- ② 関連する複数の医療機関から臨床データを集計・分析し、具体的な臨床指標の作成を行い、ホームページ等を通じて国民に対して公表する。
- ③ 臨床データ提供のあった医療機関の関係者等による委員会を開催し、国民に有用な臨床指標の公表のあり方等に関する諸問題について分析・改善策の検討を行う。
- ④ 本事業終了後は、上記①、②の実施状況、その実施の際に生じた問題点、③の分析・改善策の検討結果等を整理し、厚生労働省に報告する。

※本調査の結果は、全日病のホームページに掲載されています。

5) 病院送迎バスの充実

当院では、病院送迎バスの充実の一環として、「ナースカー」の運行を行っています。ナースカーは、入院患者さんの送迎と、外来で通院困難な患者さんの送迎を行う専用の車両です。



管理部

部長 熊谷 淳夫

【令和2年度の管理部の目標（グループ全体の3カ年目標達成のための活動の推進）】

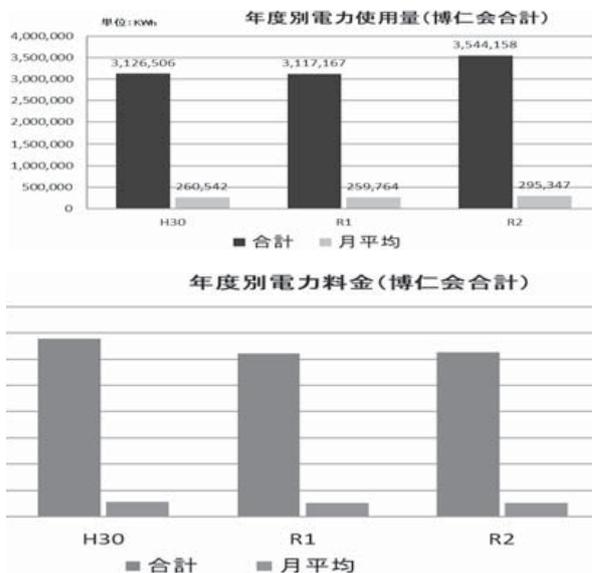
①利益率向上に向けたコスト削減の強化 ②施設整備の推進 ③情報発信の強化 ④健康経営優良法人取得に向けた取組み ⑤MRIの入れ替えを実施いたしました。

【実績】

① コスト削減強化

コスト削減強化では、前年度に行った、新電力採用、電気料の削減に続いて、更なる削減のため競合他社との比較により電気料金の削減を実現し14%の削減を達成いたしました。結果、令和2年度の電気使用量については、

新たな施設の増加により、対前年比で13.7%の電気使用量の増加になりましたが、電気料金としてはほぼ昨年並みの料金に抑えることができました。次年度に向けて、電気使用量の削減も目標にする予定です。



② 施設整備の推進

- 1) みんなの休憩所開設工事（地域交流スペース）
- 2) 屋上庭園花の植え替え
- 3) 外来化学療法室の整備



【みんなの休憩所改修前】



【改修後】

ドイツ館・スイス館・フロイデハイム屋上リハビリ庭園の春・秋2度の植え替えを行いました。一年を通じて花と緑の絶えないリハビリ庭園をご利用者の皆様に提供致します。ドイツ館の開設に合わせ、中庭のライトアップを現在も行っていきます。



【病院中庭庭園】ライトアップ



【スイス館屋上リハビリ庭園】



【フロイデハイム屋上リハビリ庭園】



【エーデルワイス病棟屋上庭園】

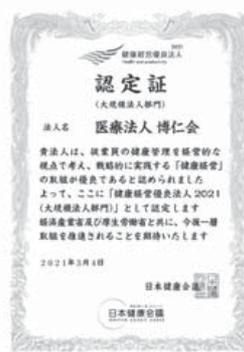
③ 情報の配信では広報誌『お元気ですか』の発行、情報システムの整備による効率化と情報の共有化を図るため、グループウェアサイボーズによる情報の共有化を引き続き進めています。医療と介護の連携ルールとしてグループウェアサイボーズは、拠点数の増加、職員の増加により巨大化・広域化したSFG（志村フロイデグループ）の情報共有・意思伝達手段として非常に有効なツールとなっています。また、電子カルテについては、医療と介護の連携、地域包括ケアシステムの必須ツールとして医療・介護双方向からの活用を行っています。

④ 健康経営有料法人の取組

志村フロイデグループでは、健康経営に取組む企業として経済産業省「健康経営優良法人ホワイト500」の取得に向けた取組を平成30年度より行っています。

「健康経営」とは、従業員の健康管理を経営的な視点でとらえ、戦略的に実践することです。企業理念に基づき、従業員への健康投資を行うことは、従業員の活力向上や生産性の向上等の組織活性化をもたらし、結果的に業績向上につながるとされています。

令和2年度は、健康経営優良法人（大規模法人部門）に再度認定されました。来年度にむけて「健康経営優良法人ホワイト500」の取得に向けさらに活動を行っていきます。



⑤ 1.5T磁気共鳴断層撮影装置（MRI）導入



当院では、機械の老朽化に伴い、旧MRI装置を入れ替えシーメンス社製高性能MRIを導入いたしました。従来の装置と比べると検査時間の大幅な短縮や画質の向上、動作時の騒音低減により、患者様への負担の少ない撮像が可能となりました。

① 装置の小型化

装置が従来よりも小さくなったため、圧迫感が減少し、閉所が苦手な方でも安心して検査が行えます。

② 検査時の騒音低減

従来の装置では検査時の騒音が気になっていましたが、この装置では画質を保ちながら騒音が小さくなりました。

③ 検査時間の短縮

従来装置ではコイルや、セッティングなどを含めると30分超かかっていた撮像時間が、セッティングの簡略化、装置の高速化などにより検査に占める時間が短くなりました。

経理部

課長 帯施 雅信

1、2020年度（令和2年度）決算概況

2020年度（令和2年度）決算では、医業収益が56億6千万円（前期比3億1千万円増、5.8%増）と増収になりました。新型コロナウイルス感染症流行の影響で、病院外来の受診控えや通所介護サービスの利用控えなど一時期減収になりました。しかし、令和1年11月に開設した水戸メディカルプラザの稼働率が上昇したこと、また感染に留意しながら病院外来や通所介護サービスなど後半に稼働率を上げていったことなどにより、前期比増収となりました。

対して医業費用では55億9千万円（前期比1億9千万円増、3.6%増）となりました。増加要因として、人件費が職員数増加により38億4千万円と前期比1億4千万円増加したことが挙げられます。また、新型コロナウイルス感染症の影響で診療材料など材料費が増加しました。さらに水戸メディカルプラザで減価償却費・地代家賃・機器車両リース料の設備関係費で1年間費用計上したこと（令和1年11月開設のため前期は5ヶ月分の費用計上）などにより、医業費用が増加しました。

医業費用が前期比3.8%増と医業収益の前期比5.8%増より増加を抑えられたため、医業利益は7千万円（前期比1億1千万円増）となりました。また恒常的な医業外収益のほか、感染対策補助金の雑収入があったので、経常利益は2億5千万円、当期純利益は1億9千万円となりました。

次に貸借対照表をみますと、総資産額が71億4千万円と70億円を超えました。これは流動資産・流動負債が増加したことが主要因です。

流動資産では特に現預金が増加しました。期中の7月に給与締め日変更（毎月15日締めから毎月末日締め）を行い、7月給与支払いだけが通常月の約半分になりました（6月16日～30日

分の支給額)。そのため7月以降は月末に翌月給与支払分をストックしておく必要が生じ、月末に預金残高が増加したものです。現預金残高は9億5千万円と前期比2億5千万円増加しました。

対して流動負債では、給与支給分の未払費用の期末残高が給与締め日変更により、従来は半月分（3月16日～31日分）でしたが、1ヶ月分（3月1日～3月31日分）に変更となったので2億5千万円と前期比1億4千万円増加しました。

2、新管理会計の導入について

今期より新管理会計を導入し、従来の31部門を直接部門45部門、間接部門9部門に細かく分けて、セグメント部門ごとに収支計上する方式に変更しました。各部門が収支状況をみて利益を増加させることにより、法人全体の利益増加を目指していております。各部門で人件費を含めた経費管理をしていく体制になりましたが、未だ浸透に時間が掛かることから、経理部として随時増減要因資料など提示して、引き続きサポートしていきたいと考えております。

3、今後の活動予定

来期はケアタウンひたちなか2期建築工事を予定しております。この一大プロジェクトが法人業績に貢献できるようチームで取り組んでおります。収支シミュレーションを綿密に数度作成し利益確保が見込めますので、本事業を進めて法人全体の業容拡大に努めてまいりたいと考えております。

今後、多額の借入金が予定されていますので、資金繰り状況を見て短期借入金の返済を進め、負債勘定が過大にならないよう管理していきます。

まだ新型コロナウイルス感染症が続いており、これからも想定外出費が予想されます。預金残高をみて資金繰り状況にはより一層注力してまいります。

人事課

課長 斎藤 常司

令和2年度の目標は昨年度から取り組んでいる「働き方改革」の継続的活動に加え、新たな課題に取り組みました。

1. 人事制度の見直し

令和元年度からの「働き方改革」への継続している取り組みに加え、人事制度の見直しとして人事コンサルタントを招き、各制度の見直しに着手しました。

就業規則等の規程から人事考課制度また、賃金制度等に亘り見直しを行い順次改定した部分から実施し、次年度まで継続する活動として取り組んでおります。

2. 給与計算期間・支払日変更

給与計算期間及び、支給日の変更を8月に実施しました。これは、現在の給与計算期間が他部門の業務の期間と合わないため、事務作業が煩雑であったことから期間を統一し給与支給日も併せて変更しました。

この変更により業務の平準化が図れ、当課の時間外労働の削減に繋がりました。

3. 職員研修の開催

人事コンサルタントを講師に招き、12月に一般職員研修、1月に管理職研修を開催いたしました。

一般職研修は、「働き方改革とパワハラ防止法」をテーマとした講義には、会場以外にもオンライン形式により多数の職員が受講し質疑応答も活発に展開されました。

管理職研修も同様のテーマとして「労働法改正、パワハラ・セクハラ対策」を開催しマネジメント能力の向上に繋がりました。

また、中途入職者向け研修を年2回（9月・2月）開催いたしました。

内容は、接遇関係、ISO関係、就業規則等説明などの研修を開催しました。



4. 新型コロナウイルスへの対応

職員の感染防止対策のひとつに採用内定者の内定から入職日まで14日間確保し、感染していないことを確認してから入職としました。また、他地域から移動する新卒者については、入社前オリエンテーション開始前14日間の体調管理チェックシートを配布し、日々の健康状態を記録して提出して頂きました。更に、不要不急の外出の自粛の注意喚起など入職前の感染予防対策を講じました。この結果、全員感染することなく、入社式を迎えることが出来ました。

また、「新型コロナウイルス感染症対応職員慰労給付金」の申請を行い年末には職員へ支給することが出来ました。

5. SFGメンタルヘルス相談室の開設

年初から相談室の開設に向け活動を進め、4月1日に開設の運びとなりました。

相談室の運営には、産業医、公認心理師、人事課が連携し、メンタル不調の予防また、休業となった職員の休業中の支援から復帰後のサポートまで継続してメンタルヘルス不調者へのきめ細かな支援を行っております。

6. 人材確保・外国人技能実習生の受け入れ

志村フロイデグループを支える医療・介護人材の採用活動に邁進してきました。

コロナ禍の新卒者の採用活動としては、職場説明等はオンライン説明に変わるなど新し

い採用活動に転換いたしました。

この様な活動を通じて新規学卒者26名、中途採用 65名を採用しグループを支える人材を迎えることが出来ました。



また、外国人技能実習生の受け入れでは、令和元年7月から受け入れを開始し、令和2年度は4月にベトナムから2名、12月にモンゴルから2名、1月から2月にかけてベトナムから4名を受け入れ、総勢14名の技能向上に向けた実習活動また、私生活の両面を支援しております。

この一年間における幾多の取り組みを通して、人材の育成、また職員の働きやすい職場環境づくりに課員一丸となり努めて参りました。

来期も新たな課題に向け、邁進いたします。

法人サポート部

副部長 小野 健悦

令和2年度は志村フロイデグループの新規事業として、ひたちなか市の定期巡回随時対応型訪問介護及び、看護小規模多機能型居宅介護の応募し、選定を受けることができました。この2つの事業につきましても、令和4年度中の開設を目指し、各種補助金等を活用しながら、開設の準備をしていきます。

また令和2年3月21日には日本医師会を会場として、日本地域包括ケア学会第2回大会を開催いたしました。新型コロナウイルスの感染を考慮し、初めてのオンライン開催となりましたが、全国か

ら1,050名の医療介護の専門職が参加し、盛大に行うことができました。

また本院が目指している「病院を中心としたまちづくり」を実現するために、山梨県都留市の山口哲央氏をお招きし、第7回茨城北西まちづくり研究会を開催いたしました。研究会には県議会議員や市議会議員、地域でまちづくりに取り組む人たちにもご参加いただき、常陸大宮市の今後を考えるよい機会となりました。

令和2年12月18・19日にはJR常陸大宮駅前の通りにおいて、茨城県庁・常陸大宮市役所、志村大宮病院が協働し「医療・介護従事者と協働する高機能ヘルスロード創出に向けた社会実験」を行いました。実験当日は高齢者・障がい者・子育て世代の親子、約1,500名の来訪者が実際に駅前通りを歩き、新しく変わる駅周辺への意見・提案を話していただくことができました。

法人サポート部は、各部門の支援をすることを目的としております。今後も志村フロイデグループが職員の皆様にとって、働きやすい職場となるよう全力でサポートをしていきます。

志村学園実績報告

茨城北西看護専門学校

吉原 ます子

令和2年度は、新たに介護福祉学科が開設されました。看護学科は1年生が39名(休学1名)、2年生40名(休学12名)、3年生が32名(休学2名)、全年生111名でスタートしました。また、新たに開学した介護福祉学科は、9名の新生を迎えスタートしました。

令和2年度の部門方針を前年度と同じく①「受験生の増加による優秀学生の確保を図る」②「国家試験『全員合格!』を達成する」③「学校運営の安定を図る」④「教育の質向上に向けた取り組みをする」の4点としました。この4点について報告します。

1. 「受験生の増加による優秀学生の確保を図る」について

前年度の学生確保の反省から、受験生120名の目標を立て優秀学生の確保を図るため、前年度に引き続き、集団討議面接を取り入れました。そして、広報活動の充実に力を入れました。高校訪問は昨年どおり5月より開始計画を立てました。しかし、コロナ禍の中4/17全国に緊急事態宣言が発令され、十分な高校訪問・オープンキャンパスを実施できない状況でした。看護学科はオープンキャンパス参加者99名、受験対象者42名、受験生総数64名であり、前年度より減となりました。今年度の入学生は38名であり、定員割れをしてしまいました。介護福祉学科は5月より週1回オープンキャンパスを実施し、入試においてもAO、指定校推薦、公募推薦、一般入試を実施しました。結果、今年度の入学生は9名となりました。

2. 「国家試験『全員合格!』を達成する」について

今年度も9回目の国家試験の100%の合格をめざし、学生を指導してまいりました。入学当初より、学生の自己学習能力の向上を目指し、学生自身で問題解決していけるように、ゼミナール学習を組み入れてきました。3年生になり、学内実習が多くなる中で、学習の質を担保するため、様々な工夫をしてまいりました。最後の実習統合実習は臨地で実施することができました。実習が終了した12月より本格的に国家試験対策に取り組みました。今年度も寸暇を惜しみ集中しました。結果合格率100%でした。

3月10日には第9回卒業証書授与式が行なわれ、地域医療に貢献すべく30名が巣立っていきました。

3. 「学校運営の安定を図る」について

学校運営の安定を図るため、まず、入学者の確保と学生を減らさないという目標の下、学年担任制をとり早めに対応し、必要に応じ本人・保護者との面談を実施することやカウンセラーにてメンタルヘルスサポートの実施をしてまいりました。

つぎに、寄付金・後援会会費の確保をすることを目標に上げましたが、寄付金は0万円、後援会費は56万円の実績でした。看護師養成施設が増加し、医療施設側も看護師確保については以前より苦勞しなくなったのが現状としてあります。こういう中、近隣の医療施設に協力を呼びかけてはいるのですが、目標値には程遠い状態です。

学校管理における経費の削減目標に対しては、講師タクシー代やコピー代の削減を目標どおり達成できました。

4. 「教育の質向上に向けた取り組みをする」について

積極的な学会・研修会への参加とともに、定期的に勉強会(授業方法、学生能力を評価する方法、看護過程の展開など)を行ってきました。また他校の良い方法はどんどん取り入れるように看護学科は日本看護学校協議会・茨城県看護教員連絡会、介護福祉学科は日本介護福祉士養成施設協会にも加入し、教員の連携も図り質の高い教育に努めています。

開学して11年目、今年度は120名の学生の指導をしまいましたが、他校が不合格だったから入学してきたという学生もおり、入学生の学力のなさに驚き、教員一同どう教育したらいいのかと悩む毎日でした。しかし、卒業時の学生は周りの方々に助けられ、一回りも二回りも大きくなって巣立っていきます。教育の素晴らしきを実感させていただくと同時に、私どもも成長させていただき11年間でもありました。

入学を許可したからには卒業まで学校の責任とも考えています。今年度は、看護学科は10回目の国家試験、介護福祉学科は初めての国家試験への挑戦になります。「国家試験全員合格!」を目指し、教職員一丸となって支援してまいります。

博友会 部門別実績報告

博友会事業実績報告

施設長 鶴藤 正孝

令和2年度の博友会の実績について以下の通りご報告申し上げます。

博友会の業績につきましては、例年通り法人の目標である「経営理念を達成するための収益の確保」をモットーに、今年度も職員一同全力を挙げて取り組んで参りました。

結果と致しまして、新型コロナウイルス拡大に悩まされ続けた1年ではありましたが、純資産額で2,275,514千円（令和元年度 2,133,873千円、6.64%の増）、資金収支計算書における事業活動収入で、計画比 13,361千円増の1,576,959千円（令和元年度比 58,162千円、3.83%の増）を確保致して、純資産面及び収入面でも目標を達成することが出来ました。これも偏に皆様方のご支援ご協力のおかげと感謝いたしております。令和3年度につきましても新型コロナウイルスの影響は続いておりますが、引き続き目標達成に向けて、次に繋げる伸長を期して取り組んで行きたいと考えております。

加えて、地域包括ケア体制構築の進展に合わせて、我々も地盤とする旧御前山村地区の方々が住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らしていただける地域づくりに微力ながらその担い手の一員として覚悟をもって活動を続けて行きたいと考えております。

また、一人でも多くの方に福)博友会のご支援者になって頂くよう努力をしてまいります。

さて、社会福祉法人博友会令和2年度の事業運営につきましては

- 1：社会福祉法人として地域の社会資源としての役割を認識し、多世代型プラットフォームとしての役割を果たす。
- 2：事業継続できる法人運営の為に収益確保と

事業継続計画の策定

- 3：自立支援・重度化防止・認知症ケアの充実・終末期ケアへの対応
- 4：一人ひとりの生産性向上を図り、両立支援と働き方改革を推進する
- 5：職員ひとり一人が自身の未来図を描くことが出来るよう支援する。

以上5点を法人全体の共通目標として、お客様に対する接遇、及び職場環境の改善等に努力して参りました。それぞれの項目が1年単位で完結するものではなく今後とも継続的な取り組みを続けて行きたいと考えております。

- 1：は、社会福祉法人としての役割を今まで以上に認識して地域に役立つそして貢献できる法人を目指します。
- 2：は、従来から収益の確保については法人継続の条件として取り組んでおり、今後ともなお一層の注力を重ねて参ります。
- 3：についても、従来からの法人全体の行動目標でもあり、また、ご利用者様顧客満足度達成の為に職員一丸となって取り組んで参ります。
- 4：は、一般社会における働き方改革推進と歩調を合わせて取り組み、個々の健康管理にも十分な配慮をしていきたいと考えます。
- 5：については、法人としての当然の義務であり、また、一人一人の職員が自らのキャリアアップを実現することが法人の成長にも繋がるものと確信をして取り組んでまいります。

以上、述べて参りましたように令和2年度博友会の運営につきましては、収入目標も達成出来ました。今後につきましては母体であります医療法人博友会を中心としたSFGの一員として、ご利用者様が『住み慣れた地域での在宅生活』を安心・安全の上で送って頂けるよう、また、地域と共に発展していけるよう職員一同努力を重ねて参ります。

事務サービスグループ

部長 江幡 和子

令和2年度においては、前年まで立ち上がりが遅かった障害児事業のロッチェが地域の認知度の上昇とともに、業績が大きく改善し、黒字化することができました。法人全体では、コロナ禍の影響で利用を控える方もいらっしゃいましたが、感染防止策の徹底と各事業所の努力により、一定の稼働を達成することができました。コロナによるかかり増し経費もありましたが、補助金等の活用により法人全体では、124.7%と経常増減差額目標を達成することができました。

サービス活動収益計1,553,364,048円、サービス活動費用計1,416,720,173円、サービス活動増減差額136,643,875円、サービス活動外増減差額3,160,421円を加え、経常増減差額139,804,296円の益を確保することができました。(ともに内部取引消去後の額)次期繰越活動増減差額は1,464,142,941円となりました。資産合計額3,342,730,780円、負債合計額11,067,216,723円、純資産は2,275,514,057円で令和2年度決算を終了しました。

今年度は、令和5年度に控えているひたちなか第3期工事に向けて、できうる限り、内部留保に努めていきたいと思っております。

事務サービスグループにおいては、「働き方改革への柔軟な取り組みと組織整備」「業務複数体制の見直しと生産性及び対応力の強化」「介護保険改定に向けての経営意識、課題解決能力の向上」の3点を目標に掲げ業務に取り組んでまいりました。法人全体の令和2年度年間離職率は全職種あわせて10.60%、27名の離職でした。定年を含む60歳以上と転籍者の退職を除くと、7.04%の離職率、17名の離職者数となります。有給取得率の向上、時間外勤務の削減を推進するとともに、定年を過ぎた方に合わせた柔軟な働き方への対応の結果が離職率の低下をもたらしたと感じています。また、業務改善提案年間34件、手順書・手引書作成、見直し26件を通じて、業務の平準化と共有化、課題

解決能力の向上に努めてきました。今年度においては、各業務の洗い出しによる共有化をさらに進め、更なる生産性の向上を目指します。Pマークにおいても8回目の更新をすることができました。

そして、令和元年に引き続きSFG全体において、ベトナムから6名、モンゴルから2名の介護技能実習生を受け入れております。現在14名の介護技能実習生を受け入れていますが、このうち、4名が日本語能力試験N2に合格、6名が初任者研修を修了しております。介護技能実習生が、実習期間を終えた後、特定技能で日本に残り、その間に介護福祉士が取得できるよう計画的な教育を目指しています。

令和3年度は、人材の確保・定着・育成を目指し、働き方改革に沿った就業規則等の見直しと、給与体系と人事考課がリンクした人事制度の再構築を目標に業務を進めてまいります。あわせて令和3年度新規事業である、定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業を早期に立ち上げるとともに、理事長が常日頃からおっしゃっている「質と量の車の両輪」を法人全体で達成し、ひたちなか第3期工事に備えてまいります。

栄養サービスグループ

鈴木 真弓

栄養サービスグループでは、「各関係機関との連携により新規利用者確保による収入・利益の安定を図る」「365日3食、個人対応での食事の提供およびご利用者様ご家族様との信頼関係を構築し、自立支援への対応を図る」「ひとり一人の生産性向上のために職員の資質の向上に努めながら、職員ひとり一人が自身の未来図を描くことができるよう応援する」の3つを部門目標に掲げ、目標達成に努めてまいりました。

令和2年度の博友会全体の食事提供数は、282,793食で1日平均775食でした。

目標達成に向けての取り組みとしまして、年2

回の嗜好調査を毎年継続して行っており、嗜好調査の結果をもとに、食材の切り方の変更や調理方法の検討や味付けの好みなどを科内や多職種の方々と検討し、常に食の質の向上に努めてまいりました。また、毎月1回、歯科医師・歯科衛生士・介護士・看護師やその他職種の方々と一緒にミールラウンドを実施しました。ミールラウンドでは、多職種でご利用者の昼食の摂取状況を確認しながら、嚥下の確認、義歯の確認をすることで、食事摂取の方法を変更したり、食事形態をアップすることができたりと、より多くご利用者の希望を取り入れることができました。

月1回のお楽しみ献立は、ご利用者様も楽しみにされており、食事委員会にてリクエスト献立を調査し、ご利用様が望まれたメニューを提供することが出来ました。その他、季節の行事に沿ったバイキングを実施し、食事から季節を感じていただくことも出来ました。ご利用者様へのバースデーケーキ、バースデーカードの提供は、毎年恒例となり、楽しい食事のひとつとして実施しております。

在宅支援の栄養サポートとしては、御前山フロイデガルテンから常陸大宮市と那須烏山市の委託事業による配食サービスを実施しており、常陸大宮市以外の地域への配食サービスも行っております。サポートセンター城里からは、城里町への配食サービスを提供しております。令和2年度配食提供数は、御前山・城里合計37,781食で1日平均103食の食事をご自宅へ届けていることとなります。また、運転手と連携をとり配達時に安否確認を実施しています。遠方にすむご家族様が安否確認を電話ですることもできますが、配食サービスでは、直接会って会話をして確認することができますので、普段との様子の違いや、体調不良等にも気づくことができました。不在の際や体調不良の際など、離れていてすぐに確認ができないご家族様へ情報を提供することで、早急な対応をすることができ、ご家族様からも感謝の言葉をいただきました。お一人暮らしのかたでも、ご家族様が安心して暮らしていけるよう、地域の方々の栄養

サポートとして治療食にも力を入れ、QOLの向上、安否確認につとめ、今後もケアマネージャー、地域包括支援センター、在宅介護支援センターと協力しより多くの方に配食サービスを利用して頂きたいと考えております。

今後も姉妹法人である医療法人博仁会と情報交換・連携を強化していきながら、ご利用者様一人ひとりに合った美味しい食事を提供できるよう努めていきたいと思っております。

令和2年度 バイキング実施報告書

	テーマ	内 容
4月	お花見	桜としらすの混ぜご飯、春野菜の天ぷら、豚つくねの照焼き、菜の花のゆずマリネ、生揚げと筍の煮物、キャベツと桜えびの浅漬け、かに玉汁、桜餅
5月	令和1周年	赤飯、新じゃがと牛肉の煮物、カルパッチョ、うどの茶わん蒸し、なすとみょうがの浅漬け、ふかひれとキノコのスープ、エビチリ、タピオカ風ミルクティーゼリー
6月	城里リクエスト	海鮮散らし寿司、かしわ天、ポテトサラダ、あんみつ、がり、かす汁
7月	七夕	かにめし、夏野菜の天ぷら、卵豆腐、筍としいたけの煮物、きゅうりと塩昆布の漬物、清まし汁、冷しゃぶの梅ソースがけ、七夕ゼリー
8月	夏祭り	あなごちらし、焼き鳥、揚げ茄子浸し、トマトとチーズのサラダ、カクテキ、豚汁、りんごゼリー
9月	お月見	お月見そば、秋野菜の焼きサラダ、鶏肉と栗の中華煮、揚げ出し豆腐、エリンギとアスパラのマヨ炒め
10月	秋の味覚	きのこご飯、照焼きハンバーグ、ブロッコリーのクリーム煮、チョップドサラダ、かぶのゆず漬、秋の清まし汁、サンマのからあげ香りおろし、カボチャのムースケーキ
11月	中華	海鮮五日あんかけラーメン、マーボナス、中華風酢の物、じゃがいものナッツ炒め、飲茶、マンゴー杏仁
12月	ガルテンリクエスト	彩り散らし寿司、北海サラダ、カボチャのいとこに、白菜のゆず漬、からあげ、豚汁、いちごケーキ
1月	北海道	豚丼、大根と帆立の煮物、サーモンとトマトのサラダ、かぶの塩昆布漬、どさんこ汁、かにクリームコロッケ、チーズケーキ
2月	節分	太巻き、けんちんそば、いわしのかば焼き、節分豆サラダ、里芋のごま味噌煮、甘酢ガリ、チョコプリン
3月	ひなまつり	ちらしずし、からあげ、ふきと筍のみそに、きのこサラダ、白菜と桜えびの漬物、はまぐりの清まし汁、ひなまつりゼリー

御前山フロイデガルテン

仲田 竜一

令和2年度御前山フロイデガルテンでは、「ニーズに即した終末期ケアの提供」「個々の職員目標に応じたフォローアップ体制の確立」「専門性に特化したケアの提供とそのため体制・環境づくり」の目標を掲げ、その達成に向け努めてまいりました。実績に関しましては、特養の部門目標が18,250件、実績が17,724件、達成率97.1%。ショートステイの部門目標が3,650件、実績が3,501件、達成率95.9%となっております。

令和2年度当初より新型コロナウイルスの影響により年度中に計画していた様々な活動が制限され、多くの行事等を断念せねばならない状況となっております。コロナ禍の影響は当事業所のみならず、全国・世界規模で拡大されました。年度を通して施設内の感染症対策に関しては常時取り組みをおこなっております。ご利用者様に対しては、日々手指消毒の徹底、環境改善としては感染対策としまして、ゾーニング訓練など行い発生時感染が拡大しないよう整えております。

「ニーズに即した終末期ケアの提供」に関しては、昨年度も実施した医師を交えた家族面談を継続し、ご利用者様並びにご家族様の意向に沿った終末期ケアの実践に努めました。そのために必要な看取りケアの体制強化として、看護職員と介護職員をはじめとした多職種協働による連携でケアの向上を図り、勉強会による職員個々のスキルアップを図りました。

「個々の職員目標に応じたフォローアップ体制の確立」に関しましては、職員との個人面談等で各々の目標を把握し、それを達成するために必要なスキルアップの推奨、技術の向上を図れる法人内外の研修、勉強会への参加機会を提供する。結果、個々の資質の向上と目標達成による仕事へのモチベーションアップにより施設の介護力の底上げに繋がられるよう努めました。いくつかの外部研修、法人内の勉強会の参加を促し、個々の職員

の知識、技術の向上を図りました。

「専門性に特化したケアの提供とそのため体制・環境づくり」に関しましては、コロナ禍ではありますが、医師を交えたご家族様との面談を開催し、終末期の意向を聴取した上で各専門職との連携及びユニットでのケアについてのミーティング、看取りケアについての勉強会の開催を実施し充実したケアの提供ができるよう取り組んでまいりました。

以上が今年度の御前山フロイデガルテンの事業報告となります。次年度も掲げた目標の必達を目指し、ご利用者様、職員共に過ごしやすい、多種多様になるニーズに柔軟かつ適切に対応できるよう、施設の設備改修等のハード面、職員のスキルアップ等のソフト面での両方の改善を行い、今まで以上に地域に必要とされる施設を目指して来年度以降も務めていきたいと思っております。

御前山デイサービスセンター

森 達也

令和2年度は、世界的に新型コロナウイルスが蔓延し生活形態が一変した年でもありました。御前山デイサービスセンターでも、感染対策を強化しご利用者様並びに職員から感染者を出すことはありませんでした。今後も感染症対策を継続して実施し、当事業所での施設内感染が発生せぬよう努め、ご利用者様が安心してリハビリテーションを実施できる環境を整えて参ります。

さて、御前山デイサービスセンターでは、令和2年度も昨年に引き続き「リハビリ機能強化型デイサービス」としての運営を行い、登録者約100名の方々の身体機能や生活機能の向上を行う事で、住み慣れた地域、在宅での生活を可能な限り長く続けて頂けるよう支援して参りました。また、「常陸大宮市 介護予防・日常生活支援総合事業」では、介護予防対象者の登録者約6名の方の介護予防を図り介護が必要にならない体づくりを目指

し、これまでに蓄積したリハビリ機能強化型デイのノウハウを活かして常陸大宮市の介護予防事業運営への生きがいづくり・仕掛けづくり準備にも注力してまいりました。令和2年度の部門目標は、10,657件で部門実績が、10,803件。達成率は、101.4%となっております。

人財育成の部分では、リーダー・生活相談員に求められる必要な知識のOJTを行い、介護保険関連の知識やリーダースキルの向上等に力を入れ育成を行ってまいりました。

地域活動ではコロナ禍の影響により、各種地域イベントが中止となってしまいました。しかし「地域包括ケア拠点化」を目標に、「コロナ禍だからこそできること」を見出し、地域の高齢者へ「玄米ニギニギダンベル」の配布や「ひまわり弁当」への介入などを実施して参りました。また、12月には「謎解き&ストレス解消イベント」として、御前山ダム公園にて開催し、7組20名の方にご参加頂きました。

新型コロナウイルスの感染拡大の中、社会保障制度や社会情勢が変化しておりますので、正確な情報をいち早くキャッチし、適切な対策・情報を共有することで、ご利用者様・ご家族様・地域の皆様から選ばれるサービスと安心して暮らせる地域づくりを目標に今後も取り組んでまいります。

ごぜんやまホームヘルパーステーション

皆川 あゆみ

ご利用者並びにご家族が、住み慣れた地域で安心して、自分らしい生活を続けることができる地域包括ケア構築をおこなってきました。私たち訪問介護サービスは在宅生活を続けるためには不可欠な存在であることを自覚し目標に向け取り組んでまいりました。

高齢化率が高く、独居や高齢者世帯が多い常陸大宮市や近隣地域において、訪問介護は在宅生活を支える最も身近なサービスと言えます。身体介

護、生活支援サービスの提供により要支援・介護状態にあるご利用者様が安心して生活が送ることができ、また、ご家族様からも介護による身体的・精神的負担が軽減できたと高評価をいただくことができました。

令和2年度は、以下の3点を部門目標に1年間の取り組みは、主に、下記のことが上げられます。

① 在宅福祉のサービスの充実と、地域に密着したサービスの提供

近隣居宅介護支援事業所等の関係機関等の連携を密に行い、ご利用者様の日々の状態や変化等を細かく連絡しあいながら、関係を深めることができ、新規利用者を獲得することができました。

また、医療法人博仁会のおおみやヘルパーステーションと連携を強化し、担当地域を明確にし、ご利用者様の受け入れのスムーズな調整等を行い業務の効率化にもつながりました。

② 柔軟な対応と質の高いケアの提供

依頼にはできるだけ応えていくための連絡体制を整備し、利用依頼には迅速に対応できるよう努力してきました。タイムリーな対応が、ご利用者様・ご家族様、ケアマネージャー等に高い評価をいただきました。また、法人内勉強会や、研修の参加等において職員の知識、介護技術の向上にも努めてまいりました。職員のレベルアップによる高い質のケアの提供を行うこと出来ました。

③ ニーズに対応する個別ケアの充実

ご利用者様やご家族からの要望には迅速に対応できるよう努力してきました。常にご利用者様に対し耳を傾け、ニーズの的確な把握を行ってまいりました。また、カンファレンスを行い、個々に合わせた計画書を作成し、計画書に沿ったサービスを行うことが出来ました。ご利用者様個々の症例を通してコミュニケーション能力やケア技

術の向上を図り個別ケアの充実を図ることができました。

今年度においては自立支援を目的とした専門性の高いサービスの提供、柔軟な対応と質の高いケアの提供、ニーズに対応する個別ケアの充実を目標としています。タブレット導入によって在宅サービス間の医療と介護の情報連携の強化が期待されることと思います。ご利用や様の声をサービスに活かし、自立した生活が送れるよう支援していきます。ご利用者様の笑顔がスタッフ一同の喜びとなるようなサービスを行っていききたいと思います。

ごぜんやま訪問入浴サービスセンター

笹崎 圭太

ごぜんやま訪問入浴サービスセンターでは、常陸大宮市を中心に在宅で生活される方に対し健康促進、清潔保持を目的とし安心して在宅生活が送れるよう支援して参りました。訪問時にはご利用者様お一人おひとりの身体状況確認を行い入浴支援、医療処置が必要な方には処置等の対応を行っております。また訪問入浴サービス提供にあたり地域の介護支援専門員や医療機関など関係機関との連携を強化し、『住み慣れた自宅で過ごしたい』と、ご本人様やご家族様の強いご希望であるターミナルケアのひとつとして『体のケア』だけでなく精神的負担の軽減が少しでも図れるよう『心のケア』も重視したサービスを提供して参りました。

令和2年度の訪問利用者件数は1,142件で、目標達成比率は95.2%という結果となりました。今後も令和2年度以上にエリアを配慮した予定の管理を徹底し、ニーズのあるご利用者様の受入れを行って参ります。また、ご利用者様の介護度をみると、要介護4、要介護5が90%近くとなり在宅生活者にとって訪問入浴の役割は重要な位置を占めています。(資料1)

また地域別でみると県内は常陸大宮市、城

里町を中心に栃木県は那須烏山市、那珂川町と栃木県南東部までとサービスエリアを展開し、地域別訪問予定調整を行い、効率よくサービスを提供出来るように努めてきました。(資料2)

引き続きお一人おひとりにあった介護サービスを提供し、介護者される方の身体的・精神的負担の軽減が図れるように、また、身体の清潔保持、心身機能及びQOLの維持・向上を図るためにも、介護技術と質の向上を図ることにより、選ばれる事業所となるよう日々の業務に取り組んで参ります。

また今後も介護支援専門員を中心とした他職種間との連携を図り、ご利用者様やご家族様が引き続き住み慣れた環境で安心して生活できるよう支援して参ります。

(資料1) 要介護度別利用者数 (資料2) 地域別利用者数

介護度	件数	市町村名	件数
要介護1	5件	常陸大宮市	665件
要介護2	5件	城里町	124件
要介護3	71件	水戸市	16件
要介護4	493件	日立市	28件
要介護5	521件	那須烏山市	281件
その他	47件	那珂川町	25件
合計	1,142件	茂木	3件
		合計	1,142件

ごぜんやま総合ケアプランセンター

佐藤 信也

在宅介護支援センターごぜんやまでは、昨年同様、常陸大宮市からの委託事業として、一般介護予防事業と包括的支援事業を以下の通り実施致しました。

事業内容と活動実績として、一般介護予防事業は、①介護予防把握事業(独居・高齢者世帯、予防事業対象者等の実態把握)、実人数197名(述べ件数250件)②介護予防普及啓発事業(リーフレット配付、イベントへ参加しPR活動)、実施回数8回③お達者教室(運動・口腔・栄養に係る介護予防教室)中止④地域介護予防活動支援事業(地域サロンの立ち

上げ、運営支援)、運営支援地域3地域。

包括的支援事業は、①総合相談、実件数157件(介護保険関連17件、緊急通報関連30件、生活支援45件、実態把握35件、その他30件)②緊急通報システム管理、設置件数52件③申請代行手続き、実件数39件(介護保険関連8件、配食サービス6件、タクシー関連5件、緊急通報関連19件、その他1件)④生活支援体制整備事業(協議体活動への参加、情報交換)、実施回数7回。

高齢者福祉事業は、①緊急通報システム事業(新規設置立ち会い、電池交換、故障修理立ち会い)、実件数9件②高齢者見守り安否確認事業(見守り・安否確認)、実人数197名(述べ件数1,050件)。

以上の業務を遂行致しました。

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止により、介護普及啓発事業(お達者教室)が中止となりました。またサロンにおいては活動中止となった地域に対し、感染防止対策を含めた再開支援、サロン参加者が自宅で行うことができる介護予防関連の資料配付、地域のボランティアの方へ依頼し制作して頂いた手作りダンベルの配付の支援等、市の委託事業契約に従い、実施いたしました。

今後も、地域に寄り添い、関連機関との連携を深め業務遂行していくと共に、地域包括ケアシステム構築に向け、支援センターの機能向上に努めて参ります。

ごぜんやま総合ケアプランセンターでは、介護保険に関するサービスの相談や事業所の紹介、調整、ケアプランの作成等を行っています。

今年度の事業目標と活動報告は下記の通りです。

①医療との連携強化

②自立支援に資するケアマネジメントの実践

③ケアマネジャーとしての地域連携・資質の向上

利用者総数は3,269件、年間目標達成率は103.1%と目標達成となりました。職員が7名体制により新規利用者の受け入れが行えるようになり目標達成となっております。

特定事業所加算Ⅱの算定を継続し利用者確保に

努めました。

①医療と介護の連携強化に関しましては、入院先に対し速やかに情報提供書を作成し提出を行いました。また、電話での状況報告を行い医療機関との関係性を強化してまいりました。新型コロナウイルス感染拡大の防止の観点から病院でのカンファレンスがなく、電話でのやり取り利用者様の情報収集を行い居宅サービス計画書作成に努めてまいりました。

②昨年度はコロナウイルス感染拡大防止の為、集合研修がほぼ中止となりましたが、オンラインでの研修に参加することで知識を高め、ケアマネジメントに関する質の向上を図りました。

課題整理総括表を活かし、アセスメントを行い利用者の理解を深め自立支援に向けた居宅サービス計画書を作成できるよう努めてまいりました。

③行政機関及び医療機関、常陸大宮市北部・南部地域包括支援センターと円滑な業務が図れるよう努力して参りました。昨年度は研修や集合での会議が中止となり人とのつながりできる機会がへりましたが、オンラインを活用し研修や会議に参加する事で、各事業所や介護支援専門員との関係作りを行う事ができました。

10月より新人介護支援専門員が移動となり、主任介護支援専門資格者を注意に新人教育を行いました。

フロイデグループホーム桂

桑名 雅義

令和2年度のフロイデグループホーム桂は、地域住民の皆様や城里町行政、地域包括支援センター、関係各所の皆様のご協力を頂きながら、城里町唯一のグループホームとして運営して参りました。開設17年目を迎えられたのも、ひとえに地域の皆様のご理解とご助力のおかげであると思っております。感謝申し上げます。

令和2年度は世界的な脅威となっている新型コ

新型コロナウイルス感染症のため当初計画していた様々な地域活動やイベント等が中止を余儀なくされてしまいました。

地域のニーズの把握として計画していた運営推進会議もその一つで、城里町行政、地域包括支援センター、地域住民代表、ご家族様代表、小規模多機能ホーム城里と意見交換を行うため年間6回予定をしておりましたが、2回の開催となっております。開催できなかった分は資料作成配布等を行いきる限りの情報交換を実施いたしました。

また、例年同様に沢山小学校の運動会11月には、しろさと町民まつりの予定も中止となっております。その分、事業所として室内で実施できるイベントを毎月開催し、利用者様に少しでも楽しく過ごしていただけるよう提供してきました。感染予防対策についても徹底して取り組み、事業所での感染者は0となっております。令和3年度はコロナ禍のなかでもできる、利用者様が楽しく喜んでいただけるようなイベントを計画・開催したいと考えております。

最後に人材育成と働き方改革の推進をし、時間外労働の削減と有給休暇の取得を促し職員のリフレッシュを図っております。認知症ケアの充実を図る目標としても、認知症についての知識や基礎介護技術を深めるため、認知症介護実践者研修修了者から勉強会を開催しスキルアップを図っております。

令和2年度の実績としましては目標6,570件に対して実績6,130件達成率は93.3%となっております。来年度は実績の確保をし、運営の安定化に努力して参ります。

令和3年度も、城里町唯一のグループホームとして、ご利用様がいつまでも住み慣れた地域で安心して暮らして頂くため、認知症ケアの知識・技術の向上・質の向上を図っていくとともに、目標達成に向けて取り組んでまいります。

フロイデ総合在宅サポートセンター美和

宮田 匠

フロイデ総合在宅サポートセンター美和は、平成17年7月に開設し、日頃から地域の皆様に支えられながら無事16年目を迎えることができ、感謝しております。これからも鷺子地区において必要とされる施設そして地域の皆様に愛される施設を目指して今後も取り組んでいく所存であります。

美和デイサービスセンターでは、令和2年度の目標として、住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせるようにをモットーに、ご利用者様一人一人のニーズに合わせたサービス内容を立案し、提供して参りました。職員の接遇、スキルアップに関しましては、法人主催の接遇研修への参加及び、部門内での疾患別勉強会などを他職種間で知識を共有し質の高いサービス提供に努めました。令和2年度はコロナ禍ということで感染対策にも徹底して取り組み感染者0名を達成しております。また、自立支援、自己決定能力の向上の為、様々なアクティビティー活動を提供し、地域の文化祭へ出展、成果を出し、道の駅北斗星には作品の展示販売を開始するなど、生きがい作りの一環として、ご利用者様の満足度に貢献致しました。この後も活動を継続し、発展させていく所存で御座います。

グループホーム美和では、地域密着型施設として地域住民の方や地域包括支援センター、常陸大宮市社会福祉協議会、居宅支援事業所との連携強化を図って参りました。隔月で開催される運営推進会議におきましては、感染症蔓延防止の観点から、地域行政、地域住民代表、地域包括支援センター等との情報・意見交換に電話等を使用し、認知症対応型施設としての役割を果たすことができました。また、火災、地震、風水害などの非常時に備える為、大宮西消防署、地域の鷺子福祉ボランティアのご協力を頂き、施設内消防訓練時には参加をお願いし、協力体制の確立も図ってまいりました。また、常陸大宮市グループホーム連絡協

議会へ参加し、同市内のグループホームとの意見交換などを行い、認知症対応型施設として常にスキルアップを図り地域における認知症への理解度向上に少しでも貢献できるよう努めてまいりました。

令和2年度の目標達成状況としてデイサービス達成率は98.6%、グループホーム美和達成率は97.9%に留まりました。この結果を重く受け止め次年度は新規者の獲得、病院との入退院連携を密に図り、目標達成に向けて取り組んでまいります。

最後に、来年度は積極的に地域行事へ参加し、地域の皆様にご利用頂きやすく、安心して大切なお家族様を任せいただける施設を目指し、PDCAサイクルを活用した一人一人が自分らしく日常生活を送っていただける場所の確立に努力していく所存です。

フロイデ総合在宅サポートセンター城里

黒澤 貴明

令和2年度フロイデ総合在宅サポートセンター城里は、『ケアタウンごとの地域包括ケアシステムの推進』『新規事業の準備と開設～新たな事業モデルへ～』『次世代育成の教育と体制づくり』という部門方針のもと、新型コロナウイルスが蔓延する中ではありましたが、「今できる事」を思考し実践いたしました。

地域包括ケアシステムの推進といたしましては、地域住民を対象としたオレンジカフェ（認知症カフェ）や「しろさと健康教室」の開催、高齢者クラブへの健康運動実践指導者派遣等を行い地域の方との関係構築に努めました。

人材育成・教育への取り組みとしまして、毎月の事業所内勉強会の他、各種研修会へ積極的に参加し専門職としての知識・技術の向上を図りました。

城里デイサービスセンターではサービス面においてリハビリ機能に特化し、作業療法士や健康運

動実践指導者など専門スタッフを中心に、軽度者から中重度者まで、様々な運動をサービスに取り入れ、ご利用者様の在宅でのサポートにつながる活動を行って参りました。年間利用者総数9,663名（達成率93.1%）の実績でした。

小規模多機能ホーム城里ではご利用者様の多彩なニーズに対応できるようご本人様だけではなくご家族の皆様とも連携を図り、一人ひとりに合ったサービスの提供を行いました。地域の医療機関や城里町の地域包括支援センターなどへ広報活動を行い、小規模多機能の通い・泊まり・訪問の3つを組み合わせた在宅復帰・在宅支援サービスについて改めてご理解をいただき、新規ご利用者様の獲得に努めました。年間利用者総数は9,886名（達成率93.4%）でした。

しろさと配食センターの年間配食数は、4,073件（達成率107.8%）でした。今後ご利用者様一人ひとりの食事形態に合わせた食事を提供し、ご自宅でいつまでも安心して過ごしていただけるように、栄養満点のおいしい食事を届けていけるよう努めて参ります。

今年度も新型コロナウイルス感染予防対策を徹底し、安心してご利用していただける事業所作りと職場内環境の見直しや改善による働きやすい事業所作りに努め、目標達成に向けて職員一丸となって取り組んで参ります。

フロイデ工房しろさと

清水 良則

令和2年度におきましても、就労支援施設として、就労移行支援事業、就労継続支援B型事業のサービスを提供させていただきました。

就労移行支援事業においては、就職の実現を最大の目標に、就労に必要なスキル獲得に向けた様々な作業活動を実施しました。就職活動においては、ハローワーク、障害者就業・生活支援センターなど関係機関との連携も図りながら、就職に

関する情報の収集に努めましたが、新型コロナウイルスの影響が非常に大きく、一般の失業者の増加、雇用者の激減もあって、障害者雇用においての求人数は前年の2割程度、国の緊急事態宣言に伴い面接の延期や中止が著しく続き、更に厳しい状況の1年でした。御利用者様にはコロナ対策を講じたうえで、常に就労に向けたスキル獲得の支援活動の一環として実施している作業活動や同様法人内部からの委託作業を中心に、ラスクの生産販売や一般企業から内職作業、官庁から環境美化作業を受注し実施しました。作業の種類を増やすことで御利用される方のスキルに合わせて作業活動実施していただけるよう、職業準備性を高めております。

就労継続支援B型事業においてもご利用される方の就職の実現は大きな目標ですが、事業者にはより多くの工賃の支払いと、一般就労が困難な方の働く場所の提供も大きな役割として求められております。このため作業内容や作業量の確保も重要な課題であり内部作業だけでなく外部委託作業の受注にも努めました。企業から求められる精度や量、納期限など安定した作業を実施したことにより、取引先からの信頼を獲得し作業委託量を増やし作業収入の増額を実現しております。

新規の御利用者様は生活保護受給者の割合が多くなってきております。社会経験をお持ちの方のため、将来の生活を安定していただく為に、まずは安定した利用を提案し、自信を持って社会復帰が出来るように支援し、他の御利用者さまにおきましても専門性をさらに向上させ、質の高い就労支援サービスの提供に努めます。

安定した御利用をしていただき、就職者の輩出、新規利用の増加、外注作業の増加に引き続いて努めて参りたいと思います。

大宮フロイデドルフ

介護事業部 課長 藤田 章宏

大宮フロイデドルフは開設から9年目を迎え、10年目に向けた様々な取り組みを実現するべく計画をしまいましたが、全世界的に流行している新型コロナウイルスの発生に伴い、今までに経験のない対応を図った一年となりました。施設での介護提供及びご利用者様の望む生活実現に際しては、家庭環境に比べると制限がある生活が通常です。今回の新型コロナウイルスの流行に伴い、今まで以上のご利用者様及びご家族様に我慢をお願いする時間となったことをこの場を借りてお詫び申し上げますと共に、施設対応へのご理解に対して感謝をお伝えしたいと思います。

さて今回、大宮フロイデドルフとしての対外的な取り組みや、行事参加などは大幅に削減して控える形とはなりましたが、施設内での新たな取り組みや、活動を促す期間になったことも事実であります。その内容をご報告させていただきます。

まず、1つ目として施設内の余暇活動の見直しを図りました。現状の世情になる前でも施設内のイベントや活動は定期的に行っておりました。今回のこの状況を踏まえて、より一層の活動等の活性化を図る必要があることを職員全体で話し合っております。各ユニットにおいては、ご利用者様のご意見や、状態を踏まえてイベントを計画して参りました。「外出しないと食せない食品」をテイクアウトして食べるイベントの実施、またそれらの時間を楽しんで頂いたご利用者様の表情を毎月ご案内と共にご家族様へ近況報告という形で送付させて頂きました。多くのご家族様にご好評を頂いております。また、クラブ活動の充実ということで、絵手紙クラブの拡充（作品の展示や、年賀状等での送付）や、映画クラブの実施（定期的な昭和映画などの放映）を行っております。

次に2つ目として、介護記録の充実として見直しを行っております。ご家族様がご利用者様の状況を知るうえで大切なので日々の介護記録です。

現在、施設では電子介護記録（C-repo）を用いて日々の記録を行っております。記録に基づいてご家族様が来所された際及びショートステイ等でお帰りの際に記録のコピーをお渡ししてご説明できるように体制を整えました。現在は送迎の対応についても相談員のみと限定せず介護職員・看護職員が直接対応し、日々の様子をお伝えできるようにしております。

最後に3つ目として、技能実習生の受け入れの充実です。技能実習生を受け入れて1年半が経過しております。大宮フロイデルフでは現在4名の介護技能実習生を受け入れておりますが、今では国籍等に関係なく、熱心な学びの姿勢から伝わるように、ご利用者様のケアを提供するうえで必要な戦力となっております。介護技能実習生受け入れ事業においては、国発信の事業ではありますが、これからの介護業界の未来に係る事業と捉えております。私達は、内部の介護技能実習生の養成を継続すると共に、外部施設の介護技能実習生の養成への協力として技能実習評価試験官の養成も行い、評価試験官として対応もおこなっております。介護技能実習生の養成は、人手不足である介護業界の為だけではなく、必要なケアを要しているご利用者様の介護の質に係ると考えております。法人全体として積極的な教育活動と、職員の確保を含めた働き方改革について今後とも積極的に努めて参りますのでご協力をお願い申し上げます。

フロイデ総合在宅サポートセンター友部

室井 英雄

フロイデ総合在宅サポートセンター友部は志村大宮病院回復期リハビリ病棟「スイス館」の笠間サテライトとしてリハビリ機能強化型デイサービスが開設され8年が経過しました。

その後、訪問看護ステーション、看護小規模多機能型居宅介護とサービス付き高齢者向け住宅を

開設したことで介護予防をはじめ、リハビリニーズの高いご利用者様や医療依存度の高いご利用者様まで満足いくサービス提供体制が確立されました。多職種による専門的な支援が実を結んだ結果と考えております。

【令和2年度の部門方針として】

- ① ケアタウンごとの地域包括ケアシステムの推進
- ② 新規事業の準備と開設～新たな事業モデルへ～
- ③ 次世代育成の教育と体制づくり

が掲げられ当事業所もケアタウン友部として地域への浸透と関係づくりを念頭に置き、部門方針を実践して参りました。

部門方針①の取り組みとして、介護予防・日常生活支援総合事業であるオレンジカフェやフロイデ元気すこやか教室などを実施し事業対象者、要支援者へのサービスの機能強化を図りました。また、一般介護予防事業であるわくわく脳元気教室の委託も令和2年度より開始され地域の一般高齢者の介護予防支援についても体制が構築されました。デイサービスや看護小規模多機能型居宅介護は要介護中重度者でも安心して在宅生活が送れるよう多様なサービス調整を実施しました。今後も更なる連携強化に向けて他医療機関・他事業所とのネットワーク作りを推進して参ります。

②の取り組みとしては、『定期巡回随時対応型訪問介護看護』の公募を獲得することができました。令和3年度の開設に向けて準備してまいります。

③の取り組みとしては、認知症実践者研修や喀痰吸引研修等に参加しスキルアップを図っております。今後は地域住民との関係性を深めフロイデサポーターを養成できるよう努めて参ります。

令和2年度の目標達成状況としてサービス提供件数(延べ数)目標はフロイデ友部デイサービスセンターが10,383件、実績が10,611件、達成率は102.2%と目標を達成することができました。看護小規模多機能ホーム友部が目標達成率94.9%、フロイデともべ訪問看護ステーションが106.2%、

フロイデアシストハウス友部が目標達成率98.7%の結果となりましたので次年度は実績を確保し運営の安定化を図っていきたくと考えます。

今後も継続し要介護中重度者の受け入れを積極的に行い、医療支援が必要な方や認知症状がある方でも安心してサービスが受けられる体制作りをしていきたくと思います。介護予防としては地域サポーター連携した事業所運営を行い、新規事業については目標達成できるよう広報・営業活動に注力して参ります。健康などの悩みや介護・生活相談などを共有できる事業所を構築し、誰もが安心して暮らせるまちづくりの一翼を担っていきたくと考えております。

フロイデアシストハウス大宮

井坂 直人

フロイデアシストハウス大宮はサービス付き高齢者向け住宅として開設5年目を迎えることができ、今後ともご利用者様ならびに地域の皆様に必要な事業所運営ができるよう、業務改善等を図りながら積極的に取り組んで参りたいと思っております。

アシストハウス大宮の令和2年度の実績ですが、満室(全20室)を目標に対し、100%達成することができました。これからも待機者や入居希望者の方々に安心した住まいを提供できるよう迅速な対応と環境整備を心がけて参ります。

令和2年度部門目標

- ① 関係機関と連携を強化し安定した事業運営
満床状態の維持と居宅介護支援事業所、関係機関への営業を強化し、退院後の自宅での生活に不安がある方や独居生活に不安がある方など入居者、待機者の確保、事業運営を行っていく。
- ② いきがいづくりの繋がる環境整備と地域との信頼関係の構築

入居者様が楽しみをもち生活ができるよう環境の整備を行っていく。また、地域の活動に入居者様と参加し地域交流、信頼関係を構築していく。

③ 資質の向上と各職員のスキルアップ

各職員が法人内外の研修を活用し知識向上、資質の向上を図っていく。また入居者様に寄り添い安心して快適な生活ができるよう環境整備の実施を行う。

上記の3つの部門目標を掲げ活動して参りました。

入居者様は70歳代から90歳代と幅広い御年代、介護度別では自立から介護3の方が入居されております。(資料1)入居されているなかで介護が必要な方には一人ひとりに合った介護保険サービスの提案と状態等に変化があった際は関係機関と連携、連絡調整を行い、安心して生活できるよう対応して参りました。活動としましては以前のように外出支援などの機会は減少してしまいましたが感染対策を徹底したなかで液晶を活用し、WEB体操教室を定期的で開催し、入居者様の体力などが低下しないよう活動して参りました。

今後も入居者様が「安心」「快適」「楽しみをもって」生活が送れるよう関係機関との連携を強化しサービスの提供、支援して参ります。また個々に合わせたサービスの提案、提供、職員の質の向上を図るとともに、より一層、地域との関りを大切にして地域との信頼関係の構築ができるよう努めて参ります。

資料1(介護度別) ※令和2年度末時点

自立	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5
5名	0名	3名	8名	5名	1名	0名	0名

フロイデ工房なか

吉川 裕子

平成29年4月に新規事業所として那珂市菅谷に就労継続支援事B型事業「フロイデ工房なか」と児童発達支援事業「ロッチェなか」を同時に開設、平成31年3月には放課後等デイサービスを追加認可いただき、運営して3年が経過した多機能型事業所です。

「フロイデ工房なか」は、就労継続支援B型のサービスを提供しております。

開設当時から定員10名での安定した御利用をしていただいております。

継続支援B型事業につきましても、就労移行支援事業と同様、ご利用される方の就職の実現は大きな目標ですが、新型コロナウイルスの影響により就職活動は縮小、障害者雇用は非常に厳しい年度となりました。併せて私達事業所に対してはより多くの工賃の支払い、一般就労が困難な方へ、働く場所の大きな役割として求められております。このため作業種類、作業量の確保も大きな課題でありました。法人内部の環境整備のほか、企業からの委託を受け、菓子袋へのラベルシール貼りや、電動工具の部品の袋詰めなどの作業のほか、本年度は官公庁より樹木伐採・剪定・除草作業を新たに受注し、年間を通して安定した作業ができたこと、ほとんどの方が欠席することなく、結果として、平均工賃が月額2万円を超えることが出来ております。

コロナウイルスの影響により、若干の変更がありますが、過去同様に前年度の工賃の平均月額により段階的に加算が区分され、より多くの工賃を支払った事業所が収益を確保でき評価されているため、今後もより多くの工賃の支払いが可能となるよう「フロイデ工房しろさと」と連携し、効率的作業の実施、作業量の確保、利用率維持に努めるとともに、ご利用される方の就労スキルの向上と就職の実現を目標に取り組んで参ります。

ロッチェなか

小田部 清枝

児童発達支援・放課後等デイサービス事業所「ロッチェなか」は平成29年4月に新規事業所として児童発達支援事業所を開設し4年目の事業運営でした。昨年度は放課後等デイサービスを追設、引き続いて就労継続支援B型事業「フロイデ工房なか」と併設しての事業運営を行っております。

就学前・小学校・中学校・高等学校に通うお子様を対象に、自立支援と日常生活の充実のための支援を行う事業運営を行っております。社会福祉法人博友会・育成就労支援グループの運営として、未就学時期から就学期、さらに卒業後は就労支援事業まで一環した福祉サービスの提供ができる体制が整いました。

本年度におきましては、新型コロナウイルスの影響により、御利用者様の通う教育機関が長期休業を延長、臨時休園・休校となるなど、日々の状況が目まぐるしく変化する年度で、御利用者様の御家族の心労も大きかったと感じております。そのような状況の中で御家族から信頼いただき、少しでもお役に立てるサービスの提供が出来たことは大変有難いと感じております。年間計画、月案、週案、日案を立案し、季節、慣例行事の実施、イベントの開催、遠足、畑での野菜の栽培収穫、調理など、ご利用されるお子様が様々な体験ができるようプログラムを構成し活動を展開しております。

また、那珂市の障がい者（児）関係の機関と連携し、未就学児の療育訓練支援事業に当施設の作業療法士を派遣、療育訓練のサポートをさせていただいており、令和3年度においてはひたちなか市・常陸大宮市への派遣事業も計画されております。営業・広報活動も継続し、SNS等のソーシャルメディアの活用、施設の内覧会を毎月実施し、集客活動に努めております。今後もこれまでの営業活動を強化し、施設での活動をより多くの方に発信して安定した事業の運営に努めて参ります。

9. 各委員会活動報告（博仁会）

接遇向上委員会

令和2年度 活動報告

法人全体としてのSFG(志村フロイデグループ)のサービスに誇りを持ち、笑顔・感謝・工夫を心がけ、地域に信頼される法人を職員一丸となり目指し1年間各委員会で活動をして参りました。今年度は、職員同士の“ありがとう”をカードで伝えるサンクスカード委員会を立ち上げました。教育・環境・調査・広報・サンクスカード委員会が横の糸で連携し、また、ハードとソフトの両面が重要と毎月、他部門による毎月の環境パトロールと年2回の外部審査員として民生委員の方のご参加をお願いしてオンラインでの環境美化コンクールを継続しています。

調査委員会では外部の患者様やご利用者様、また職員自身の自己チェックも兼ねたアンケートも継続して実施しております。

広報委員会は、毎月の教育委員会が考えます標語やロールプレイングを広報し、また、接遇新聞には、各部署のマイスターの紹介や各部署でのロールプレイングの様子も掲載し、法人全体の取り組みを掲載しています。

良いサービスは良い接遇からとの合言葉で接遇委員会活動を行なっています。

活動実績

【教育分科会】

接遇委員会教育委員では、毎月の接遇標語の作成とロールプレイングの立案を行っております。法人全体での接遇向上のために前年度と同様に接遇向上大会を年3回実施し、

『良いサービスは善い接遇から』と全体での意思統一を図りました。

今年度はコロナウィルスの蔓延防止のためリモートを活用しての接遇研修を実施しました。

また、初めて（株）キャピタル〈旧：JALアカ

デミー〉の講師による接遇講義を開催しました。

1. 接遇向上大会開催

第39回 令和2年6月

※コロナワクチン蔓延防止のため、各部署にて身だしなみのチェックシートを用いて実施

第40回 令和2年10月23日（金）

会場：ZOOMでの開催※各部署にてリモートで参加
キャピタル（旧：JALアカデミー）講師による接遇講義

参加者：328名

第41回 令和3年2月26日（金）

会場：ZOOMでの開催※各部署にてリモートで参加
各部署にてロールプレイング作成・発表
参加者：334名

2. 接遇標語・ロールプレイング作成

令和2年4月(No212)～令和3年3月(No223)

【調査分科会】

調査委員では利用者様・ご家族様向けのアンケートによる調査と職員向けのアンケートを行い、接遇の状況を確認し、報告させて頂いています。

日々の接遇向上に向けての取り組みができているのかを確認しながら接遇向上に努めていきます。

R2. 7月 利用者様向アンケート実施

R2. 11月 職員向けアンケート実施

【サンクスカード分科会】

4月 サンクスカード委員会立上

5月～7月 サンクスカード制度検討

8月 サンクスカード制度開始

8月～3月 サンクスカード制度運用



接遇新聞

Welcome

第20号

2021年3月1日
発行：接遇向上委員会
編集：広報委員

全法人接遇向上 研修会開催

●令和3年2月26日（金）18：00～19：00

●研修形態：ZOOM

<カリキュラム内容>

- ロールプレイングの発表
- 職員向けアンケート結果講評



中途採用職員向け 接遇向上研修会開催

●令和3年2月26日（金）13：00～14：30

●会場：エルマウ

<カリキュラム内容>

- 身だしなみの基本理解と行動規範など



わたしの部署の 接遇練習風景

今月は、リハビリ事業部！

病院リハビリテーション科では終礼を感染症対策の為に少人数の班に分かれて行っています。一人一人が感染対策の意識をもって行動しています。

その日の申し送りの確認や経営理念、経営目標、品質方針、地域リハビリテーションの定義の復唱、接遇ロールプレイングの実践を班それぞれで共有するよう行っています。

【写真：接遇トレーニング中】



サンクスカード集計最終月

サンクスカード制度が始まり、もうすぐ半年となりました。11月末時点では44枚、12月末時点では10枚とだんだんと少なくなってきたという状況です。

まだまだサンクスカード制度が浸透していない部署もあるかと思いますが、改めてサイボウズ掲示板より詳細をご覧ください、一緒に働く多くの職員へ「ありがとう」の気持ちを伝えていきましょう！たくさんカードを受けとった人・送った人にはインセンティブも予定していますので積極的な運用をお願い致します。

第28回環境美化 コンクール結果発表！

【今年度のテーマ】
清潔で心地良い環境づくり

★最優秀賞 サポートセンター大宮

- ・プレゼンテーションが上手だった。
- ・アクアリウムシアターが癒しの空間になっていて良い。自分も行ってみたく感じた。
- ・手作り感が良いと思う
- ・水族館をイメージした取り組みが良かった。備品購入金も抑え、手作り感もあり、水槽が良い。癒しにもなるし、外出気分も味わえる。
- ・水槽づくりや掲示板づくりなど利用者の方にも参加してもらえるととっても良い
- ・利用者の気持ちに寄り添っていて素晴らしい。利用者さんと心の交流ができていた。
- ・テーマに沿った取り組みをしていた
- ・おさかなクイズの更新が楽しみ

★優秀賞 サポートセンター緒川

- ・五輪のマークや風車に、工夫が感じられた。
- ・施設のフェンスの外側の草を綺麗にできたら、さらに良い印象になると思う。
- ・花壇に五輪マークの花や、オリンピックアレンジが良かった。
- ・利用者との共同作業、非常に良いと思う。
- ・利用者に対する暖かい思いが伝わってきた。
- ・利用者さんのところを大切にしている様子が環境美化から伝わってきた。
- ・利用者との環境美化は利用者の活力の増大につながると思われ継続できれば良い
- ・彩が豊かなアイデアが良かった

※授賞式は3月全体朝礼時に行います。

<最優秀賞の取り組み（サポートセンター大宮）>



<優秀賞の取り組み（サポートセンター緒川）>



わたしの部署の接遇マイスター⑤

今回の接遇マイスターは、まさにマイスターと呼ぶにふさわしいSC友部の関昭子さんをご紹介します。常に丁寧な電話対応で、SC友部の方々の気持ちの良い電話対応の源は関さんの対応をお手本にしているのではと日々感じております。明るく気遣いの細やかな、太陽のような方で、お話しするといつも明るい気持ちにさせていただいています。



関 昭子さん
サポートセンター友部

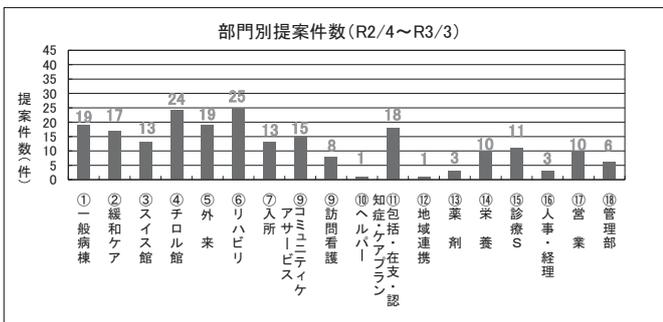
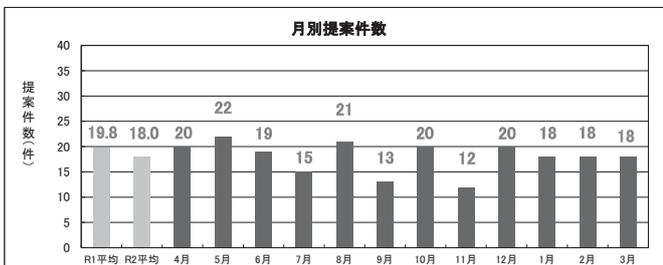
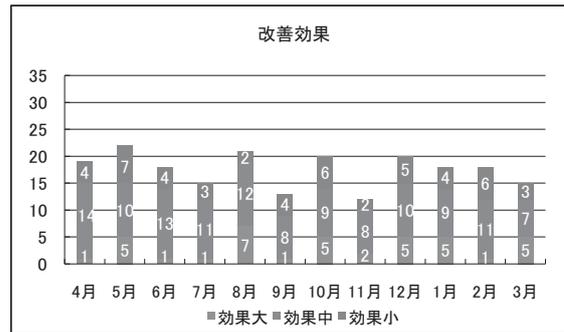
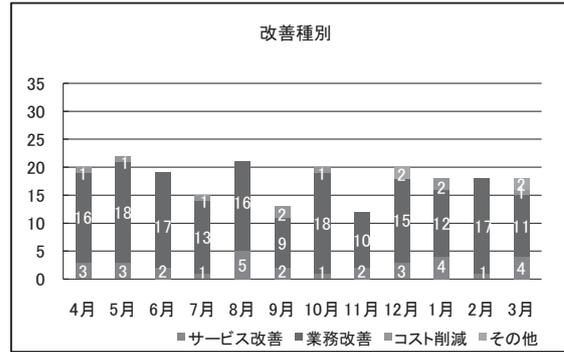
サービス改善委員会

令和2年度サービス改善委員会の活動

サービス改善提案件数の状況

令和2年度のサービス改善提案件数は、令和元年度の月別平均提案件数19.8件に比べ18件と月平均で約2件下回る結果となりました。各部門の提案状況もバラツキがあり、12件以上（月1件以上）の部門が9つに対し、6件以下（2か月に1件以下）の部門が5つありました。改善種別としては、提案件数の約8割弱は業務改善を占め、コスト削減に関する提案が少ない状況でした。改善効果については、効果大、効果中、効果小に分類し、効果中が5割強を占めました。

来年度の課題として、提案件数を増やしていくことです。年間を通して提案のない部門はなくなりましたが、どの部門からも毎月1件の改善の提案があり、コスト削減についても提出できるような風土を作ることが必要だと考えます。



医療介護安全推進委員会

1. 目的

医療法人博仁会における医療事故を防止するための必要な啓発を図るとともに、医療事故が発生した場合の適切な対策を協議する。

2. 活動内容

- ① 医療相談業務
- ② 医療介護安全管理推進会による研修会の企画と実施
- ③ インシデント・アクシデント報告書の集計・評価・分析
- ④ 事故発生時の状況把握、対応
- ⑤ 事故後の改善策の検討・実施・評価
- ⑥ 各部門における医療安全対策の実施状況の評価に基づき、医療安全確保のための改善結果・効果を記録する
- ⑦ 医療安全活動実績の記録
- ⑧ 医療安全地域連携（医療安全ラウンド）

3. 医療介護安全推進部会 開催状況

毎月1回 開催 2020年度 12回 開催
医療安全地域連携 ラウンド・カンファレンス
3月29日
医療安全ラウンド（5S活動）
6月25日
12月3日

4. インシデント・アクシデント報告状況

年間	: 1230 件	月平均	: 102.5 件
・レベル 0	27 件		
・レベル 1	154 件		
・レベル 2	807 件		
・レベル 3 a	225 件		
・レベル 3 b	9 件		
・レベル 4	8 件		
・レベル 5	0 件		
・レベル 6	0 件		

5. 医療介護安全推進大会実績

コロナ禍に伴い 部門ごとの勉強会を実施
オンラインによる医療安全研修案内情報提供
(個人希望参加)
新人・新入職員研修

2021年2月 実施 (19部署 410名参加)

【内容】:各部署で部門長(リスクマネージャー)中心にテーマを決定し実施

【勉強会実績】(病棟名:テーマ 順不同)

一般病棟:医療事故と医療安全

療養病棟:療養病棟の医療安全～インシデント報告の推進～

緩和ケア病棟:部署内インシデントから分析(SHELL分析:麻薬貼付剤をはがしてしまう患者)回復期リハビリ病棟:KYTについて学ぼう(基礎と演習)

外来:インシデント/アクシデント

リハビリ事業部:日常業務中に散見される場面における危険要因の探索

フリーゲル:KYT(フロア内の写真を用いて)薬剤科:持参薬を院内処方へ切り替える際の処方量間違い

老健入所科:危険予知トレーニング

地域医療連携センター:インシデント・アクシデント報告書及びレベル基準について

認知症疾患医療センター:医療現場におけるコミュニケーション～医療事故を防ぐコミュニケーションスキル～

水戸MP:部署内インシデントから分析と検討 SC大宮:令和2年度下期インシデント・アクシデント報告の対策と分析

さくらデイサービス:インシデント・アクシデント報告書に関して

大宮デイケアセンター:コロナウイルス感染対策 SC山方:リスクマネジメント・ヒューマンエラーについて

SCけやき台:インシデント・アクシデント報告書からの分析と対策について検討

地域包括センター(ヘルパー、訪看、訪リハ、ケアプラン):訪問時のコロナウイルス感染症予防について

SC水戸河和田:インシデント・アクシデント報告書からの分析と対策について検討

SC緒川:コロナウイルス感染対策

SCひたちなか:誤薬事故の防止対策

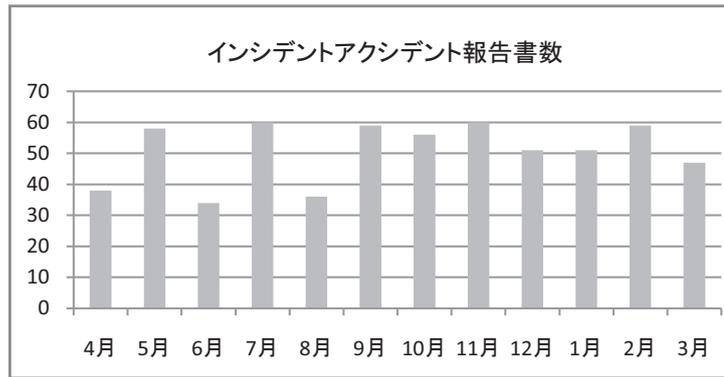
評価:コロナ禍にあり、各部署単位でテーマを決め勉強会を施行。医療安全の知識、事故防止への課題・対策、各部署の認識が深められた。

医療安全の取り組みは、医療にかかわるすべての人が対象であり、リスクは常に身近なところにあるという意識づけになり、勉強会や分析したことを今後の業務に取り入れていく。

2020年度 医療安全 全体の報告書

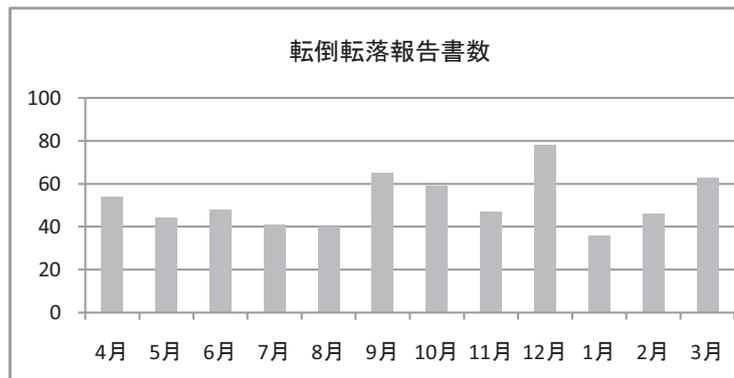
《インシデントアクシデント報告書数》

4月=38件	10月=56件
5月=58件	11月=60件
6月=34件	12月=51件
7月=60件	1月=51件
8月=36件	2月=59件
9月=59件	3月=47件
年間 609件	月平均 50.8件



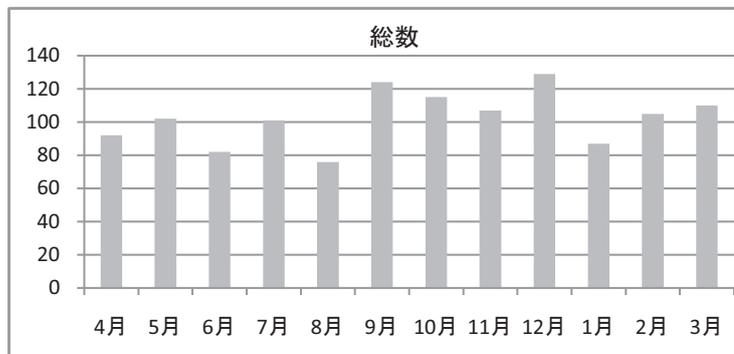
《転倒転落報告書数》

4月=54件	10月=59件
5月=44件	11月=47件
6月=48件	12月=78件
7月=41件	1月=36件
8月=40件	2月=46件
9月=65件	3月=63件
年間 621件	月平均 51.8件



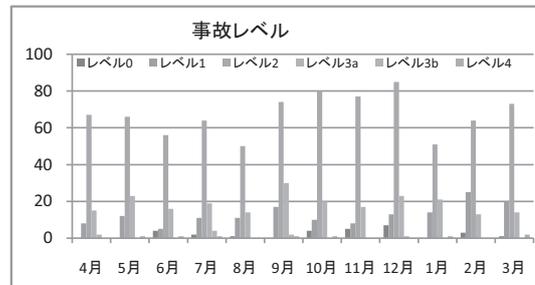
《総数》（インシデントアクシデント報告書数+転倒転落報告書数）

4月=92件	10月=115件
5月=102件	11月=107件
6月=82件	12月=129件
7月=101件	1月=87件
8月=76件	2月=105件
9月=124件	3月=110件
年間 1230件	月平均 102.5件



《事故レベル》

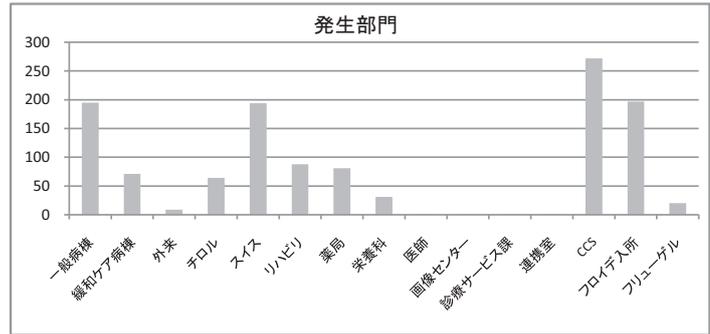
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
レベル0	0	0	4	2	1	0	4	5	7	1	0	1	27
レベル1	8	12	5	11	11	17	10	8	13	14	25	20	154
レベル2	67	66	56	64	50	74	80	77	85	51	64	73	807
レベル3a	15	23	16	19	14	30	20	17	23	21	13	14	225
レベル3b	2	0	0	4	0	2	0	0	1	0	0	0	9
レベル4	0	1	1	1	0	1	1	0	0	1	0	2	8
月別合計	92	102	82	101	76	124	115	107	129	87	105	110	1230



《発生部門》

一般病棟=195件
 緩和ケア病棟= 71件
 外来= 9件
 チロル= 64件
 スイス=194件
 リハビリ科= 88件
 薬局= 81件
 栄養科= 31件
 ※重複あり

老健入所=197件
 C C S =272件
 フリューゲル= 20件
 医師= 1件
 画像センター= 1件
 診療サービス課= 1件
 連携室= 1件



感染対策委員会

感染対策委員会の活動

1. 月1回の委員会の開催
2. 年2回以上の全職員を対象とする講習会の開催による職員の啓蒙
3. 毎月、院内の病原菌分離状況と感染状況の報告
4. アウトブレイク時の迅速な対応
5. 院内の感染症発症状況の情報公開
6. 職員の安全管理と職業感染対策
7. 感染対策に関する講習会・研究会への参加
8. ICTメンバーによる病棟ラウンド
9. 経済性にも配慮した感染防止のため、機器、物品、薬品等の変更
10. 新型コロナウイルス感染症の病院対策本部と合同ミーティング参加
11. 各施設感染ラウンド実施と報告

○令和2年度感染対策委員会目標

- ①標準予防策の徹底
- ②定期的なマニュアルの見直し
- ③計画的な感染対策の推進

令和2年度の活動内容

- | | | |
|----|--|----|
| 4月 | 標語「手洗い強化月間」
年間計画・目標の作成
22日 感染対策委員会開催
25日 SFG施設感染ラウンド | |
| 5月 | 標語「手洗い強化月間」
各部署にて手指衛生のチェックと評価実施
当院の新型コロナウイルス感染症対策
18日、22日 新型コロナウイルス感染対策本部会議
27日 感染対策委員会開催
30日 SFG施設感染ラウンド | 7月 |
| 6月 | 標語「手指消毒も流水による手洗いと同じ手順です。正しい手順で覚えま | 8月 |

しょう」

各部署にて手指衛生のチェックと評価実施

24日 感染対策委員会開催

30日 SFG施設感染ラウンド

標語「手袋の正しい外し方を覚えよう」

8日 まちなかサロン講演「マスクのつけ方、外し方、脱水予防」

10日～「個人防護具の着脱」勉強会用資料撮影

19日、26日 感染予防対策強化研修参加 茨城県看護協会

22日 感染対策委員会開催

31日 SFG施設感染ラウンド

水戸医療センター、水府病院、水戸志村病院、感染対策予防合同カンファレンス参加

標語「手袋の正しい外し方を覚えましょう」

12日 新型コロナ感染対策本部会議

26日 感染対策委員会開催

標語「エプロンの正しい脱ぎ方を覚えましょう」

「個人防護具の着脱」のDVD完成、全職員へ教育研修 YouTube配信

373名視聴

18日 水戸医療センター、水府病院、水戸志村病院と感染対策予防合同カンファレンス参加

23日 感染対策委員会開催

26日、29日 SFG施設感染ラウンド

標語「マスクのつけ方、外し方を覚えましょう」

インフルエンザ勉強会開催 14日、16日、21日、22日 537名視聴

1日からインフルエンザ予防接種開始

28日 感染対策委員会開催、SFG施設感染ラウンド

- 11月 標語「インフルエンザ対策強化月間」
「中心静脈注射用カテーテルに係る院内感染対策のための指針」作成
20日 水戸医療センター、水府病院、水戸志村病院と感染対策予防合同カンファレンス参加
24日 新型コロナ感染対策本部会議
25日 感染対策委員会開催
27日 SFG施設感染ラウンド
- 12月 標語「感染予防対策強化月間」
23日 感染対策委員会開催
- 1月 標語「感染予防対策強化月間」
19日、26日 新型コロナウイルス対策本部とICT合同ミーティング
27日 感染対策委員会開催
30日 SFG施設感染ラウンド
- 2月 標語「個人防護具の正しい着脱を確認しましょう」
医療従事者の新型コロナワクチン接種と個別接種の説明会参加
19日 水戸医療センター、水府病院、水戸志村病院と感染対策予防合同カンファレンス参加
24日 感染対策委員会開催
医療従事者の新型コロナワクチン接種の説明会参加
- 3月 標語「感染予防対策強化月間」
2日 新型コロナウイルス対策本部とICT合同ミーティング
18日 医療従事者の新型コロナワクチン接種開始
24日 感染対策委員会
30日 新型コロナウイルス対策本部とICT合同ミーティング
SFG施設感染ラウンド

褥瘡対策委員会

「委員会紹介」

疾患の治療や療養の過程で低栄養状態である方、脳血管疾患や廃用の進行により自力での体位変換ができない状態の方、終末期の高齢者や長期間寝たきりの方。これらの方の皮膚は脆弱な状態になりやすく、わずかな圧迫やずれ等の刺激でも容易に褥瘡を発生し、更には悪化することがあります。

当院の褥瘡対策委員会では、各病棟の事例をもとに効果的な褥瘡の発生予防や早期治療のため対策を検討し、勉強会により褥瘡対策ケアの質の向上を図る等、ご利用者様に安心して治療・療養をしていただくために活動しています。

「活動目的」

- (1) 事前の予防により、患者様、ご利用者様が日常生活においてよりよい生活をお送りできる。
- (2) 褥瘡の早期発見、早期対応に努め、患者様が本来の疾患の治療に専念できる。

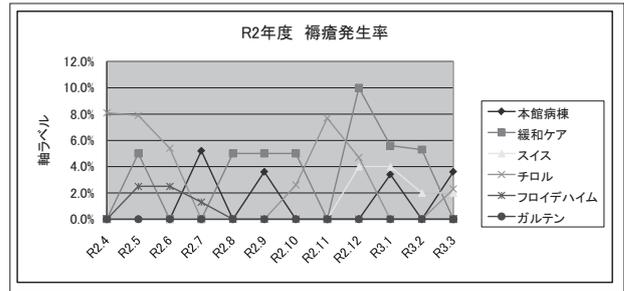
以上の2点においての対策を検討し、さまざまな視点から討議しています。

「委員会目標」

褥瘡予防に対する知識、又他職種共同によるケアの質を向上させ、褥瘡発生0件を目指す。

「年間活動」

- 4月 今年度褥瘡対策委員会の目標、症例報告（ドイツ・チロル・訪問看護）
- 5月 症例報告（ドイツ・チロル・フロイデ・訪問看護）
- 6月 症例報告（ドイツ・スイス・フロイデ）
- 7月 症例報告（ドイツ・チロル・スイス・フロイデ）
- 8月 症例報告（ドイツ・チロル・スイス）
- 9月 症例報告（ドイツ・チロル・訪問看護）
- 10月 症例報告（ドイツ・チロル）
- 11月 症例報告（ドイツ・チロル）
- 12月 症例報告（ドイツ・チロル）
- 1月 症例報告（ドイツ・チロル・スイス）
- 2月 症例報告（ドイツ・チロル・スイス）
- 3月 症例報告（ドイツ・チロル・スイス）今年度の反省、令和3年度の目標の検討



「内容」

褥瘡の基礎知識習得や写真による比較、DESIGN-Rによる評価を定着させるために、令和2年度も前年に引き続き毎月の症例検討と勉強会を行いました。

また、11月19日にZOOMにて開催された第9回褥瘡対策研究会ではスミス アンド ネフュー様による創傷ケアのために、多彩な製品ラインナップで創傷管理品の説明をしていただきました。創の状態に応じた薬剤・創傷材料の選択の仕方から、失禁などからの汚染予防や保湿によるスキンケア方法。褥瘡の予防、ケアは介護士から医師、看護師他、多職種での情報交換を行うことが必要となってきます。褥瘡に対しては各部署とも同じようなリスクを抱えています。毎月、委員会の際に報告される症例に対しては委員全員で効果的な対策を検討するという事で、今後に活かせるようにしてきました。褥瘡対策委員会では、医師、看護師はもちろん、栄養科、リハビリ科、薬剤師等による、それぞれの観点から意見交換を行い、患者様に向き合って褥瘡の改善に努めていきます。

「まとめ」

当委員会では、西村医師をはじめとした博仁会・博友会の各職種のスタッフが「褥瘡」という課題に取り組むことで、スキルアップに努めています。当院の褥瘡の発生数は減少していますが、低栄養状態の高齢者や終末期の方の入院、入所前からの重症な褥瘡症例の報告は増えています。様々な視点から褥瘡対策を考えることで治療に繋がっていくことも重要ですが、安楽な体位の検討等、QOLの維持向上を考慮していくことも今後の課題となります。私たちは、褥瘡状態のみでケアを検討するのではなく、患者様の全身状態とニーズから導き出したケアが提供できる病院を目指していきたいと思っております。

看護・介護部教育委員会

令和2年度 教育委員会目標

1. 感染対策の知識を充実させる
2. 認知症の知識を充実させる

【勉強会】

開催月	内容	担当
4月	スタンダードプロ リコ-ション	看護部・各科感 染委員
	看護倫理	看護部長
5月	リハビリ看護師 の役割	回復期リハビリ 病棟
6月	臨死期のケア	緩和ケア病棟
	防護具の使い方	感染対策委員 会・看護部
7月	排尿自立	CST・看護部
8月	医療ガス安全管 理研修	医療安全
	救急対応	
9月	認知症について	DST
10月	感染症について	感染対策委員 会・看護部
	褥瘡の取り組み	療養病棟
11月	褥瘡対策	褥瘡委員会・看 護部
2月	緩和ケア	緩和ケア病棟

次年度に向けて

第一に感染予防対策を充実させ、同時に看護師のクリニカルラダーを作成し専門性を活かした援助を提供できる看護師育成に力をいれたい。

感染対策について

感染委員会と協力し、ガウンテクニック等のDVDを作成し、博仁会・博友会のすべての部署に回覧できた。院内感染を回避する事ができたが、新型コロナウイルス感染の終息は見えず、新たな変異株もあるため知識を充実させ感染予防対策に努めなければならない。

認知症の知識について

認知症疾患センターやDSTと連携を図り勉強会を実施できた。認知症認定看護師による指導により、日常生活に重点をおいた援助に近づいてきた。

各委員会活動報告（博友会）

サービス向上委員会

医療法人博仁会・接遇向上委員会、社会福祉法人博友会・サービス向上委員会が一体化してSFG全体での委員会となり5年目の活動でした。

全法人接遇向上大会、環境美化コンクール、接遇発表大会、顧客満足度調査、職員向け接遇アンケートを行っております。

顧客満足度調査

対象・社会福祉法人 博友会 全事業所御利用者様
対象者：令和2年4月1日～6月30日の間に
利用実績のある御利用者様

実施時期：令和2年7月

【評価・改善】

サービス改善への貴重なご意見をより多く得るためにも、回答率の低い部門に関しては、アンケートの配布・回収方法など検討し、継続して実施していく必要があると考えます。

いただいた御意見について、真摯に受け止め、部門間での情報の共有と職員への水平展開を実施し、改善に努めてまいります。

職員接遇アンケート

対象：社会福祉法人 博友会 職員全員
実施期間：令和2年12月

- ①あいさつ・笑顔 ②みだしなみ
③動作 ④言葉遣い ⑤電話対応
について自己判定の調査を実施

【評価・改善】

各部門において結果の周知と改善を実施しております。

環境美化コンクール

第27回

実施日：令和2年10月24日(土)

テーマ：「清潔で心地良い環境づくり」

対象部署：御前山デイサービス ガルテン事務在
宅栄養 ガルテン施設 大宮フロイデ
ドルフ グループホーム桂SC友部

第28回

実施日：令和3年2月6日(土)

テーマ：「清潔で心地良い環境づくり」

対象部署：サポートセンター美和 アシストハウ
ス大宮

【評価・改善】

新型コロナウイルス感染予防の為、両会共、ZOOMを使用してのオンライン審査となりました。

それぞれのテーマに向け、各部署工夫を凝らし、各事業所それぞれ思い思いの環境美化を実施することができました。このコンクールを機会に年間を通じてテーマを感じ取れるような環境作りの工夫、事業所内の清掃・整理・整頓を心掛けてもらいたいと考えております。

感染予防委員会

感染予防委員会は1) 施設内の感染予防に努める。2) 各部署に、常に必要な情報を提供し感染症発生時に的確な対応が出来るようにする。3) 日常生活の上で感染症が発生しない環境を整え、職員の理解を深める。という目標を掲げ、利用者を守るため施設に感染症を持ち込まない事を基本に、全職員で感染予防に努めております。

〈具体的活動内容〉

- (1) 職員に対する感染症の予防指導（年に2回感染症についての勉強会実施）
- (2) 施設内で発生しやすい感染症の予防策や注意点を各部署に対して日常的に指導する。
- (3) 医療法人博仁会の院内感染対策委員会と情報を共有し、施設に必要な情報を分かりやすく各部署に伝達し、感染予防に役立つ。
- (4) メディアによる全国的な情報や地域、他施設で発生した感染症などの情報提供を速やかに朝礼で行なう。
- (5) インフルエンザに対する予防接種の完全実施。

〈年間活動内容〉

- | | |
|---------|---|
| 4月 | 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、感染対策の徹底・面会制限の実施 |
| 5月～6月 | 手洗い方法について新入職員指導実施・手洗い強化月間・ポスター配布で勉強会実施後手洗いチェック表を用いチェックした。
・手洗いチェック表を用い手技チェック実施者 218名参加 |
| 6月 | 各部署へ食中毒についての資料配布 |
| 7月 | 手洗いチェック結果集計した |
| 10月 | 感染症・新型コロナウイルス感染症の勉強会実施
・感染症対策の実践 225名参加 |
| 11月～12月 | インフルエンザ予防接種実施（利用 |

者・職員)

- | | |
|-----|---|
| 1月～ | 新型コロナウイルス感染拡大による面会制限の強化
(リモート面会・窓越し面会実施) |
|-----|---|

【全体の活動評価】

私たちのサービスの対象者のほとんどが高齢者であることから集団感染に対する予防策を講じることは重要な課題です。職員自身が媒体者にならないように、マスク着用・手洗い・手指消毒や環境整備、更にインフルエンザ予防接種の推進など、令和2年度も感染予防に対する職員教育に力を入れてきました。インフルエンザに関しましては全国的な流行はほとんどなく、利用者・職員に関しても感染はありませんでした。

また今年度は新型コロナウイルスが感染拡大しており、事業所内感染はありませんでしたが、更に活動を強化し職員一人一人が感染予防を意識した対応ができるよう啓蒙活動を推進していきたいと思っております。

教育委員会

開催月	研修内容	参加人数
4月	リスクマネジメント研修 身体拘束適正化に関する研修	全職員対象
5月	介護職員の不適切ケア研修	全職員対象
6月	食中毒について	全職員対象
7月	出来る介護職員の約束事について	全職員対象
8月	感染対策の基本（ゾーニングについて）	全職員対象
9月	新型コロナウイルス発生時の介護対応	全職員対象
10月	感染症対策の実践	全職員対象
11月	介護職員の実践	介護職員対象
12月	車両安全について	全職員対象
1月	ISOについて	全職員対象
2月	身体拘束適正化について	全職員対象
3月		全職員対象
合計		

年度考察

令和2年の教育委員会の活動としては新型コロナウイルスという世情の環境全体に影響を及ぼす事態が発生する中で法人教育の在り方を考える機会となりました。昨年度から本部の集合研修参加の限界を感じる中でオンライン研修及び各事業所研修の強化の必要性和、昨年度から準備していた教育教材の活用を促進することが出来ました。

また当年度は、前述の通り新型コロナウイルスの影響により上期の研修会の半数が感染対策の研修となりました。例年であれば、単月の実施の為に時期を追うごとに意識が薄れることが効果としてありますが、当年度は感染対策への意識の維持が見受けられます。

今回のように、必要な研修に関しては継続的に複数月にまたがる研修計画も効果があると実感できます。

地域広報委員会

令和2年度の活動報告

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、各地域の地域行事が軒並み中止となってしまいました。しかし、各事業所が工夫したうえで専門職の派遣や、地域住民へのリハビリ体操のDVD配布等出来る事を実施して参りました。また、今年度御前山地区では、新たに「謎解き&ストレス発散イベント」を開催致しました。コロナ禍でのイベント開催でしたが、行政の方や様々な機関との連携に無事開催に至り、参加者からも「楽しかった」「またやりたい」等の声を頂くことができました。

今後も、新型コロナウイルスの流行はしばらく続くと思いますが、今年度実施してきたことを糧にし、また地域ニーズの収集を行う事で各事業所が地域包括ケア拠点として、地域住民の生活を支えられる事業所を目指し、取り組んで参ります。

令和2年度 活動内容（一部抜粋）

	内容	内容
御前山 フロイデガルテン	謎解き&ストレス発散イベント ひまわり弁当協力	長倉七夕まつり 総会及び草刈り参加
大宮 フロイデドルフ	大宮フロイデドルフ秋 祭り 中止	家族会開催
グループホーム 桂	しろさと町民まつり 中止	家族会開催
フロイデ総合在宅 サポートセンター 美和	北斗星への作品展示	運営推進会議開催
フロイデ総合在宅 サポートセンター 城里	しろさと町民まつり 中止	オレンジカフェ開催 健康教室開催
フロイデ総合在宅 サポートセンター 友部	シルバーリハビリ体操 教室開催	オレンジカフェ開催 元気すこやか教室開催
フロイデアシスト ハウス大宮	敬老会開催	常陸大宮市 市民運動会 中止

食事管理委員会

活動計画

毎回	喫食状況の把握
4月	年間計画の作成
5月	デイリクエスト献立調査・集計
6月	デイリクエスト献立実施
7月	入所部門嗜好調査の検討・アンケート作成
8月	入所部門嗜好調査の実施・集計・分析
9月	入所部門嗜好調査結果公示・配布
10月	おやつアンケート実施
11月	入所リクエスト献立調査・集計
12月	入所リクエスト献立の実施
1月	在宅部門嗜好調査の検討・アンケート作成
2月	在宅部門嗜好調査の実施・集計・分析
3月	在宅部門嗜好調査結果公示・配布

【入所部門嗜好調査】

*実施日 令和2年8月19日～8月25日

*配布121枚 回収114枚 回収率94.2%

*対象 御前山フロイデガルテン入所者・大宮フロイデドルフ入所者桂GH・サポートセンター美和GH

*考察 各事業所によって、ご利用者様の食事内容、嚥下機能が異なるため、それぞれの施設にあった食事を提供していかなければならない。嗜好調査を実施することで、その施設での問題点は何かを把握することができ、改善につなげることができた。

【在宅部門嗜好調査】

*実施日 2021年2月11日～2月25日

*配布 451枚 回収348枚 回収率77.2%

*対象 御前山ガルテンデイサービス・サポートセンター美和デイサービス・サポートセンター城里デイサービス・サポートセンター友部・御前山配食サービスセンター・城里配食サービスセンター・小規模多機能城里・アシストハウス友部・看護小規模多機能友部

*考察 味、見た目などそれぞれの部分で不満もあるが、全体的には満足してくれている結果になった。個人個人嗜好が異なるため、全員が満足できる食事にすることは難しいのかもしれないが個別対応により、より多くのご利用者様に満足してもらえる食事を提供していきけるよう努めていく。

【全体の評価】

食事の献立は、どこの施設でも統一となっているが、対象者はそれぞれの施設で異なっている。

自分の施設の結果だけではなく、ほかの施設の意見も参考にしながら、それぞれの施設と連携をとり、栄養SG全体でよりよい食事を提供していきけるよう協力し合い食事を提供していく。

業務改善委員会

令和2年度の活動報告

令和2年度の業務改善提案件数は228件と昨年度比107.0%増加する結果となったが、職員数に対して提案件数が少ない部門があるため、対象部門の委員と連携し提案促進を促し提案件数の増加を目指して参ります。又、次年度も引き続き「業

務効率化」に繋がる業務改善提案の提出促進を行い、職員の業務負担軽減につながるよう各部門の委員と連携して取り組んで参ります。

	令和2年度	令和元年度	前年比
御前山フロイデガルテン	26件	29件	90%
栄養SG	34件	7件	486%
通所係	12件	38件	32%
訪問介護係	1件	16件	6%
介護支援G	16件	18件	89%
訪問入浴係	2件	1件	200%
GH桂	14件	4件	350%
SC美和	2件	49件	4%
事務SG	30件	1件	3,000%
SC城里	16件	11件	145%
就労支援	5件	6件	83%
大宮フロイデドルフ	32件	11件	291%
SC友部	35件	13件	269%
アシストハウス大宮	1件	3件	33%
健康管理G	2件	6件	33%
合計	228件	213件	107%

リスクマネジメント委員会

1. ヒヤリハット件数報告

レベル	合計	前年合計	差異
レベル 0	18	11	7
レベル 1	232	185	47
レベル 2	139	131	8
	389	327	62

ヒヤリ・事故総数 409件

(前年総数 350件)

2. 事故報告書件数報告

レベル	合計	前年合計	差異
レベル 3 a	13	15	2
レベル 3 b	4	5	-1
レベル 4	3	2	1
レベル 5	0	0	0
レベル 6	0	1	-1
	20	23	-3

3. 総評

全体でのヒヤリハット報告件数は389件、事故報告は20件の報告。令和2年度は予防活動を意識して委員会活動をすすめた結果、重大な事故を未然に防ぐ気づきとしてヒヤリハット報告提出件数が昨年度比で60件増えている。ヒヤリハット報告書の段階で大きな事故へ繋がる可能性の芽を摘み取り、昨年度より事故報告書提出件数が減少していることはリスクマネジメントに関する意識が向上していると考えられる。

年間を通してレベル5及びレベル6事故が0件。次年度も報告ゼロを絶対目標として、法人全体で関連する情報やリスクマネジメント研修内容の共有・対策の共有をすすめる。

リスクマネジメントの考え方がさらに強化されるように、類似の内容・同一のご利用者様に関するヒヤリハット報告書の分析と共有を行い、重大な事故へと繋がる機会を減らしていきたい。ヒヤリハット報告書の段階から必要に応じてアセスメントを行い、ケア環境やケア提供方法を適切なものにしていく。2021介護報酬改定では、介護保険施設における事故発生の防止と発生時の適切な対応（リスクマネジメント）推進が適正化・重点化されることへの活動にも力を入れていきたい。

防災管理委員会

1. 委員会活動

6月	令和2年度委員会活動について (委員長・副委員長選任)	12月	職員緊急連絡通報訓練
8月	地震想定における避難訓練	3月	夜間想定避難訓練の実施
8月	発電機使用説明	3月	発電機使用説明

2. 消防訓練等

施設	上期	下期
御前山フロイデガルテン	令和2年8月26日	令和3年3月24日
	火災避難訓練・消防用設備説明	火災避難 訓練消防用設備説明
グループホーム 桂	令和2年10月31日	令和3年3月30日
サポートセンター 美和	土砂災害 令和2年5月15日	令和3年11月23日
	地震想定 令和2年6月25日	令和3年3月30日
サポートセンター 城里	令和2年7月20日	令和3年3月26日
サポートセンター 友部 アシストハウス 友部	令和2年7月3日	令和3年2月13日
大宮フロイデドルフ	令和2年7月22日	令和3年3月9日
アシストハウス大宮	令和2年9月29日	令和3年3月1日

3. 教育活動

実施日	内容
令和2 上期	各拠点で避難訓練時、防災設備に関する説明実施
令和3 下期	各拠点で避難訓練時、防災設備に関する説明実施

4. 防火管理者の養成

実施日	令和2年度
実施	取得者なし

5. その他

実施日	内容	実施日	内容
令和2年6月	日常自主点検チェック	令和2年12月	備蓄に関する確認、 入れ替え実施
令和2年6月	ポスター掲示	令和2年12月	ポスター掲示
令和2年8月	発電機自主点検	令和2年12月	日常自主点検チェック
令和2年9月	日常自主点検チェック	令和3年2月	ポスター掲示
令和2年10月	ポスター掲示	令和3年3月	発電機自主点検

コロナウイルス感染拡大防止の観点から、各事業感染対策を強化し訓練を実施してまいりました。地域との方の参加は今年度に関しては控えて頂きました。また各集団での会議等難しい状況もあり、来年度に関してはオンラインを使用した会議を検討し、委員会活動が活発になるように取り組んでまいります。

車両安全管理委員会

【交通安全啓蒙活動】

① ポスター制作

対象：博友会全部門

期間：令和2年4月～令和3年3月

内容：毎月、交通安全の標語を掲げた交通安全啓蒙ポスターを作成。各部門へメールで配布し、目のつきやすい場所に掲示してもらうことで職員に交通安全やマナーに対する意識の向上を訴えました。

評価：ポスターを掲示することで、日々行っている運転業務における「安全」ということの重要性が職員全体に認識されているものと思われます。今後も啓蒙活動を継続し、交通事故0を目指してまいります。

② 事故分析

期間：令和2年4月～令和3年3月(月1回の委員会開催時に検証)

内容：令和2年度の事故報告総数は10件(前年比-8件)自損事故9件、物損事故1件、人身事故は御座いませんでした。

評価：検証の結果、利用者様自宅での事故が60%と最も多く事業所での送迎注意点などが共有出来ていない事例が御座いました。その他事故に関しては危険予測の不備が目立ち、令和3年度には職員向けの運転適性診断の勉強会を開催し、より一層の交通事故防止の啓発活動に注力します。また大事故を起こす原因にもなる、疲れ・眠気を感じたら安全な場所で休息を取るよう通達もしております。

③ 事業所別事故報告数

事業所名	保有台数	事故報告件数	事故率
御前山通所・在宅SG(配食)	20台	5件	0.25件/1台
フロイデグループホーム桂	1台	0件	0
大宮フロイデドルフ	2台	0件	0
就労支援(ロッティ那珂谷)	10台	1件	0.1件/1台
サポートセンター城里	9台	2件	0.22件/1台
サポートセンター美和	8台	0件	0
サポートセンター友部	12台	0件	0
ごぜんやま訪問看護	4台	1件	0.25件/1台
介護支援グループ	3台	1件	0.33件/1台

第 二 部

1 学術活動

(1) 理事長執筆取材講演実績

○ 執筆・インタビュー

1 論評 オーストリアにおける地域共通電子カルテ（ELGA）について

社会保険旬報 2020年4月11日 NO.2780 頁6～13

2 【識者の眼】スペシャル

地域医療・医療体制 #高齢化最先進国 かかりつけ医①「かかりつけ医機能とは」
週刊日本医事新報 2020/04/18 NO. 5008 頁67

3 緊急企画 新型コロナとたたかう

ポストコロナ時代を見据えた地域医療のあり方も検討すべき
医療法人協会ニュース 令和2年5月1日号 NO.431 頁8～9

4 【識者の眼】スペシャル

地域医療・医療体制 #高齢化最先進国 かかりつけい②「かかりつけ医機能とは」
週刊日本医事新報 2020/05/09 NO. 5011 頁29

5 【識者の眼】スペシャル

地域医療・医療体制 #高齢化最先進国 かかりつけい③「診療報酬・介護報酬上のかかりつけ医
の評価(1)2014年度診療報酬改定」
週刊日本医事新報 2020/05/30 NO. 5014 頁69

6 新型コロナウイルスに対する「ドクターズ OPINION」

新型コロナ感染症を乗り切る医療体制について
集中 2020JUN 2020年5月31日発行 第13巻6号通巻147号 頁25

7 【識者の眼】スペシャル

地域医療・医療体制 #高齢化最先進国 かかりつけい④「診療報酬・介護報酬上のかかりつけ医
の評価(2)16・18年度改定」
週刊日本医事新報 2020/06/20 NO. 5017 頁64

8 【識者の眼】スペシャル

地域医療・医療体制 #高齢化最先進国 かかりつけい⑤「診療報酬・介護報酬上のかかりつけ医
の評価(3)18年度改定」
週刊日本医事新報 2020/07/04 NO. 5019 頁66

9 社会医療ニュース

岡田玲一郎先生の思い出
社会医療研究所 2020.07.15 VOL46 NO.540 頁8

10 【識者の眼】スペシャル

地域医療・医療体制 #高齢化最先進国 かかりつけい⑥「診療報酬・介護報酬上のかかりつけ医の評価(4)18年同時改定」

週刊日本医事新報 2020/08/01 NO. 5023 頁64

11 【識者の眼】スペシャル

地域医療・医療体制 #高齢化最先進国 地域包括ケアシステム①「かかりつけ医と地域包括ケア(1)」

週刊日本医事新報 2020/09/05 NO. 5028 頁62

12 Art in Hospital 患者と医療従事者に優しい病院環境をつくる

「地域共生多機能拠点」という新しい試み ②05 フロイデ水戸メディカルプラザ

集中 2020OCT 2020年9月30日発行 第13巻10号通巻151号 頁2～3

13 特集2 病院から見た老健の運営

地域包括ケアシステムにおける老健の役割

日本慢性期医療協会誌 vol.28 2020.10 JMC131号 隔月号 頁52～56

14 【識者の眼】スペシャル

地域医療・医療体制 #高齢化最先進国 地域包括ケアシステム②「かかりつけ医と地域包括ケア(2)」

週刊日本医事新報 2020/10/24 NO. 5035 頁51

15 【識者の眼】スペシャル

地域医療・医療体制 #高齢化最先進国 地域包括ケアシステム③「かかりつけ医と地域包括ケア(3)」

週刊日本医事新報 2020/11/14 NO. 5038 頁58

16 学校医と両親の思い出

茨城県学校保健会 第64巻 令和2年12月1日発行 頁1

17 特集 第35回全国医療法人経営セミナー

シンポジウム 令和時代の医療法人の立ち位置を考える②世界の医療体制から見た医療法人制度
各国の実情を知り日本の医療法人制度のあり方を考える

医療法人協会ニュース 令和2年12月1日号 NO.438 頁9～10

18 【識者の眼】スペシャル

地域医療・医療体制 #高齢化最先進国 地域包括ケアシステム④「かかりつけ医と地域包括ケア(4)」

週刊日本医事新報 2020/12/19 NO. 5043 頁56～57

19 新年のあいさつ

持分あり医療法人の対応も引き続き検討を

医療法人協会ニュース 令和3年1月1日号 NO.439 頁12

20 Part3 まちづくりへの深化

中小民間病院と地域は“運命共同体”医療・介護を軸に生活基盤を支える役割も担う

MMPG医療情報レポート 2021.1 Vol. 129 頁10～11

21 【識者の眼】スペシャル

地域医療・医療体制 #高齢化最先進国 地域包括ケアシステム⑤「かかりつけ医と地域包括ケア(5)」

週刊日本医事新報 2021/1/16 NO. 5047 頁60～61

22 茨城県医師連盟だより

巻頭言 県医師連盟委員長に就任して

茨城県医師連盟だより 令和3年1月31日 NO.37 頁1

23 特集 Withコロナ時代の病院経営

Withコロナ時代の地域包括ケアとは

病院 創刊80巻 2021年3月1日発行 頁242～247

24 特別寄稿 石岡市医師会会員の皆様へ

石岡市医師会報 第147号 2021年3月1日 頁3

25 Promotion地域医療 再編の現場から

「まちづくり」通してゼロ次予防と地域活性化を両立

Monthly ミクス 令和3年1月 第49巻3号 頁42～44

○ 講演

1 予防と医療の連携フォーラム 第9回軽井沢フォーラム

「志村フロイデグループの病院を中心としたまちづくりの取り組み」

これからの地域ヘルスケアを考える医療政策研究フォーラム

令和2年7月16日

2 withコロナ時代のヘルスサポート

「withコロナ時代の医療の在り方」

アジア太平洋ヘルスサポート学会 第15回学術集会 令和2年9月11日

3 2020年度 HOSPEX Japan 2020

「コロナ禍における医師会および医療機関の取り組みについて」

全日本病院協会・日本医療法人協会共済セミナー 令和2年11月13日

4 2020年度地域包括診療加算・地域包括診療料に係るかかりつけ医研修会

「介護保険」

公益社団法人日本医師会

令和2年10月11日

5 第35回全国医療法人経営セミナー

「医療法人の立ち位置を考える・世界の医療体制から見た医療法人制度」

日本医療法人協会栃木県支部

令和2年11月21日

6 持続可能で豊かな地域を支える医療 - 医療政策と連動する新しい医療・病院管理手法の試み-

「医療法人とまちづくり」

公益社団法人医療・病院管理研究協会

令和3年1月21日

○ 常勤医師執筆講演実績

大仲 功一

<学会発表・研究活動・講演会講師>

学会発表

学会名： 第57回日本リハビリテーション医学会学術集会

テーマ： 地域JRATの正式な組織化に要した4年間の経過

日付： 2020年8月19日

会場： 国立京都国際会館

学会名： 第57回日本リハビリテーション医学会学術集会

テーマ： 専門医委員会企画（シンポジウム）

まちづくりを通して全世代・全対象型地域包括ケアの実現を目指す（地方都市の中小病院）

日付： 2020年8月20日

会場： 国立京都国際会館

講演

講演会名： 令和2年度茨城県高次脳機能障害者支援基礎講座

テーマ： 高次脳機能障害とはどのような障害か

日付： 2021年1月

会場： オンデマンド配信

講演会名： 茨城障害者職業センター職員研修 兼 職場適応援助者養成研修修了者サポート研修

テーマ： 高次脳機能とは そして高次脳機能障害とは

日付： 2020年12月16日

会場： 茨城障害者職業支援センター

(2) 学会発表

博仁会

1、運転再評価をうけた脳損傷者の運転状況と運転調整行動について

リハビリテーション事業部 小野瀬剛広 令和2年9月25日～10月25日（Web開催）

2、当法人の通所介護施設と通所リハビリ施設におけるリハビリ効果の比較

リハビリテーション事業部 佐藤勝志 令和2年12月2日～3日（オンライン開催）

3、入浴時の呼吸苦に対して在宅での呼吸リハと生活様式の工夫を行った症例

リハビリテーション事業部 横田直也 令和2年12月2日～3日（オンライン開催）

4、リハビリテーション専門職の人員配置増員による取り組みと効果

リハビリテーション事業部 今川光 令和2年12月2日～3日（オンライン開催）

5、脳卒中片麻痺一症例に対する機能的電気刺激療法を用いた治療効果

リハビリテーション事業部 伊藤彰良 令和3年2月4日～5日（Web開催）

2 各種行事

第20回全法人目標・成果発表大会

令和2年4月30日

令和2年度の目標と実績

<博仁会>

【入院】

1. 急性期一般入院基本料4の算定維持、新たな評価体系への対応
 - 平均在院日数の短縮、特に入院患者の62%を占める主要疾患（肺炎・廃用・脳疾患・尿路感染）についてDPC入院期間Ⅱでの退院の徹底による機能評価係数Ⅱの向上
 - 一般病棟重症度、医療・看護必要度22%以上の達成必要度Ⅱによる評価開始
2. 地域包括ケア入院医療管理料1の算定と地域包括ケアシステムへの取組（病床数の適正配置8床から12床）
 - 自宅等からの入院患者の受入れ（サブアキュート強化）、地域包括ケアに関する実績評価対応。外来と入院の連携、クリニック、介護施設、在宅、ケアマネとの連携（基本在宅、時々入院）
 - 在宅復帰率70%維持
3. 回復期リハビリテーション病棟入院料1の算定とアウトカム評価
 - 回復期リハビリテーション病棟におけるアウトカム評価への対応リハビリテーション実績指数（FIM得点の改善度）40以上
 - 重症患者の受入れと在宅復帰の促進
4. 療養病棟入院料1の算定維持
 - 医療区分2、3の患者受入れ促進 80%以上
5. 緩和ケア病棟入院料1の算定維持
 - 緩和ケア病棟利用率の向上にむけて連携・PRの強化・早期面談

【外来】

1. かかりつけ医機能強化
2. 専門外来のPR・市民健康教室の毎月開催
3. 訪問診療件数増加
4. オンライン診療の導入
5. 検査・健診センターの利用者増

【老健】

1. 強化型老健の役割を担える在宅復帰支援、超強化型老健算定の維持

【特養・GH】

1. 個別ケアの提供とQOLの質の向上
2. 終末期ケアの提供体制の構築
3. ベトナムからのインターンシップ・外国人技能実習生の受入

【在宅】

1. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスの推進 10人
2. 機能強化型訪問看護管理療養費Ⅱ算定のため看取りケアの推進
3. ICT活用による業務の効率化、訪問件数の増加
4. 障害者福祉サービスの拡大に向け、障害者相談支援員の育成
5. 訪問看護と連携した終末期対応、大宮地区の利用者拡大

【CCS部】

1. ケアタウン（大宮・水戸・ひたちなか・友部）ごとの地域包括ケアシステムの推進
2. 新規事業早期立ち上げと新たな挑戦
3. 業務の効率化と人材育成

<博友会>

- 社会福祉法人として地域での役割を認識し多世代型プラットフォームの役割を果たす。
- 事業継続できる法人運営のための収益確保と事業継続計画策定
- 自立支援・重度化防止、認知症ケアの充実、終末期ケアへの対応
- 一人ひとりの生産性向上を図り、両立支援と働き方改革を推進する。
- 職員一人ひとりが自身の未来図を描くことができるよう応援する。

<志村学園>

1. 受験生の確保（目標：看護学科100名、介護福祉学科40名）
 - オープンキャンパスの開催方法の改善
 - 受験者増加のための広報強化
 - 国試合格率100%
 - 地域との連携(北富田地区授業への参加継続)
 - 学生ボランティア活動

茨城県央・県北脳卒中地域連携パス研究会

令和2年度は、前年度中に課題として表面化した「脳卒中地域連携パスの運用方法に関する理解度の担保」および「脳卒中地域連携パスの評価と継続的な見直しを行うための仕組み作り」を活動の中心とする予定でした。しかし、新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）の拡大が進み、定例会を開催すること自体が困難な状況となり、定例会の開催を実現することが活動の中心となった1年でした。

本研究会の定例会は、毎年7月、11月、3月頃に年間計3回実施するのが通例となっています。しかし、令和2年度は入会各施設がCOVID-19への対応に追われ、7月および11月の定例会は非実施となりました。12月に事務局会議の開催に至り、ここで定例会の開催に向けた話し合いを行いました。

事務局会議においては、定例会の開催方法や内容について入会各施設へ意見を求め、その意見を踏まえた上で対応を決定することで合意しました。入会各施設からは、「コロナ禍により生じている様々な問題に対して、各施設がどのように対応しているのか」ということを共有するために、web上で定例会を開催したい、との意見が多く寄せられました。

このような経緯で、「web上での開催」という初の形で定例会を再開することができました。定例会の運営を中心的に担っている当院のメンバーにとっては、開催のためにこれまでとは異なる知識や技術が必要となり、苦労もありました。しかし、参加した多くの施設から「有意義だった」との感想をいただくことができ、web上という新たな形でのスタートとしては成功であったと感じています。コロナ禍を踏まえての最低限の活動基盤が整ったため、前年度中に表面化した課題への対応を含めて、次年度の活動に活かしていきます。

謎解き&ストレス発散イベント



例年行われていた、「ごぜんやままつり」が新型コロナウイルスの蔓延に伴い中止となってしまいました。そこで、御前山ダム公園にて、「謎解き&ストレス発散イベント」を開催致しました。新型コロナウイルス感染防止対策の為、入り口での検温や「いばらきアマビエちゃん」の登録、ソーシャルディスタンスを取りながら出野開催となりました。

謎解きでは、約10問からなる小問を解き、鬼を探していくゲームを実施。参加者は頭を捻りながらも、全員が無事ゴール出来ておりました。ストレス発散では、「的当て」「サンタへの願い」「お菓子のつかみ取り」「一蹴入魂」の計4種のゲームを展開しました。特に、「一蹴入魂」では、空気の入ったパンチングマシンを蹴り、ストレス発散を楽しんでおりました。

参加者からは、「初めての謎解きだったが、楽しかった。」「コロナでどこにも出れない状況だったから久々に楽しめた。」等の話が挙がり、「また来年もやってほしい」等のお声を頂くことができました。最後には、地域に関するアンケートも実施させて頂き、地域包括ケア、地域共生社会に向けて、地域課題を発掘する為地域住民のお声を聞かせて頂きました。

今回、「謎解き&ストレス発散イベント」を開催する事で、普段では交流出来ない様々な地域住民の方々と交流する事が出来ました。今後も、様々

な地域活動に参画し、私たちが実践する当法人の役割と活動をご理解・ご協力していただける貴重な機会と捉え、さらなる交流活動に努めてまいります。

すみれ会

本会は、平成12年に生活習慣病の治療及び予防に関する知識の普及に努め、健康増進と会員相互の親睦を図ることを目的に発足しました。現在会員数は15名、看護師、管理栄養士、健康運動指導士と共に活動しています。毎年、歩く会、ヘルシークッキングを各2回、会員の皆様が内容を計画しています。

歩く会

毎年5月、11月に実施している歩く会は新型コロナウイルスの感染予防のため中止としました。ことができました。

総会・講習会

令和2年8月5日(水)、例年夏はヘルシークッキングとして調理実習を行なっていますが、今回は新型コロナウイルス対策として密集・密接を避けるため総会と講習会を行ないました。総会では今年度の今後の活動内容について会員で話し合いを行い、飛沫の飛びやすい食事やハイキングでの車の移動は避け、講習会を中心に行うこととしました。

講習会では看護師から手洗いについて再確認ということで、グリストラップを用いて、普段と同じように手洗いした後にどのくらい汚れが残っているか確認を行いました。コロナウイルス対策として、普段からきちんと手洗い出来ている方が多かったのですが、再度汚れの残りやすい部位の確認をすることが出来ました。薬剤師からは、糖尿病の薬の種類とその作用について、シックディの

際の対応策等お話を頂きました。普段飲んでいる糖尿病の治療薬について興味をもって話を聞くことが出来ました。

令和2年11月11日(水)、例年は歩く会を開催しますが、新型コロナウイルス対策のため、講習会を行いました。

薬剤師から、体重管理と薬物療法についてのお話をして頂きました。血糖管理をする上で、体重管理の重要性について皆さん理解を深めることが出来ました。

看護師からはインフルエンザや新型コロナウイルスについてのお話と、感染予防についてのお話をして頂きました。手洗い・うがい・マスク着用が基本になる事を再確認することができました。

管理栄養士から、簡単な筋力トレーニング(下肢の筋肉・咀嚼嚥下の筋肉・排泄の為の筋肉を鍛える方法)と栄養バランスの良い食事について紹介しました。

来年度も会員の皆様と一緒に、感染対策をしながら出来る活動を計画し生活習慣病の予防と治療に関する知識を深め、健康増進に努めていきます。

令和2年度（2020年度）

法人年報

第16号

令和4年2月25日 印刷

令和4年3月1日 発行

編集発行 医療法人 博仁会

茨城県常陸大宮市上町313

電話 (0295)-53-1111

F A X (0295)-52-2705

U R L: <http://www.hakujinkai.com/>

E-mail: hakujin@onyx.dti.ne.jp

社会福祉法人 博友会

茨城県常陸大宮市野口平146-1

電話 (0295)-54-2555

F A X (0295)-54-2550

U R L: <http://www.hakuyukai-sfg.com>

E-mail: [jimug@hakuyukai-sfg.com](mailto:jimusg@hakuyukai-sfg.com)

学校法人 志村学園

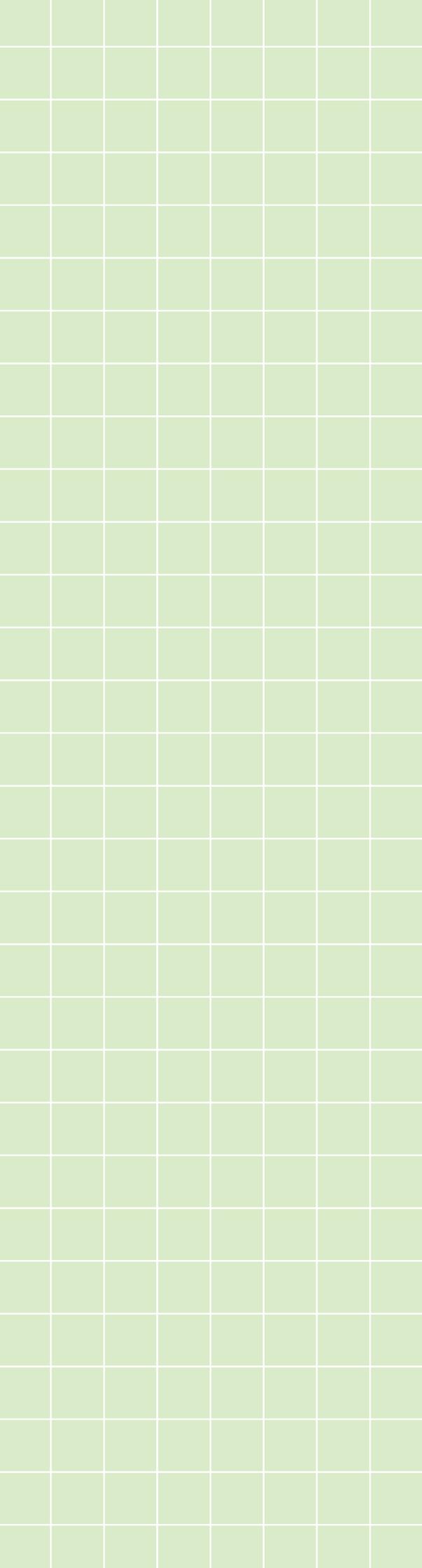
茨城県常陸大宮市下村田2304-4

電話 (0295)-54-1422

F A X (0295)-54-1422

U R L: <http://www.ihnc.ac.jp>

E-mail: info@ihnc.ac.jp



**医療法人 博仁会
社会福祉法人 博友会
学校法人 志村学園**